

いわき市立
美術館年報

平成25年度

目次

沿革	2
展覧会事業	3
常設展	3
企画展	8
実験工房展 一戦後芸術を切り拓く	8
美しき日本 京の四季展	26
みんなで元気になるアート・キャラバン2	29
小企画展	33
日独交流150年記念 安藤信正展	33
～オイレンブルク家との交流、安藤家コレクション～	33
hakobuneプロジェクト	35
歩く方舟 ーいわきへ…。瀬戸内よりー	35
平成25年度 いわき市小・中学生版画展	37
共催展	39
第43回いわき市民美術展覧会	39
普及事業	43
移動美術館	43
講演会	44
ギャラリー・トーク	44
ワークショップ	45
実技講座	47
公開制作	47
映像鑑賞会	48
コンサート&パフォーマンス	48
出版	49
実技講習室の公開	49
図書室の公開	50
実習生の受け入れ	50
共催事業	50
所蔵資料	51
美術品収蔵状況	51
美術品の貸し出し状況	51
所蔵資料に関する状況	52
新収蔵作品	53
管理・運営	56
美術館関係法規 いわき市立美術館条例	56
美術館関係法規 いわき市立美術館管理規則	58
利用者一覧	62
平成25年度当初予算	64
名簿	65
施設案内	66
利用案内	67
東日本大震災報告Ⅲ	68
復興支援活動とアウトリーチ事業	68

沿革

昭和53年 2月	いわき市民ギャラリー主催による「ヘンリームーア展」が開催され盛況をおさめたことが市民の反響をよび、市立美術館建設の機運が高まる
昭和53年 6月	市総合計画の中で、前期に美術館建設計画を盛り込む
昭和54年 5月	美術館建設基本構想委員会を設置、委員6人を委嘱
昭和54年 8月	同委員会より美術館の基本構想について答申
昭和54年11月	基本構想を具体的に検討するため、市民20名による美術館建設審議会を設置
昭和55年 3月	美術品選定評価委員会を設置、委員5名を委嘱
昭和55年 9月	美術館・博物館建設準備室を設置
昭和55年 9月	美術館建設審議会から美術館建設について答申
昭和55年10月	基本設計は、指名競争設計方式で行うことを決める
昭和56年 1月	美術館建設基本設計審議会を設置、委員14名を委嘱
昭和56年 1月	同委員会で佐藤武夫設計事務所の案を選定
昭和56年 9月	美術館実施計画書の提出
昭和56年12月	市議会で美術館工事請負契約を決議
昭和56年12月	建設工事着工
昭和58年11月	竣工
昭和58年12月	市議会において美術館条例を決議
昭和59年 4月	美術館組織発足
昭和59年 4月28日	開館
昭和59年 4月29日	一般公開
昭和59年10月10日	いわき市立美術館友の会発足
平成3年 4月	常設展の観覧料を祝日無料とする
平成4年 4月	企画展の観覧をもって常設展観覧無料とする 7月、8月の金曜日の夜間開館開始
平成4年10月	美術館協議会より「いわき市立美術館振興策」が提出される
平成5年 1月	毎月第2土曜日を小中学生の常設展の観覧無料とする
平成7年 4月	毎月第2、第4土曜日を小中学生の常設展の観覧無料とする
平成12年 3月	美術館協議会より「いわき市立美術館第2次振興策」が提出される
平成14年 4月	障害者、高齢者の観覧を無料とする。また、児童生徒などが土日に観覧する場合、および学校の教育活動などで観覧する場合の観覧料を無料とする
平成15年 9月～12月	大規模改修工事（休館）
平成19年 3月～ 7月	アスベスト除去工事（休館）
平成23年 3月11日	東日本大震災
平成25年 9月～平成26年11月	空気調和設備改修工事（休館）



美術館外観

今日の美術 —ART TODAY—

空調設備改修工事のため前期のみの開催となった。翌年11月まで1年2ヶ月の長期休館を前に、当館の収蔵作品の目玉でもある表現することの自由を謳歌した20世紀の巨匠たちの作品を厳選し、20世紀後半を豊かに彩った現代美術を紹介する「20世紀：美術の悦び」を開催した。

小企画・前期Ⅰでは、同時開催の企画展「実験工房展」に併せて「美術・青春時代～1950年日本～」を開催。美術や音楽、そして文学などジャンルを超えて新しい表現に挑んだ戦後日本の芸術家たちのエネルギーあふれる作品を紹介した。

小企画・前期Ⅱの「平成24年度新収蔵作品より」では、116点の前年度新収蔵作品の中から64点を展示、紹介した。

常設展開連の普及事業として、恒例の定期ギャラリートーク（土曜日）や収蔵作家ワークショップ、春を祝うコンサートなどを開催し好評を得た。一方、夏休みの子供たちを対象としたワークショップ「美術館的‘自由研究ノススメ’」は、参加応募者が無く中止となった。より楽しく、より身近に、より深く鑑賞する機会の創出を目的とする本事業がより多くの子供たちの参加を得る為の更なる工夫の必要を強く感じた。

会 期 前期Ⅰ 2013年 4月 2日(火)～2013年 6月23日(日)
前期Ⅱ 2013年 6月25日(火)～2013年 9月16日(月)
会 場 いわき市立美術館 常設展示室
主 催 いわき市立美術館



作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	たて×よこ×高さ(cm)	素材・技法
【前期I】						
■ 20世紀：美術の悦び						
1	モーリス・ルイス	1912-62	Gamma Beta	1960	260.4×551.2	アクリル彩・カンヴァス
2	カレル・アペル	1921-06	黄色い帽子	1964	81×65	油彩・カンヴァス
3	イヴ・クライン	1928-62	人体測定 ANT66	1960	157×311	水性メディウム、紙・カンヴァス
4	イヴ・クライン	1928-62	火の絵画	1961	132×64	焦げた厚紙、紙
5	ヘレン・フランケンサラー	1928-11	蒼い闘技場	1966	161×150.3	アクリル彩・カンバス
6	アンディ・ウォーホル	1928-87	16のジャッキーの肖像	1964-11	204.8×164	アクリル彩、エナメル、シルクスクリーン・カンヴァス
7	ジャスパール・ジョーンズ	1930	色数字0～9	1969-70	96.5×78.5	リトグラフ・紙
8	ジェームズ・ローゼンクイスト	1933	成長計画	1966	178×356	油彩・カンヴァス
9	フランク・ステラ	1936	グァダループ島のカラカラ	1980	155.5×224	ミクストメディア・紙
10	フランク・ステラ	1936	ウリッド・スケッチ	1967	160.2×160.5	アクリル彩・カンバス
11	ホルスト・アンテス	1936	家族	1970-81	130.5×197	アクリル彩、油彩・カンヴァス
12	アンソニー・グリーン	1939	パッション II	1980-81	160×160	油彩・板・カンヴァス
13	F.フンデルトワッサー	1928-00	ボフツカワの木と移ろう恋ーパースでの一週間	1975	68.6×96.5	ミクストメディア・ファイバーボード
14	アントニー・ゴムリー	1950	見ることを学んでいる	1991	198.1×48.3×28	鉛、ファイバーグラス
■ 小企画 一美術・青春時代／1950年代日本一						
15	桂ゆき	1919-91	えい	1965	162×122	油彩、紙・合板
16	山口長男	1902-99	三つの四角	1956	183×183	油彩・合板
17	村井正誠	1905-99	ねこ	1958	72.8×61	油彩・カンヴァス
18	駒井哲郎	1920-76	芽生え	1955	16.5×27.5	アクアチント、エングレーヴィング・紙
19	駒井哲郎	1920-76	夜の森	1958	21.6×19.1	アクアチント・紙
20	駒井哲郎	1920-76	詩画集「よごれてみない一日」	1970	21×30	インタリオ・紙
21	北代省三	1921-01	ヒステリック・フェノメノン	1948	116.7×116.7	油彩・カンヴァス (1989年再制作)
22	北代省三	1921-01	ホワイトノイズ	1951	72.7×116.7	油彩・カンヴァス (1989年再制作)
23	北代省三	1921-01	窓の中の二つの窓	1953	91×91	油彩・カンヴァス (1989年再制作)
24	北代省三	1921-01	ラディオ・ギャラックス	1995	310×360×360	ジュラルミン、真鍮、鉄、木 (1990年再制作、1990年補彩)
25	北代省三	1921-01	発掘II	1987-94	185×94×11	木
26	北代省三	1921-01	デジャビュII	1987-94	42×90×10	木
27	北代省三	1921-01	『バルキストソロモン』 ジェラルド・ネルヴァル／『暁の女王と精霊の王の物語』より	1987-94	12.7×20×34	木
28	北代省三	1921-01	ケージのプリベアード・ピアノのためのーくさびによる即興	1987-94	24.8×34.9×3	木、真鍮
29	加納光於	1933	燐と花と	1959	41.2×27.1	インタリオ・紙
30	加納光於	1933	花・沈黙	1960	36.2×42.4	インタリオ・紙
31	加納光於	1933	星・反芻学	1962	67.3×33	インタリオ・紙

No. 作家名	生没年	作品名	制作年	たて×よこ×高さ(cm)	素材・技法
32 加納光於、大岡信		アララットの船あるいは空の蜜 (no.5)	1971-72	68×44.2×22.8	木、金属、ガラス、その他
33 山口勝弘	1928	赤い街	1957	59.5×90	油彩・ガラス (ヴィトリース)
34 斎藤義重	1904-01	絵画 7	1960	174×122	油彩・合板
35 元永定正	1922-11	作品	1961	183×138	エナメル・カンヴァス、合板
36 菊畑茂久馬	1935	植物図鑑	1964	202.7×135×10	油彩、木、プラスチック
37 高松次郎	1936-98	点	1961	61.8×42	油彩・カンヴァス
38 高松次郎	1936-98	影 A	1964	211×168×12	油彩・合板
39 高松次郎	1936-98	紙の単体	1972	240×141	紙・布
40 中西夏之	1935	韻 '60	1960	91.6×105.6	ペイント、エナメル、砂、合板

【前期Ⅱ】

■ 20世紀：美術の悦び

1 モーリス・ルイス	1912-62	Gamma Beta	1960	260.4×551.2	アクリル彩・カンヴァス
2 カレル・アペル	1921-06	黄色い帽子	1964	81×65	油彩・カンヴァス
3 イヴ・クライン	1928-62	人体測定 ANT66	1960	157×311	水性メディウム、紙・カンヴァス
4 イヴ・クライン	1928-62	火の絵画	1961	132×64	焦げた厚紙、紙
5 ヘレン・フランケンサラー	1928-11	青い闘技場	1966	161×150.3	アクリル彩・カンバス
6 アンディ・ウォーホル	1928-87	16のジャッキーの肖像	1964-11	204.8×164	アクリル彩、エナメル、シルクスクリーン・カンヴァス
7 パブロ・ピカソ	1881-73	槍を突いた後	1959	53.4×63.7	リノカット・紙
8 パブロ・ピカソ	1881-73	槍	1959	53×63.7	リノカット・紙
9 パブロ・ピカソ	1881-73	母と踊り子と音楽家	1959	64×53	リノカット・紙
10 パブロ・ピカソ	1881-73	三人の女	1959	53×64.2	リノカット・紙
11 パブロ・ピカソ	1881-73	闘牛	1959	53.7×66.5	リノカット・紙
12 パブロ・ピカソ	1881-73	女	1959	64×52.7	リノカット・紙
13 ジェームズ・ローゼンクイスト	1933	成長計画	1966	178×356	油彩・カンヴァス
14 フランク・ステラ	1936	グアダループ島のカラカラ	1980	155.5×224	ミクストメディア・紙
15 フランク・ステラ	1936	ウリッド・スケッチ	1967	160.2×160.5	アクリル彩・カンバス
16 ホルスト・アンテス	1936	家族	1970-81	130.5×197	アクリル彩、油彩・カンヴァス
17 アンソニー・グリーン	1939	パッション II	1980-81	160×160	油彩・板・カンヴァス
18 F. フンデルトワッサー	1928-00	ポフツカワの木と移ろう恋—パースでの一週間	1975	68.6×96.5	ミクストメディア・ファイバーボード
19 アントニー・ゴームリー	1950	見ることを学んでいる	1991	198.1×48.3×28	鉛、ファイバーグラス

■ 小企画 一平成24年度新収蔵作品より一

20 ヴェナンツォ・クロチェッティ	1913-03	サン・ピエトロ大聖堂門扉「秘蹟」 (ひな型最終案)	1958	145×72×3.5	ブロンズ
21 根岸芳郎	1951	84-8-4	1984	180×232	アクリル彩・カンヴァス
22 吉仲正直	1942	素・紫 -64-20	1989	75.7×63.6	油彩・カンヴァス、パネル
23 吉仲正直	1942	向 -8	1996	63×61.5	油彩・カンヴァス
24 吉仲正直	1942	1997-3 知り合う	1997	60×57.5	混合技法・アルシユ紙
25 吉仲正直	1942	1997-4 知り合う 下辺	1997	60×57.5	混合技法・アルシユ紙
26 田口安男	1930	裸婦	1953	72.5×53.2	油彩・カンヴァス
27 田口安男	1930	からみあい	1958	116.7×90.9	油彩・カンヴァス
28 田口安男	1930	ある主題への変奏	1971	50×60	テンペラ・パネル

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	たて×よこ×高さ(cm)	素材・技法
29	田口安男	1930	ぬけ変わりの季節	1977	120×91	テンペラ・パネル
30	田口安男	1930	マダラシダラ手	1986	218.2×290.9	油彩、テンペラ・カンヴァス
31	田口安男	1930	波から焔へ	1986	218.2×290.9	油彩、テンペラ・カンヴァス
32	田口安男	1930	もちあい三つの手うかび	1997	100×73	テンペラ・カンヴァス
33	河口龍夫	1940	マッチ箱の中の昆虫の足-1	2011	5.6×3.6×1	昆虫の足、蜜蝋、硫化カドミウム、天然白亜、亜鉛華、マッチ箱
34	河口龍夫	1940	マッチ箱の中の昆虫の足-2	2011	5.6×3.6×1	昆虫の足、蜜蝋、硫化カドミウム、天然白亜、亜鉛華、マッチ箱
35	河口龍夫	1940	マッチ箱の中の昆虫の足-3	2011	5.6×3.6×1	昆虫の足、蜜蝋、硫化カドミウム、天然白亜、亜鉛華、マッチ箱
36	河口龍夫	1940	マッチ箱の中の昆虫の足-4	2011	5.6×3.6×1	昆虫の足、蜜蝋、硫化カドミウム、天然白亜、亜鉛華、マッチ箱
37	河口龍夫	1940	マッチ箱の中の昆虫の足-5	2011	5.6×3.6×1	昆虫の足、蜜蝋、硫化カドミウム、天然白亜、亜鉛華、マッチ箱
38	河口龍夫	1940	マッチ箱の中の昆虫の足-6	2011	5.6×3.6×1	昆虫の足、蜜蝋、硫化カドミウム、天然白亜、亜鉛華、マッチ箱
39	河口龍夫	1940	失語の祈り 3.17	2011	60.6×45.5	ジェッソ・新聞紙、紙
40	河口龍夫	1940	失語の祈り 3.20	2011	60.6×45.5	蜜蝋、天然白亜、亜鉛華・新聞紙、紙
41	河口龍夫	1940	失語の祈り 4.12	2011	60.6×45.5	蜜蝋、天然白亜、亜鉛華・新聞紙、紙
42	河口龍夫	1940	失語の祈り 4.15	2011	60.6×45.5	ジェッソ・新聞紙、紙
43	河口龍夫	1940	失語の祈り 4.24	2011	60.6×45.5	ジェッソ・新聞紙、紙
44	河口龍夫	1940	失語の祈り 5.1	2011	60.6×45.5	ジェッソ・新聞紙、紙
45	河口龍夫	1940	失語の祈り 6.11	2011	60.6×45.5	ジェッソ・新聞紙、紙
46	河口龍夫	1940	失語の祈り 7.10-1	2011	60.6×45.5	水彩絵具、ジェッソ・新聞紙、紙
47	河口龍夫	1940	失語の祈り 7.10-2	2011	60.6×45.5	水彩絵具、ジェッソ・新聞紙、紙
48	河口龍夫	1940	失語の祈り 7.10-3	2011	60.6×45.5	水彩絵具、ジェッソ・新聞紙、紙
49	河口龍夫	1940	失語の祈り 9.28	2011	60.6×45.5	水彩絵具、ジェッソ・新聞紙、紙
50	河口龍夫	1940	失語の祈り 11.13	2011-12	60.6×45.5	鉛、種子・新聞紙
51	河口龍夫	1940	鎮魂の3月	2011	28.5×11×46	新聞紙、ジェッソ、紐、色鉛筆、種子(蓮)、蜜蝋、銅線、塗料、ウレタンニス
52	河口龍夫	1940	鎮魂の9月	2011	36.5×53.4×36.2	新聞紙、紐、水彩絵具、種子(蓮)、蜜蝋、銅線、塗料、合板、ウレタンニス
53	河口龍夫	1940	鎮魂の12月	2012	40×60×13	新聞紙、紐、塗料、新聞に掲載された作者のカット(太陽と描いたピラミッド)、太陽熱、集材

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	たて×よこ×高さ(cm)	素材・技法
54	河口龍夫	1940	鎮魂の一周年	2012	40×60×16.2	新聞紙、紐、ジェッソ、黄色の塗料、色鉛筆、ウレタンニス、マッチ箱1(鉛、カーネーションの種子、石塑で型取りした臍の緒)、マッチ箱2(鉛、ひまわりの種子、蜜蝋、硫化カドミウム、天然白亜)、マッチ箱3(鉛、蜜蝋、蠅)、集成材
55	河口龍夫	1940	貝の未来-1	2011	29.5×29.5×117.5	貝殻、石塑、水彩絵具
56	河口龍夫	1940	貝の未来-2	2011	28.5×29.7×6.9	貝殻、石塑、水彩絵具
57	河口龍夫	1940	貝の未来-3	2011	26.5×28×7	貝殻、石塑、水彩絵具
58	河口龍夫	1940	貝の未来-4	2011	24×25.5×7.6	貝殻、石塑、水彩絵具
59	河口龍夫	1940	貝の未来-5	2011	13.7×16.4×3.7	貝殻、石塑、水彩絵具
60	河口龍夫	1940	貝の未来-6	2011	23.2×26.2×7	貝殻、石塑、水彩絵具
61	河口龍夫	1940	貝の未来-7	2011	13×14.6×5.6	貝殻、石塑、水彩絵具
62	河口龍夫	1940	貝の未来-9	2011	18.8×21.8×4.1	貝殻、石塑、水彩絵具
63	河口龍夫	1940	貝の未来-15	2011	20.5×23.7×5.8	貝殻、石塑、水彩絵具
64	河口龍夫	1940	貝の未来-16	2011	18.5×12.6×4.7	貝殻、石塑、水彩絵具
65	河口龍夫	1940	貝の未来-17	2011	25.1×28.3×8.5	貝殻、石塑、水彩絵具
66	河口龍夫	1940	貝の未来-18	2011	21.2×18.2×5.4	貝殻、石塑、水彩絵具
67	河口龍夫	1940	貝の未来-19	2011	28×8.2×8	貝殻、石塑、水彩絵具
68	河口龍夫	1940	貝の未来-20	2011	14.8×12.6×6	貝殻、石塑、水彩絵具
69	河口龍夫	1940	貝の未来-21	2011	15.2×15.8×4.5	貝殻、石塑、水彩絵具
70	河口龍夫	1940	貝の未来-32	2011	17.5×8×4.3	貝殻、石塑、水彩絵具
71	河口龍夫	1940	太陽と描いた点	2011	19.2×27.1	太陽熱・紙
72	河口龍夫	1940	太陽と描いた14の点	2011	19.2×27.2	太陽熱・紙
73	河口龍夫	1940	太陽と描いた線	2011	19.8×27.3	太陽熱・紙
74	河口龍夫	1940	太陽と描いたピラミッド	2011	18.6×27.1	太陽熱・紙
75	河口龍夫	1940	一億年前のアンモナイトから	2011	20.1×28.5	鉛筆・和紙、紙
76	河口龍夫	1940	3500万年前のプラタナスの葉から	2011	19.3×22.4	鉛筆・和紙、紙
77	河口龍夫	1940	1億2000万年前のトンボから	2011	17.4×23	鉛筆・和紙、紙
78	河口龍夫	1940	7000万年前の変形アンモナイトから	2011	19×27.4	鉛筆・和紙、紙
79	河口龍夫	1940	5億年前の三葉虫から	2011	12.5×18.2	鉛筆・和紙、紙
80	河口龍夫	1940	DARK BOX 2011	2011	37×60×35	鉄、闇、闇への鉛の封書

実験工房展 一戦後芸術を切り拓く

1951年秋に結成された実験工房（メンバーは造形作家の大辻清司、北代省三、駒井哲郎、福島秀子、山口勝弘、作曲家の佐藤慶次郎、鈴木博義、武満徹、福島和夫、湯浅譲二、ピアニストの園田高弘、詩人・評論家の秋山邦晴、照明家の今井直次、エンジニアの山崎英夫）の特色は、彼らの最初の取り組みが文学と音楽と舞台美術を統合した総合芸術ともいべきバレエ『生きる喜び』の公演であったように、様々な領域の芸術家たち（技術者も含む）が集まり、領域横断的な表現活動を協働で行ったことにある。そして実験工房のもうひとつの特色は、積極的に新たなテクノロジーの導入を試み、アートとテクノロジーの融合化を目指していたことであり、そしてこの二つの特色が結びついた時、テクノロジーの導入を通して多様なジャンルの芸術が結びついた表現活動—即ちインターメディア

としての芸術が生まれ、実験工房はその先駆者として評価され、語られてきた。本展は、これまでその領域横断的な活動ゆえに全体像をとらえることがなかなか出来なかった実験工房を公立美術館として初めて取り上げ、美術、音楽、演劇、映画、ダンスなどが関与してきた様々な芸術活動を物語る絵画、立体、映像、写真、楽譜、各種プログラム等約450点の作品を通して、戦後芸術における重要な運動体として近年再評価されつつある彼らの足跡を紹介した。会期中の催し、特に高橋アキ、荒川 医、サージ・チュレブニンによるコンサート&パフォーマンスが注目を集めた。さらに1階ロビーにおいて「日独交流150年記念 安藤信正展～オイレンブルク家との交流、安藤家コレクション～」が同時開催された。

会 期 2013年4月20日(土)～2013年6月2日(日)
会 場 いわき市立美術館企画展示室
主 催 いわき市立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会、
福島民友新聞社、福島中央テレビ
協 賛 ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン
企画協力 東京パブリッシングハウス
特別協力 武蔵野美術大学 美術館・図書館／造形研究センター



作品リスト

No.	作家名	作品名	制作年	サイズ(縦・高×横×奥行)	技法・材質・形状など
I. 前夜					
I-001		実験工房メンバー集合写真 (撮影：大辻清司)	c.1954	11.9×15.2	写真
■モダンアート夏季講習会／日本アヴァンギャルド美術家クラブ					
I-002	—	「モダンアート夏季講習会」聴講券	1948	7.6×8.5	印刷物
I-003		「モダンアート夏季講習会」受講者の記念写真	1948	11.2×14.1	ゼラチンシルバーブ リント (アルバムに 貼付)
■トリダン／七耀会展					
I-004		「七耀会展」会場にて (集合写真) (撮影：北代省三)	1948	11.4×16.1	ゼラチンシルバーブ リント
I-005		「七耀会展」会場にて、福島秀子	1948	7.7×10.4	ゼラチンシルバーブ リント (アルバムに 貼付)
I-006	北代省三	少女と太陽	1948	31.2×40.5	水彩、紙
I-007	北代省三	白昼夢 (エスキース)	1948	24.7×36.8	鉛筆、紙
I-009	北代省三	レーダー	1948	22.0×17.5	水彩、紙
I-010	北代省三	エントロピー	1848	19.5×22.5	水彩、紙
I-011	岡本太郎	春	1947	25.5×18.2	鉛筆、紙
I-012	北代省三	無題 (エントロピー)	c.1948	23.3×15.6	油彩、カンヴァス
I-013	北代省三	カストールとボルックス	1949/1989	162.0×130.3	油彩、カンヴァス
I-014	山口勝弘	無題	1948	33.3×41.0×1.5	絵具、木
I-015	福島秀子	無題 (母子)	1948	53.0×45.7	油彩、カンヴァス
■世紀／アヴァンギャルド芸術研究会／ブボワール					
I-016	—	「世紀」ニュース第1号	1949	25.4×18.0	印刷物
I-017	—	「世紀」会員証	1949	8.1×8.8	印刷物
I-018	—	「ブボワール」パンフレット	1951	25.2×18.0	印刷物
I-019	—	「アトム」草案	1951	32.9×42.6(紙寸)	インク、紙
I-020	山口勝弘	宇宙の運行	1950	31.8×41.0	油彩、カンヴァス
I-021	山口勝弘	構想：ヴィトリース	1950s	18.2×26.3	クレヨン、紙
I-022	山口勝弘	構想：運動	1950s	13.5×23.1	水彩、インク、紙
I-023	山口勝弘	構想：ヴィトリース	1950s	25.4×35.5	鉛筆、インク、紙
I-024	山口勝弘	ヴィトリース下絵	1950s	26.4×34.8	ビニールテープ、紙
I-025	山口勝弘	無題	1950s	27.0×39.0	水彩、紙
I-026	瀧口修造	『近代芸術』	1938	17.5×13.0	書籍 (三笠全書)
I-027	—	『創美』1948年4月号	1948	29.7×21.0	雑誌
I-028	瀧口修造	ノート (CALDER)	c.1949	25.7×18.2	ノート
I-029	大辻清司	書齋の瀧口修造夫妻	1975	31.5×31.5	ゼラチンシルバーブ リント
I-030	山口勝弘	明日の糧	n.d.	12.2×21.0×8.6	油紙、スポンジ
I-031	著：ジャン＝ポール・サルトル／訳：瀧口修造	「カルダーのモビール」『アメリカ論』(サルトル全集第11巻)	1953	18.2×12.6	書籍 (人文書院)
■美術文化協会／阿部アトリエ					
I-032	大辻清司 (共同制作者：阿部展也)	美術家の肖像	1950/2008	26.9×20.8	ゼラチンシルバーブ リント /k.m.
I-033	大辻清司	美術家の肖像	1950	27.0×18.5	ゼラチンシルバーブ リント
I-034	大辻清司	アトリエの阿部展也	1950	10.8×8.2	ゼラチンシルバーブ リント

No.	作家名	作品名	制作年	サイズ(縦・高×横×奥行)	技法・材質・形状など
I-035	大辻清司	絡まりのオブジェ	1949/2008	20.4×27.4	ゼラチンシルバーク プリント /k.m.
I-036	大辻清司	足について	1949/2008	26.0×20.8	ゼラチンシルバーク プリント /k.m.
I-037	大辻清司	ポートレート	1949/2008	18.9×25.4	ゼラチンシルバーク プリント /k.m.
I-038	福島秀子	魚	1950	41.0×32.0	油彩、カンヴァス
I-039	福島秀子	MP	1950	39.0×34.0	油彩、カンヴァス
■ CIE (ライブラリー／レコード・コンサート)					
I-040	—	「東京フィルハーモニー合唱団 第九演奏会」 (1947年2月2日、東京大学)	1947	10.5×15.0	ゼラチンシルバーク プリント
I-041	—	「CI&E レコード・コンサート」プログラム	1950	18.0×13.0	印刷物
I-042	—	「ニュー・フレンズ・オブ・モダン・ミュージック」 プログラム (1950年5月)	1950	21.0×14.8	印刷物
I-043	—	「ニュー・フレンズ・オブ・モダン・ミュージック」 プログラム (1950年6月)	1950	17.2×19.0	印刷物
I-044	—	「ニュー・フレンズ・オブ・モダン・ミュージック」 プログラム (1950年7月)	1950	17.2×19.0	印刷物
I-045- 1,2	—	CIE ライブラリーでのレコード・コンサートに て	1950	(1)5.5×7.1, (2)5.5×7.1	ゼラチンシルバーク プリント
I-046	ラースロー・モホイ＝ナ ジ	『ザ・ニュー・ヴィジョン』	1938	26.2×20.0	書籍
I-047	ラースロー・モホイ＝ナ ジ	『ヴィジョン・イン・モーション』	1947	28.5×22.7	書籍
I-048	—	「第8回新作曲派協会発表会」プログラム (1951年5月31日、読売ホール) (デザイン： 北代省三)	1951	25.7×18.2	印刷物
I-049	—	「第9回新作曲派協会発表会」プログラム (1952年6月6日、Y.W.C.A.ホール) (デザイン： 北代省三)	1952	25.7×18.2	印刷物
I-050	武満徹	《ロマンス》楽譜	1949	36.8×26.6	インク、紙
■バレエ「失楽園」、「河童」					
I-051	北代省三	『失楽園』のための舞台装置スケッチ	1950	17.8×25.2	鉛筆、紙
I-052	—	横山はるひバレエ公演『河童』ポスター (デザ イン：北代省三)	1951	73.5×52.5	印刷物
I-053- 1,2	—	横山はるひバレエ団『河童』舞台 (撮影：北代 省三)	1951	(1)11.2×16.3, (2)11.4×15.3	ゼラチンシルバーク プリント
I-054	—	横山はるひバレエ団「バレエ・アート・スクー ル公演」プログラム (デザイン：北代省三)	1950	25.9×18.1	印刷物
I-055	—	横山はるひバレエ団「秋季公演」プログラム (デザイン：北代省三)	1951	25.8×18.0	印刷物
I-056	瀧口修造	ノート (Noguchi) に挟んだ記事 (「ダンス・ ノグチ」、『ニューヨーク・タイムズ』1948年2 月28日)	1948	—	新聞
I-057	瀧口修造	「イサム・ノグチの芸術」、『みづゑ』1950年7 月号	1950	29.7×21.0	雑誌 (美術出版社)
I-058	編：加藤健吾 [著：瀧口修造]	『世界報告』第9集「戦後アメリカの七つの芸術」	1948年10月	18.0×12.7	雑誌 (日米通信社)

No.	作家名	作品名	制作年	サイズ(縦・高×横×奥行)	技法・材質・形状など
II. 「実験工房」の時代 1951 - 1957					
■ピカソ祭 バレエ「生きる喜び」					
II-001	—	「ピカソ展」ポスター（日本橋高島屋）（デザイン：北代省三）	1951	73.0×53.0	印刷物
II-002	—	「ピカソ展」出品目録	1951	21.0×15.1	印刷物
II-003	—	「実験工房第1回発表会ピカソ祭」プログラム	1951	26.1×18.5	印刷物
II-004	北代省三	「生きる喜び」舞台模型	1950s	30.0×30.0×30.0 (可変)	紙、針金
II-005	福島秀子	バレエ『生きる喜び』のための衣装デザイン	1951	27.3×19.5	水彩、紙
II-006	—	ピカソ祭バレエ『生きる喜び』舞台模型（撮影：北代省三）	1951	12.2×16.8	ゼラチンシルバープリント
II-007	—	ピカソ祭バレエ『生きる喜び』舞台模型（撮影：北代省三）	1951	8.3×11.9	ゼラチンシルバープリント
II-008	—	《生きる喜び》楽譜	1951	38.0×26.6	インク、鉛筆、紙
■美術映画「北斎」（1951年）					
II-009	—	『北斎』台本（第1稿）	1951	30.5×21.5	印刷物
II-010	—	瀧口修造と映画『北斎』の手塚益雄プロデューサー	1951	12.0×16.5	写真
■実験工房第2回発表会 現代作品演奏会（1952年1月20日、女子学院講堂）					
II-012	—	「実験工房第2回発表会 現代作品演奏会」ポスター（デザイン：北代省三）	1952	44.0×60.0	印刷物
II-013	—	「実験工房第2回発表会 現代作品演奏会」プログラム（デザイン：北代省三）	1952	25.7×18.2	印刷物
II-014	—	「実験工房第2回発表会 現代作品演奏会」チケット（デザイン：北代省三）	1952	6.1×14.9	印刷物
II-015	—	実験工房第2回発表会でメシアン《前奏曲集》を演奏する園田高弘	1952	—	パネル展示
■実験工房第3回発表会（1952年2月1日-10日、タケミヤ画廊）					
II-016	—	「実験工房第3回発表会」案内状（デザイン：北代省三）	1952	9.1×14.0	印刷物
II-017	山口勝弘	ヴィトリヌ No.1	1952	17.8×21.0×7.5	油彩、ガラス、木板
II-018	山口勝弘	ヴィトリヌ No.6	1952	55.3×64.5×9.7	ガラス、油彩、板、紙
■実験工房第4回発表会 現代作品演奏会（1952年8月9日、女子学院講堂）					
II-019	—	「実験工房第4回発表会」プログラム（デザイン：北代省三）	1952	25.7×18.2	印刷物
II-020	デザイン：北代省三	「実験工房第4回発表会」案内状（デザイン：北代省三）	1952	9.1×14.1	印刷物
II-021	デザイン：北代省三	「実験工房第4回発表会」チケット	1952	5.0×14.1	印刷物
II-022	撮影：北代省三	「実験工房第4回発表会」で演奏する園田高弘（撮影：北代省三）	1952	12.0×16.6	ゼラチンシルバープリント
II-023	—	「実験工房第4回発表会」で鈴木博義《二つのピアノ曲》を初演する長松純子	1952	10.9×15.8	ゼラチンシルバープリント
II-024	—	渡欧する園田高弘を囲んで	1952	—	パネル展示
II-025	北代省三	スペース・モデュレーター	1952/1994	180.0×160.0×130.0	木（檜）、和紙
II-026	北代省三	スペース・モデュレーター マケット	1990	30.6×23.5×11.5	木、和紙
II-027	—	スペース・モデュレーター（撮影：北代省三）	1952	12.0×16.6	ゼラチンシルバープリント
II-028	湯浅譲二	《二つのパストラール》楽譜	1952	31.4×21.8	インク、紙

No.	作家名	作品名	制作年	サイズ(縦・高×横×奥行)	技法・材質・形状など
II-029	武満徹	《遮られない休息Ⅰ》楽譜	1952	35.2×26.2	インク、紙
II-030	武満徹	《遮られない休息Ⅲ(愛のうた)》楽譜	1959/69	33.5×25.3	インク、紙
■実験工房第5回発表会(1953年9月30日、第一生命ホール)					
II-031		「実験工房第5回発表会」ポスター (デザイン:山口勝弘)	1953	19.0×54.0	印刷物
II-032		「実験工房第5回発表会」プログラム (デザイン:北代省三)	1953	25.7×18.2	印刷物
II-033		「実験工房第5回発表会」チラシ (デザイン:北代省三)	1953	18.5×12.7	印刷物
II-034		「実験工房第5回発表会」案内状 (デザイン:山口勝弘)	1953	10.0×14.8	印刷物
II-035		「実験工房第5回発表会」舞台(『テープレコーダーのための詩』上演時)(撮影:北代省三)	1953	12.0×16.7	ゼラチンシルバープリント
II-036	湯浅譲二	《スリー・スコア・セット》楽譜	1953	31.7×22.5	インク、紙
II-037	福島和夫	《途絶えない詩》楽譜	1953	37.4×26.8	インク、紙
II-038	秋山邦晴	テープレコーダーのための詩『作品B『囚われた女』』台本	1953	26.0×18.5	印刷物
II-039	構成:北代省三/ 音楽:鈴木博義、湯浅譲二	オートスライド『見知らぬ世界の話』	1953/1986	111スライド、8分 46秒	DVD
II-040	構成:山口勝弘/ 音楽:鈴木博義/ 撮影:北代省三	オートスライド『試験飛行家W・S氏の眼の冒険』	1953/1986	77スライド、4分 51秒	DVD
II-041	構成:福島秀子/ 音楽:福島和夫	オートスライド『水泡は創られる』	1953/1986	66スライド、6分 18秒	DVD
II-042	映像制作:有馬純寿/ 原画:駒井哲郎/ 音楽:湯浅譲二/ 朗読:池宮中夫	オートスライド『レスピュエグ』(再現)	1953/2012	—	DVD
II-043- 1~3		オートスライド『見知らぬ世界の話』カット写真		(1)10.8×15.0, (2)10.7×15.3, (3)10.8×15.2	ゼラチンシルバープリント
II-044- 1~6		北代省三宅でオート・スライド『見知らぬ世界の話』を制作するメンバー(撮影:大辻清司)	1953	(1)11.9×16.7 (2)~(5)11.9×8.1 (6)8.1×11.9	ゼラチンシルバープリント
II-045- 1~3		オートスライド『試験飛行家W・S氏の眼の冒険』カット写真	1953	(1)10.2×14.7, (2)11.5×15.3, (3)11.5×15.4	ゼラチンシルバープリント
II-046- 1,2		東通信工業(現ソニー)のスタジオでオート・スライド『試験飛行家W・S氏の眼の冒険』の編集打ち合わせ中の山口勝弘と鈴木博義(撮影:大辻清司)	1953	各10.7×15.8	ゼラチンシルバープリント
II-047- 1~3		オートスライド『水泡は創られる』カット写真	1953	01:30.6×25.5, 02: 30.8×25.4, 03: 30.9×25.5	ゼラチンシルバープリント
II-048	福島秀子	オートスライド『水泡は創られる』詩の草稿	1953	21.0×29.5	インク、紙
II-049- 1~6	駒井哲郎	オートスライド『レスピュエグ』スライド原画	1953	各12.1×16.5	パステル、グワッシュ、紙
II-050- 1,2	駒井哲郎	オート・スライド『レスピュエグ』スライド原画	1953	各16.3×12.1	パステル、グワッシュ、紙

No.	作家名	作品名	制作年	サイズ(縦・高×横×奥行)	技法・材質・形状など
II-052	著：ロベール・ガンゾ/ 訳：平田文也/ 挿画：駒井哲郎	訳詩集『レスビュエグ』	1955		書籍：22.6×15.9、書籍（日本未来派発 挿画：(1)4.7×3.2、行所） (2)8.1×11.9、(3) 「オリノコ」12.0× 7.9
II-053	湯浅譲二	《レスビュエグ》楽譜	1953	31.4×21.8	インク、紙
■実験工房 シェーンベルク作品演奏会（1954年10月9日、山葉ホール）					
II-054	—	「実験工房 シェーンベルク作品発表会」プログ ラム（表紙：北代省三）		25.7×18.2	印刷物
II-055	—	「実験工房 シェーンベルク作品発表会」チラシ	1953	20.5×14.7	印刷物
II-056	—	「実験工房 シェーンベルク作品発表会」チケット ト（デザイン：北代省三）	1953	7.3×17.4	印刷物
■「神の国から谷底みれば」（1954年10月1日－12月27日、日劇ミュージックホール）					
II-057	—	『神の国から谷底みれば』パンフレット	1954	28.8×20.8	印刷物
II-058	—	『神の国から谷底みれば』第10景「ある神様の ヴィジョン」のための撮影風景	1954	(1)11.5×11.5、(2) 11.6×11.4	ゼラチンシルバーク リント
■映画『モビールとヴィトリヌ』					
II-059	—	「抽象映画特集」リーフレット（1955年4月、 国立美術館フィルムライブラリー）	1955	8.6×17.9	印刷物
■APN					
II-060	構成：北代省三／撮影：大 辻清司	「APN」、『アサヒグラフ』1953年1月7日号	1953	36.2×25.8	雑誌
II-061- 1	構成：北代省三／撮影：大 辻清司	「APN」（『アサヒグラフ』1953年1月7日号） のための構成	1953	15.7×11.4	ゼラチンシルバーク リント
II-061- 2	構成：北代省三／撮影：大 辻清司	「APN」（『アサヒグラフ』1953年1月7日号） のための構成	1953	11.7×16.2	ゼラチンシルバーク リント
II-062	構成：山口勝弘／撮影：大 辻清司	「APN」、『アサヒグラフ』1953年1月21日号	1953	36.2×25.8	雑誌
II-063- 1	構成：山口勝弘／撮影：大 辻清司	「APN」（『アサヒグラフ』1953年1月21日号） のための構成	1953	14.0×8.9	ゼラチンシルバーク リント
II-063- 2	構成：山口勝弘／撮影：大 辻清司	「APN」（『アサヒグラフ』1953年1月21日号） のための構成	1953	14.0×8.9	ゼラチンシルバーク リント
II-063- 3	構成：山口勝弘／撮影：大 辻清司	「APN」（『アサヒグラフ』1953年1月21日号） のための構成	1953	13.0×8.9	ゼラチンシルバーク リント
II-063- 5	構成：山口勝弘／撮影：大 辻清司	「APN」（『アサヒグラフ』1953年1月21日号） のための構成	1953	14.0×8.9	ゼラチンシルバーク リント
II-064	構成：山口勝弘／撮影：大 辻清司	「APN」（『アサヒグラフ』1953年2月11日号）	1953	36.2×25.8	雑誌
II-065- 1	構成：山口勝弘／撮影：大 辻清司	「APN」（『アサヒグラフ』1953年2月11日号） のための構成	1953	25.6×15.4	ゼラチンシルバーク リント
II-065- 2	構成：山口勝弘／撮影：大 辻清司	「APN」（『アサヒグラフ』1953年2月11日号） のための構成	1953	25.5×15.5	ゼラチンシルバーク リント
II-065- 3	構成：山口勝弘／撮影：大 辻清司	「APN」（『アサヒグラフ』1953年2月11日号） のための構成	1953	15.5×13.0	ゼラチンシルバーク リント
II-065- 4	構成：山口勝弘／撮影：大 辻清司	「APN」（『アサヒグラフ』1953年2月11日号） のための構成	1953	21.9×13.9	ゼラチンシルバーク リント
II-067	構成・撮影：北代省三	「APN」（『アサヒグラフ』1953年3月4日号） のための構成	1953	14.9×21.5	ゼラチンシルバーク リント
II-068	構成：山口勝弘／撮影：大 辻清司	「APN」、『アサヒグラフ』1953年3月18日号	1953	36.2×25.8	雑誌

No.	作家名	作品名	制作年	サイズ(縦・高×横×奥行)	技法・材質・形状など
II-069-1	構成：山口勝弘／撮影：大辻清司	「APN」(『アサヒグラフ』1953年3月18日号)ののための構成	1953	14.0×22.8	ゼラチンシルバープリント
II-070	構成・撮影：北代省三	「APN」、『アサヒグラフ』1953年4月8日号	1953	36.2×25.8	雑誌
II-071	構成・撮影：北代省三	「APN」(『アサヒグラフ』1953年4月8日号)ののための構成	1953	12.2×8.0	ゼラチンシルバープリント
II-072	構成：山口勝弘／撮影：大辻清司	「APN」、『アサヒグラフ』1953年5月13日号	1953	36.2×25.8	雑誌
II-073-1	構成：山口勝弘／撮影：大辻清司	「APN」(『アサヒグラフ』1953年5月13日号)ののための構成	1953	16.5×12.8	ゼラチンシルバープリント
II-073-2	構成：山口勝弘／撮影：大辻清司	「APN」(『アサヒグラフ』1953年5月13日号)ののための構成	1953	16.8×12.4	ゼラチンシルバープリント
II-073-3	構成：山口勝弘／撮影：大辻清司	「APN」(『アサヒグラフ』1953年5月13日号)ののための構成	1953	25.0×15.6	ゼラチンシルバープリント
II-075-1	構成・撮影：北代省三	「APN」(『アサヒグラフ』1953年5月27日号)ののための構成	1953	15.3×10.1	ゼラチンシルバープリント
II-075-2	構成・撮影：北代省三	「APN」(『アサヒグラフ』1953年5月27日号)ののための構成	1953	15.5×11.3	ゼラチンシルバープリント
II-076	構成：山口勝弘／撮影：大辻清司	「APN」、『アサヒグラフ』1953年6月10日号	1953	36.2×25.8	雑誌
II-077-1	構成：山口勝弘／撮影：大辻清司	「APN」(『アサヒグラフ』1953年6月10日号)ののための構成	1953	18.3×14.7	ゼラチンシルバープリント
II-077-2	構成：山口勝弘／撮影：大辻清司	「APN」(『アサヒグラフ』1953年6月10日号)ののための構成	1953	15.7×11.1	ゼラチンシルバープリント
II-078	構成：山口勝弘／撮影：大辻清司	「APN」(『アサヒグラフ』1953年7月22日号)	1953	36.2×25.8	雑誌
II-079-1	構成：山口勝弘／撮影：大辻清司	「APN」(『アサヒグラフ』1953年7月22日号)ののための構成	1953	25.5×15.4	ゼラチンシルバープリント
II-079-2	構成：山口勝弘／撮影：大辻清司	「APN」(『アサヒグラフ』1953年7月22日号)ののための構成	1953	19.4×13.3	ゼラチンシルバープリント
II-080	構成：山口勝弘／撮影：大辻清司	「APN」、『アサヒグラフ』1953年9月2日号	1953	36.2×25.8	雑誌
II-081-1	構成：山口勝弘／撮影：大辻清司	「APN」(『アサヒグラフ』1953年9月2日号)ののための構成	1953	17.0×13.8	ゼラチンシルバープリント
II-081-2	構成：山口勝弘／撮影：大辻清司	「APN」(『アサヒグラフ』1953年9月2日号)ののための構成	1953	24.8×15.5	ゼラチンシルバープリント
II-082	構成：北代省三	「APN」、『アサヒグラフ』1953年9月9日号	1953	36.2×25.8	雑誌
II-083-1	構成：北代省三	「APN」(『アサヒグラフ』1953年9月9日号)ののための構成	1953	16.5×12.0	フォトグラム
II-083-2	構成：北代省三	「APN」(『アサヒグラフ』1953年9月9日号)ののための構成	1953	16.6×12.0	フォトグラム
II-085-1	構成：山口勝弘／撮影：大辻清司	「APN」(『アサヒグラフ』1953年10月7日号)ののための構成	1953	20.5×14.7	ゼラチンシルバープリント
II-085-3	構成：山口勝弘／撮影：大辻清司	「APN」(『アサヒグラフ』1953年10月7日号)ののための構成	1953	21.0×15.5	ゼラチンシルバープリント
II-086	構成：山口勝弘／撮影：大辻清司	「APN」、『アサヒグラフ』1953年11月11日号	1953	36.2×25.8	雑誌
II-087-2	構成：山口勝弘／撮影：大辻清司	「APN」(『アサヒグラフ』1953年11月11日号)ののための構成	1953	21.2×14.2	ゼラチンシルバープリント
II-087-3	構成：山口勝弘／撮影：大辻清司	「APN」(『アサヒグラフ』1953年11月11日号)ののための構成	1953	17.5×14.2	ゼラチンシルバープリント

No.	作家名	作品名	制作年	サイズ(縦・高×横×奥行)	技法・材質・形状など
II-088	構成：山口勝弘／撮影：大辻清司	「APN」、『アサヒグラフ』1953年12月16日号	1953	36.2×25.8	雑誌
II-089-1	構成：山口勝弘／撮影：大辻清司	「APN」(『アサヒグラフ』1953年12月16日号)の ための構成	1953	21.0×14.3	ゼラチンシルバー プリント
II-089-2	構成：山口勝弘／撮影：大辻清司	「APN」(『アサヒグラフ』1953年12月16日号)の ための構成	1953	19.3×14.3	ゼラチンシルバー プリント
II-092	構成：浜田浜雄／撮影：北代省三	「APN」、『アサヒグラフ』1954年1月20日号	1954	36.2×25.8	雑誌
II-093-1	構成：浜田浜雄／撮影：北代省三	「APN」(『アサヒグラフ』1954年1月20日号)の ための構成	1954	30.5×22.2	ゼラチンシルバー プリント
II-093-2	構成：浜田浜雄／撮影：北代省三	「APN」(『アサヒグラフ』1954年1月20日号)の ための構成	1954	30.5×22.2	ゼラチンシルバー プリント
II-094	構成：山口勝弘／撮影：大辻清司	「APN」の ための構成	c.1953	16.8×12.2	ゼラチンシルバー プリント
II-095	構成：駒井哲郎／撮影：大辻清司	「APN」、『アサヒグラフ』1953年3月25日号)	1953	36.2×25.8	雑誌
II-096	構成：駒井哲郎／撮影：大辻清司	「APN」、『アサヒグラフ』1953年6月17日号	1953	36.2×25.8	雑誌
II-097	構成：斎藤義重／撮影：大辻清司	「APN」、『アサヒグラフ』1953年1月14日号	1953	36.2×25.8	雑誌
II-099	構成：斎藤義重／撮影：大辻清司	「APN」、『アサヒグラフ』1953年2月18日号	1953	36.2×25.8	雑誌
II-100	構成：斎藤義重／撮影：大辻清司	「APN」(『アサヒグラフ』1953年2月18日号)の ための構成	1953	16.7×12.1	ゼラチンシルバー プリント
II-101	構成：斎藤義重／撮影：大辻清司	「APN」、『アサヒグラフ』1953年3月11日号	1953	36.2×25.8	雑誌
II-102-1~5	構成：斎藤義重／撮影：大辻清司	「APN」(『アサヒグラフ』1953年3月11日号)の ための構成	1953	(1)18.0×13.3, (2)21.5×14.5, (3)15.4×14.7, (4)14.0×8.9, (5)8.0×6.6	ゼラチンシルバー プリント
II-104-1~5	構成：斎藤義重／撮影：大辻清司	「APN」(『アサヒグラフ』1953年4月15日号)の ための構成	1953	(1)11.1×8.0, (2)12.7×8.1, (3)11.7×8.5, (4)10.2×8.1, (5)8.2×7.4	ゼラチンシルバー プリント
II-105	構成：斎藤義重／撮影：大辻清司	「APN」(『アサヒグラフ』1953年5月6日号)	1953	36.2×25.8	雑誌
II-106	構成：斎藤義重／撮影：大辻清司	「APN」(『アサヒグラフ』1953年5月6日号)の ための構成	1953	14.1×8.9	ゼラチンシルバー プリント
II-108	構成：斎藤義重／撮影：大辻清司	「APN」(『アサヒグラフ』1953年6月3日号)の ための構成	1953	21.9×15.5	ゼラチンシルバー プリント
II-109-1,2	大辻清司	瀧口と実験工房メンバーの浦安訪問	1957/2003	(1)21.0×21.2, (2)19.6×22.6	ゼラチンシルバー プリント /k.m.
II-110	構成：浜田浜雄／撮影：大辻清司	「APN」、『アサヒグラフ』1953年9月30日号	1953	36.2×25.8	雑誌
II-111-1	構成：浜田浜雄／撮影：大辻清司	「APN」(『アサヒグラフ』1953年9月30日号)の ための構成	1953	16.5×12.0	ゼラチンシルバー プリント
II-111-2	構成：浜田浜雄／撮影：大辻清司	「APN」(『アサヒグラフ』1953年9月30日号)の ための構成	1953	16.5×12.0	ゼラチンシルバー プリント

No.	作家名	作品名	制作年	サイズ(縦・高×横×奥行)	技法・材質・形状など
■グラフィック集団					
II-112	大辻清司・石元泰博・辻彩子	『キネカリグラフ』	1955/1980s	—	DVD
II-113	編集：グラフィック集団／ 撮影：杵島隆、北代省三	『グラフィック集団によるマイクログラフィック ク〈袖珍写真集〉』	1960	書籍：8.5×8.5、 シート：54.4× 76.8	書籍
II-114	編集：グラフィック集団	『商業写真と特殊技術』	1954	21.3×15.3	書籍(ダヴィッド社)
II-115	高島屋	お中元の栞(カラー写真：グラフィック ク集団)	1958	36.5×25.8	印刷物
II-116	高島屋	お歳暮の栞(カラー写真：グラフィック ク集団)	1958	36.5×25.8	印刷物
■交友記録					
II-117	北代省三	『鎌倉散歩』より	1957	—	デジタル上映
II-118	谷川俊太郎	詩集『62のソネット』	1953	18.5×13.5	書籍(創元社)
II-119		実験工房メンバーによる那須高原への旅	1950s	10.5×15.5	ゼラチンシルバーブ リント
II-120		実験工房のプライベートフィルム(撮影：北代 省三)	1950s	—	8mm フィルムから のデジタル上映
■バレエ実験劇場					
II-121		「バレエ実験劇場公演」ポスター(写真：北代 省三)	1955	79.0×54.0	印刷物
II-122	—	「バレエ実験劇場」プログラム(写真：北代省三)	1955	25.7×18.2	印刷物
II-123	—	「バレエ実験劇場」企画書	1955	25.6×18.2	印刷物
II-124	北代省三	『未来のイヴ』舞台模型	1955/1990	c40.0×40.0×40.0	紙、ビニール、針金
II-125	大辻清司	『未来のイヴ』舞台模型(ポートフォリオ 『eyewitness』より)	1955/2008	20.0×25.5	ゼラチンシルバーブ リント/m.k.
II-126	大辻清司	バレエ実験劇場より『未来のイヴ』	1955	—	35mm フィルムから のデジタルスライド 上映
II-127	大辻清司	バレエ実験劇場より『乞食王子』	1955	—	35mm フィルムから のデジタルスライド 上映
II-128	大辻清司	バレエ実験劇場より『イルミナシオン』	1955	—	35mm フィルムから のデジタルスライド 上映
II-129	大辻清司	『未来のイヴ』舞台写真 (ポートフォリオ『eyewitness』より)	1955/2008	20.0×25.5	ゼラチンシルバーブ リント/m.k.
II-130	大辻清司	『乞食王子』(ポートフォリオ『eyewitness』より)	1955/2008	20.0×25.5	ゼラチンシルバーブ リント/m.k.
II-131	大辻清司	『イルミナシオン』 (ポートフォリオ『eyewitness』より)	1955/2008	20.0×25.5	ゼラチンシルバーブ リント/m.k.
II-132	福島秀子	『乞食王子』舞台装置デザイン	1955	24.8×35.8	水彩、鉛筆、インク、 紙
II-133	福島秀子	『サーカス・ヴァリエーション』舞台装置デザ イン	1954	27.0×38.0	水彩、鉛筆、インク、 紙
II-134	—	「橘バレエ学校 五周年記念公演」プログラム	1954	18.1×17.2	印刷物
■実験工房 室内楽作品演奏会					
II-135		「実験工房 室内楽作品演奏会」ポスター(デザ イン：山口勝弘)	1955	65.0×53.0	印刷物
II-136	—	「実験工房 室内楽作品演奏会」プログラム	1955	25.5×18.2	印刷物

No.	作家名	作品名	制作年	サイズ(縦・高×横×奥行)	技法・材質・形状など
II-137	—	「実験工房 室内楽作品演奏会」チケット	1955	7.1×14.9	印刷物
II-138	佐藤慶次郎	《ピアノのための5つの短詩》楽譜	1953	35.3×26.0	インク、紙
II-139	佐藤慶次郎	《コンポジション・モノジェニック》楽譜	1955	33.0×26.0	インク、紙
II-140	佐藤慶次郎	《コンポジション・モノジェニック》作曲ノート	c.1955	25.6×18.5	鉛筆、インク、紙
II-141	湯浅譲二	《七人の奏者のためのプロジェクトンズ》楽譜	1955	40.0×28.4	インク、紙
II-142	武満徹	《室内協奏曲》楽譜	1955	37.9×26.8	鉛筆、インク、紙
■実験工房作品展・絵画彫刻写真					
II-143	—	「実験工房作品展・絵画彫刻写真」案内状	1955	10.1×14.8	印刷物
■円型劇場形式による創作劇の夕					
II-144	—	「円形劇場形式による創作劇の夕」プログラム	1955	25.6×18.5	印刷物
II-145	—	冊子『月に憑かれたピエロ』（訳詩：秋山邦晴）	1955	18.0×12.7	印刷物
II-146-	北代省三	『月に憑かれたピエロ』のための仮面スケッチ	1955	各31.0×42.0	鉛筆、水彩ほか、紙
1~5					
II-147-	北代省三	『月に憑かれたピエロ』のための小道具スケッチ	1955	各31.0×22.0~ 24.5	鉛筆ほか、紙
1~4					
II-148-	北代省三	『月に憑かれたピエロ』のための大道具スケッチ	1955	(1)34.0×24.7、(2) (3)24.7×34.0	鉛筆、インクほか、 紙
1~3					
II-149-	福島秀子	『月に憑かれたピエロ』衣装スケッチ	1955	各25.0×35.7	水彩、鉛筆、紙
1,2					
II-150-	北代省三	『月に憑かれたピエロ』舞台写真	1955	各25.3×20.3（紙 寸）	ゼラチンシルバーク プリント
1~11					
II-151	大辻清司	『月に憑かれたピエロ』舞台写真	1955	—	35mm フィルムから のデジタルスライド 上映
II-152-	—	『月に憑かれたピエロ』カラーズライド	1955	—	パネル展示
1~14					
II-153	—	『美術批評』1956年1月号	1956	20.9×15.0	雑誌（美術出版社）
■映画『銀輪』（1956年、新理研映画製作）					
II-154	—	『銀輪』	1956	—	DVD
II-155	—	『銀輪』より	c.1955	11.6×11.4	ゼラチンシルバーク プリント
II-156-	—	『銀輪』制作中の写真（撮影：北代省三）	c.1955	(1)11.5×11.6、 (2)11.6×11.4、 (3)10.5×16.1	ゼラチンシルバーク プリント
1~3					
■ミュージック・コンクレート／電子音楽オーディション（1956年2月4日、山葉ホール）					
II-157	—	「ミュージック・コンクレート／電子音楽オーディション」プログラム（表紙作品：山口勝弘）	1956	14.1×15.0	印刷物
II-158	—	「ミュージック・コンクレート／電子音楽オーディション」チケット	1956	12.9×18.5	印刷物
II-159-	—	「ミュージック・コンクレート／電子音楽オーディション」会場写真（撮影：大辻清司、会場構成：山口勝弘）	1956/2012	(1) (2)17.5×26.4、 (3)26.4×17.5cm	ゼラチンシルバーク プリント
1~3					
■実験工房メンバーによる新しい視覚と空間を楽しむ夏のエキシビション（1956年8月1日-15日／16日-31日、新宿風月堂）					
II-160	—	「実験工房メンバーによる新しい視覚と空間を楽しむ夏のエキシビション」リーフレット	1956	18.7×25.6(二つ 折)	印刷物
II-161	撮影：北代省三	「実験工房メンバーによる新しい視覚と空間を楽しむ夏のエキシビション」会場写真	1956	—	パネル展示

No.	作家名	作品名	制作年	サイズ(縦・高×横×奥行)	技法・材質・形状など
II-162	山口勝弘	ヴィトリース 空虚な眼	1952	56.0×65.0cm	鉛筆、型板ガラス、ミクストメディア
II-163	山口勝弘	降りてくる華	1956	52.8×45.0	アクリル絵具、ガラス
II-164	北代省三	スペース・モデュレーター (モバイル/ヴァーティカルタイプ)	1956/1992	c.201.0×100.3×100.3cm(可変)	木、和紙
II-165	北代省三	スペース・モデュレーター (モバイル/ホリゾントルタイプ)	1956/1992	c.28.0×202.0×202.0(可変)	木、和紙
■花柳寿々撰・寿々紫リサイタル					
II-166		「花柳寿々撰・寿々紫リサイタル」プログラム	1957	29.7×21.0	印刷物
II-167	北代省三	蝕る日の軌跡	1956-57/ 1988-90	222.2×320.0× 320.0(可変)	真鍮、ジェラルミン
II-168		蝕る日の軌跡 (撮影：北代省三)	1956	30.2×25.2	ゼラチンシルバークリント
II-169		『ジョン・ケージ曲“アモレス”による「松風」』舞台写真 (撮影：北代省三)	1957	30.2×25.2	ゼラチンシルバークリント
II-170	福島秀子	『可愛い乙女』衣装デザイン	1957	35.8×24.1	鉛筆、水彩、紙
■第1回現代音楽のタアルス・ノヴァ (1957年3月28日、第一生命ホール)					
II-171		『ars nova』(写真構成：北代省三、編集：秋山邦晴)	1957	25.3×18.2	印刷物
■実験工房ピアノ作品演奏会 (1957年6月22日プリヂェストン美術館)					
II-172	—	「実験工房ピアノ作品演奏会」プログラム	1957		パネル展示
II-173	湯浅譲二	《内触覚的宇宙》楽譜	1957	34.5×26.3	インク、紙
II-174	佐藤慶次郎	《ピアノのための悼詩》楽譜	1955	31.5×24.0	インク、紙
■実験工房メンバーによるサマー・エキシビション (1957年8月1日-15日/16日-31日、新宿風月堂画廊)					
II-175	—	「実験工房のメンバーによるサマー・エキシビション」リーフレット	1957	18.1×25.6(二つ折)	印刷物
II-176	撮影者不詳	《福島秀子「金網レリーフ」》	1957	20.0×20.4	ゼラチンシルバークリント
II-177	撮影者不詳	《福島秀子「金網レリーフ」》	1957	13.3×25.0	ゼラチンシルバークリント
■北代省三					
II-178	北代省三	題名不詳	1951	37.2×24.8	水彩、紙
II-179	北代省三	光合成	c.1951	36.0×26.8	水彩、紙
II-180	北代省三	カインの工房 (パイル)	1951	27.3×22.0	油彩、ガラス
II-181	北代省三	マイノス王のラヴィリントス	1951	23.2×36.2	水彩、紙
II-182	北代省三	貢ぎもの	1952/1990	34.3×40.9	油彩、カルトン
II-183	北代省三	回転する面による構成	c.1951	27.3×22.2	油彩、カンヴァス
II-184	北代省三	回転する面による構成	1951	34.2×24.5	インク、水彩、紙
II-185	北代省三	回転する面による構成	c.1952	34.8×22.0	水彩、鉛筆、紙
II-186	北代省三	楽園喪失 (回転する面による構成)	c.1952-53	72.6×60.3	油彩、合板、カルトン
II-188	北代省三	エウクレイデスの世界	1951/ 1988-91	60.6×50.0	油彩、カルトン
II-190	北代省三	モバイル・オブジェ (回転する面による構成)	1953	65.0×120.0× 120.0(可変)	ジェラルミン、アルミ、鉄
II-191	北代省三	空中都市	1952/1991	41.1×32.2	油彩、カルトン
II-192	北代省三	空中庭園	1952/1991	38.6×27.2	油彩、カルトン
II-193	北代省三	メタル・フィッシュ (モバイル・オブジェ)	1953/1988	67.0×124.0× 124.0(可変)	鉄、塗装ラッカー

No.	作家名	作品名	制作年	サイズ(縦・高×横×奥行)	技法・材質・形状など
II-194	北代省三	シーラカンズ	1953/1990	124.0×151.0× 151.0(可変)	鉄、真鍮、塗装
II-197	北代省三	冥府のオルフェウス	1953	41.0×31.8	油彩、木製パネル
II-198		「オポーリン・ピアノ演奏会」ポスター(デザイン:北代省三)	1951	60.5×51.7	印刷物
II-199	—	「ウォルター・ギーゼキング演奏会」プログラム(デザイン:北代省三)	1953	25.5×18.5	印刷物
II-200	北代省三	「ウォルター・ギーゼキング演奏会」プログラム表紙のための写真	1953	8.3×13.5	ゼラチンシルバープリント
II-201	—	「ウォルター・ギーゼキング演奏会」チケット(デザイン:北代省三)	1953	8.4×20.1	印刷物
II-202	北代省三	「画家から写真家へ」、『芸術新潮』1956年9月号	1956	21.0×14.9	雑誌(新潮社)
II-203	北代省三	線の構成/雨 [『別冊アトリエ』1957年5月号]	1957	27.5×31.8	ゼラチンシルバープリント/s.h.
II-204	北代省三	線の構成/曲線 [『別冊アトリエ』1957年5月号]	1957	27.5×31.5	ゼラチンシルバープリント/s.h.
II-205	北代省三	東京の美学(二つの視覚)/汐留駅 [『芸術新潮』1956年10月号]	1956	34.8×22.0	ゼラチンシルバープリント/s.h.
II-206	北代省三	東京の美学(二つの視覚)/飯田橋・厚生年金病院 [『芸術新潮』1956年10月号]	1956	34.8×27.4	ゼラチンシルバープリント/s.h.
II-207	北代省三	暮れる時 [秋山邦晴「空間と現実感の交差/アンデパンダン展から」『読売新聞』1956年3月14日]	1956	25.2×34.9	ゼラチンシルバープリント/s.h.
II-208	北代省三	手 [瀧口修造「課題による写真 手7」『読売新聞』1956年5月2日]	1956	26.7×34.9	ゼラチンシルバープリント/s.h.
II-209- 1~3	北代省三	把手	1964	各27.8×23.0(紙付)	ゼラチンシルバープリント/s.h.
■大辻清司					
II-210	大辻清司	新宿・夜	1952/2008	21.0×21.0	ゼラチンシルバープリント/k.m.
II-211	大辻清司	新宿・夜	1952/2008	17.5×21.0	ゼラチンシルバープリント/k.m.
II-212	大辻清司	開けるな	1953/2008	21.0×21.0	ゼラチンシルバープリント/k.m.
II-213	大辻清司	陳列窓	1956/2008	21.0×21.0	ゼラチンシルバープリント/k.m.
II-214	大辻清司	陳列窓	1956/2008	21.0×21.0	ゼラチンシルバープリント/k.m.
II-215	大辻清司	無言歌	1956/2008	20.9×20.9	ゼラチンシルバープリント/k.m.
II-216	大辻清司	氷紋	1956/2008	21.0×21.0	ゼラチンシルバープリント/k.m.
II-217	大辻清司	氷紋	1956/2008	21.0×21.0	ゼラチンシルバープリント/k.m.
II-218	大辻清司	黒板塀	1957/2008	21.0×21.0	ゼラチンシルバープリント/k.m.
II-219	大辻清司	黒板塀	1957/2008	21.0×21.0	ゼラチンシルバープリント/k.m.

No.	作家名	作品名	制作年	サイズ(縦・高×横×奥行)	技法・材質・形状など
II-220	大辻清司	飛行機	1957/2008	18.9×27.4	ゼラチンシルバーク リント /k.m.
II-221	大辻清司	点・線・面	1956/1980s	26.6×17.8	ゼラチンシルバーク リント
II-223	大辻清司	武智能「ストロンチウム・90」	1957/2012	21.2×33.4	ゼラチンシルバーク リント /k.m.
■駒井哲郎					
II-224	駒井哲郎	孤独な鳥	1948	12.2×8.4	メゾチント、ソフト グランド・エッチン グ、紙
II-226	駒井哲郎	思い出	1948	22.1×19.0	ソフトグランド・ エッチング、エッチ ング、ドライポイン ト、紙
II-228	駒井哲郎	小さな幻影	1950	5.4×12.9	サンドペーパーによ るエッチング、紙
II-229	駒井哲郎	星月夜 (夢 No.3)	1950	13.4×16.3	アクアチント、メゾ チント、ドライポイン ト、紙
II-230	駒井哲郎	夢の推移	1950	12.4×15.4	メゾチント、紙
II-231	駒井哲郎	消えかかる夢	1951	12.2×15.1	メゾチント、エッチ ング、エングレー ヴィング、アクアチ ント、紙
II-232	駒井哲郎	夜の魚 (夢 No.5)	1951	11.8×14.9	エッチング、メゾチ ント、紙
II-234	駒井哲郎	海底の祭	1951	24.0×17.3	メゾチント、ソフト グランド・エッチン グ、ドライポイント、 紙
II-235	駒井哲郎	束の間の幻影	1951	18.0×28.8	サンドペーパーによ るエッチング、紙
II-236	駒井哲郎	時間の迷路	1952	24.1×22.0	アクアチント、サン ドペーパーによる エッチング、紙
II-240	駒井哲郎	フューグ・ソムナンビュール (夢遊病者のフー ガ)	1952	25.8×20.4	エングレーヴィング (雁皮刷)、紙
II-248	駒井哲郎	夜の森	1958	22.0×19.3	サンドペーパーによ るエッチング、アク アチント、紙
II-250		アトリエの駒井哲郎 (撮影：大辻清司)	1959/2012	17.0×11.4	ゼラチンシルバーク リント /k.m.
■福島秀子					
II-251	福島秀子	眼の領分	1951	34.3×25.0	水彩、紙
II-258	北代省三	福島秀子	1956	25.0×30.3	ゼラチンシルバーク リント
II-260	福島秀子	燦然たる飢餓	1956	118.0×92.0	油彩、カンヴァス
II-261	福島秀子	無題 [ガラス絵]	1950s	14.2×14.2	水彩、紙、ガラス
II-262	福島秀子	ヒト	1957	67.5×54.0	グワッシュ、紙
II-263	福島秀子	ヒト	1957	68.5×53.5	グワッシュ、紙

No.	作家名	作品名	制作年	サイズ(縦・高×横×奥行)	技法・材質・形状など
II-264	福島秀子	ささげもの	1957	72.7×60.6	油彩、カンヴァス
II-265	福島秀子	作品 9	1959	146.0×97.0	油彩、カンヴァス
■山口勝弘					
II-266	山口勝弘	ヴィトリース	1952	55.3×64.5×9.7	油彩、ガラス、紙、合板
II-267	山口勝弘	ヴィトリース No.37	1953	58.7×49.5×10.0	油彩、ガラス、合板
II-270	山口勝弘	ヴィトリース 道	1956	65.3×35.2×8.6	油彩、ガラス、紙、合板
■山崎英夫					
II-272	詩：山崎英夫／ 挿画：北代省三	『鼯鼠の彷徨』	c.1948	22.2×15.6	手製本
II-273	北代省三	山崎英夫ポートレート	1950s	11.3×14.8	ゼラチンシルバーブ リント
II-274	山崎英夫	模型飛行機	n.d.	9.0×35.0×41.8	木
II-275	山崎英夫	模型飛行機の翼角度調節のための道具	n.d.	12.5×12.0×43.5	金属
■今井直次					
II-276- 01	文：野口久光	「今井直次インタビュー」『美術手帖』1961年9 月号	1961	21.0×14.9	雑誌（美術出版社）
II-276- 02	今井直次	『赤い繭』の照明立体デザイン表と操作明細グ ラフの一部、『美術手帖』1961年9月号（綴じ 込み付録）	1961	21.0×14.9	雑誌（美術出版社）
■鈴木博義					
II-277	鈴木博義	《ピアノ・コンポジション》楽譜	1953	31.2×22.0	インク、紙
II-278	鈴木博義	《3つのピアノ曲》楽譜	1952-53	38.0×27.0	インク、紙
■戦後の音楽雑誌					
II-279		『シンフォニー』1954年3月号（復刊第1号）	1954	25.4×18.4	雑誌（東京交響楽団）
II-280- 1		『シンフォニー』1954年11月号	1954	25.4×18.4	雑誌（東京交響楽団）
II-280- 2	文：岡本太郎、撮影：大辻 清司	「作曲家訪問7 鈴木博義を訪れる」、『シンフォ ニー』1954年11月号	1954	—	雑誌（東京交響楽団）
II-281- 1,2		『シンフォニー』1954年11月号のために岡本 太郎のインタビューをうける鈴木博義（撮影： 大辻清司）	1954	32.3×24.0(台紙)	ゼラチンシルバーブ リント(台紙に貼付)
II-282- 1		『シンフォニー』1955年2月号	1955	25.4×18.4	雑誌（東京交響楽団）
II-282- 2	ジョン・ケージ	「東洋の問題」、『シンフォニー』1955年2月号	1955	25.4×18.4	雑誌（東京交響楽団）
II-283- 1		『シンフォニー』1955年3月号	1955	25.4×18.4	雑誌（東京交響楽団）
II-283- 2	文：大築邦雄、写真：鈴木 博義	「作曲家訪問9 清瀬保二」、『シンフォニー』 1955年3月号	1955	—	雑誌（東京交響楽団）
II-284	山口勝弘	『シンフォニー』1955年3月号表紙原画（ハン ス・ヴェルナー・ヘンツェ）	1955	25.4×17.9	カラージュ
II-285- 1		『シンフォニー』1955年6月号	1955	25.4×18.4	雑誌（東京交響楽団）
II-285- 2	湯浅譲二	「映画音楽における早坂文雄論」、『シンフォ ニー』1955年6月号	1955	—	雑誌（東京交響楽団）
II-286	大辻清司	作曲家訪問 早坂文雄	1954/2012	17.0×11.4	ゼラチンシルバーブ リント /k.m.

No.	作家名	作品名	制作年	サイズ(縦・高×横×奥行)	技法・材質・形状など
II-287-		『シンフォニー』1957年6月号	1957	25.4×18.4	雑誌(東京交響楽団)
1					
II-287-	文: 谷川俊太郎、撮影: 北代省三	「作曲家訪問 25 武満徹」、『シンフォニー』1957年6月号	1957	25.4×18.4	雑誌(東京交響楽団)
2					
II-290		『ブレイバック』1957年2月号(表紙デザイン: 北代省三)	1955	21.0×15.0	雑誌(レコード評論)

Ⅲ. 1960年代へ

■草月アートセンター

Ⅲ-001		「作曲家集団／4月の会 武満徹」(草月コンテンツポラリーシリーズ)ポスター	1960	76.8×54.3	シルクスクリーン、紙
Ⅲ-002		「作曲家集団／4月の会 武満徹」(草月コンテンツポラリーシリーズ)チラシ(デザイン: 杉浦康平、山口勝弘)	1960	18.5×18.5	印刷物
Ⅲ-003		「作曲家集団／12月の会 諸井誠」(草月コンテンツポラリーシリーズ)ポスター(デザイン: 杉浦康平、真鍋博)	1960	73.0×51.8	シルクスクリーン、紙
Ⅲ-004		「作曲家集団／12月の会 諸井誠」(草月コンテンツポラリーシリーズ)チラシ(デザイン: 杉浦康平、真鍋博)	1960	24.4×24.8	印刷物
Ⅲ-005		「草月ミュージック・イン11／エトセトラのジャムセッション」ポスター(デザイン: 和田誠)	1961	72.8×52.7	シルクスクリーン、紙
Ⅲ-006		「草月ミュージック・イン11／エトセトラのジャムセッション」プログラム(デザイン: 和田誠)	1961	15.0×15.0	印刷物
Ⅲ-007		「人形劇団ひとみ座公演」プログラム	1962	17.8×17.8	印刷物
Ⅲ-008		「人形劇団ひとみ座公演」プログラム	1962	20.5×15.0	印刷物
Ⅲ-009		「草月コンテンツポラリーシリーズ17／ジョン・ケージ デイヴィッド・テュードア演奏会」ポスター(デザイン: 杉浦康平、神田昭夫)	1962	79.3×109.5	シルクスクリーン、紙
Ⅲ-010		「草月コンテンツポラリーシリーズ17／ジョン・ケージ デイヴィッド・テュードア演奏会」プログラム(デザイン: 杉浦康平、神田昭夫)	1962	10.3×73.5	印刷物
Ⅲ-011-1~3		「ジョン・ケージ デイヴィッド・テュードア演奏会」写真(撮影: 吉岡康弘)	1962	—	パネル展示
Ⅲ-012		「マース・カニングハム・ダンス・カンパニー 来日公演」プログラム	1964	13.2×26.3	印刷物
Ⅲ-013		「マース・カニングハム・ダンス・カンパニー 来日公演」プログラム	1964	12.5×25.3	印刷物
Ⅲ-014		「マース・カニングハム・ダンス・カンパニー 来日公演」写真(撮影: 吉岡康弘)	1964	19.0×25.0	ゼラチンシルバークラウドプリント
Ⅲ-015		「マース・カニングハム・ダンス・カンパニー 来日公演」写真(撮影: 関谷正昭)	1964	—	パネル展示
Ⅲ-016		「john cage, david tudor, robert rauschenberg」プログラム(デザイン: 神田昭夫)	1964	42.3×19.0	印刷物
Ⅲ-017		「ジョン・ケージ デイヴィッド・テュードア演奏会」プログラム(デザイン: 神田昭夫)	1964	24.6×12.3	印刷物

■フルクサス

Ⅲ-018-1-11		「フルクサス週刊」写真(画廊クリスタル)	1965	小1枚: 7.0×10.4、大10枚: 12.2×17.8	ゼラチンシルバークラウドプリント
------------	--	----------------------	------	-------------------------------	------------------

No.	作家名	作品名	制作年	サイズ(縦・高×横×奥行)	技法・材質・形状など
Ⅲ-019- 1,2		TV ハプニング (1967年1月18日、TBS、Aスタジオ)	1967	(1)13.7×20.1, (2)13.8×20.4	ゼラチンシルバープ リント
Ⅲ-020		「空間から環境へ」より 山口勝弘《シグナル》を演奏する山口勝弘と横尾忠則 (撮影: 酒井啓之)	1966	—	パネル展示
Ⅲ-021		「空間から環境へ」より 塩見允枝子《Compound View No.1》 左より山口勝弘、塩見允枝子、秋山邦晴、暖謳 (撮影: 酒井啓之)	1966	—	パネル展示
Ⅲ-022		「特集 = 空間から環境へ」、『美術手帖』11月号増刊	1966年	21.0×14.9	雑誌 (美術出版社)
■クロス・トーク／インターメディア					
Ⅲ-023		「クロス・トーク／インターメディア」プログラム	1969	21.5×21.5	印刷物
Ⅲ-024		「クロス・トーク／インターメディア」会場風景 (撮影: 大辻清司)	1969	—	8mm フィルムからのデジタルスライド 上映
Ⅲ-025		「ひろげられた空間への回路—クロス・トーク／インターメディア」、『美術手帖』1969年4月号	1969	21.0×15.0	雑誌 (美術出版社)
Ⅲ-026		「クロス・トーク／インターメディア」より松本俊夫『アイコンのためのプロジェクト』	1969	—	パネル展示
■日本万国博覧会 (大阪万博)					
Ⅲ-027		『日本万国博覧会公式記録写真集』	1971	30.3×21.6	書籍 (日本万国博覧会記念協会)
Ⅲ-028		「SPACE THEATER 鉄鋼館 EXPO'70」リーフレット (表紙作品: バッシュェ兄弟)	1970	24.0×25.6	印刷物
Ⅲ-029		「現代の音楽 今日の音楽 EXPO'70 鉄鋼館」プログラム (1970年8月21-24日、鉄鋼館)	1970	25.8×9.3	印刷物
Ⅲ-030		「鉄鋼館 EXPO'70」プログラム	1970	26.5×21.0	印刷物
Ⅲ-031		「能 善知鳥 NOH UTOU」パンフレット (1970年6月27日)	1970	24.3×17.4	印刷物
Ⅲ-032		秋山邦晴旧蔵の鉄鋼館関連写真	1970	—	パネル展示
Ⅲ-033- 1~3	武満徹	《四季》楽譜とインストラクション	1970	各18.0×18.0(楽譜)	印刷物
■実験工房以降の個々の活動					
Ⅲ-034		「第2回現代音楽祭」プログラム (1958年8月20日-23日信州高原軽井沢星野温泉) 20世紀音楽研究所	1958	25.7×18.3	印刷物
Ⅲ-035	武満徹	《ソーン・カリグラフィ I》楽譜	1958	38.4×28.5	インク、紙
Ⅲ-036	武満徹	《マスク I》楽譜	1959	34.5×26.3	インク、紙
Ⅲ-037	佐藤慶次郎	《ピアノのためのカリグラフィ》楽譜	1960/1991	34.5×27.3	印刷物
Ⅲ-038		『音楽芸術』1961年4月号 (佐藤慶次郎小特集)	1961	25.8×18.3	雑誌 (音楽之友社)
Ⅲ-039- 1,2	湯浅譲二	《プロジェクト・エセムプラスチック—ピアノのための》楽譜	1961	26.9×37.9(楽譜)	インク、紙
Ⅲ-040	湯浅譲二	《ミュージック・コンクレート『葵の上』》楽譜	1961	25.8×36.8(楽譜)	インク、紙
Ⅲ-041	湯浅譲二	《ミュージック・コンクレート『葵の上』》台本	1961	26.6×18.3	インク、紙
Ⅲ-042	湯浅譲二	《ホワイト・ノイズのためのエセムプラスチック》楽譜	1964	各40.0×28.4(12枚)	インク、紙

No.	作家名	作品名	制作年	サイズ(縦・高×横×奥行)	技法・材質・形状など
Ⅲ-043	創作：日本楽器／写真：大辻清司／俳句：大野恵造	YAMAHA カレンダー「ピアノにも季節がある」	1962	19.0×13.8	印刷物
Ⅲ-044	山口勝弘／撮影：大辻清司	「新技法読本 撒く」(『美術手帖』1959年4月号より)	1959		35mm フィルムからのデジタルスライド上映
Ⅲ-045	山口勝弘／撮影：大辻清司	「新技法読本 擦る」(『美術手帖』1959年5月号より)	1959		35mm フィルムからのデジタルスライド上映
Ⅲ-046	山口勝弘	金網彫刻	c.1961	25.5×19.5×27.5	金網
Ⅲ-047	山口勝弘	アクリル彫刻	1960s	29.0×24.7×17.8	アクリル
Ⅲ-048	山口勝弘	光のオブジェ Y	1970	104.0×43.0×23.3	鉄、蛍光管
Ⅲ-049	佐藤慶次郎	エレクトロニック・ラーガ	1967	9.0×9.0×4.5	プラスチック、真鍮
Ⅲ-050	佐藤慶次郎	エレクトロニック・ラーガ	1967	8.0×8.2×3.9	プラスチック、真鍮
Ⅲ-051	武満徹	題名不詳	1962	32.0×24.5	水彩、紙
Ⅲ-052	北代省三	未知のヴィジョン／飛跡一紙	1967	61.0×50.8	ゼラチンシルバープリント
Ⅲ-053	北代省三	未知のヴィジョン／東京の夜	1967	50.8×61.0	ゼラチンシルバープリント
Ⅲ-054	北代省三	遺跡	1972	19.6×25.0	ゼラチンシルバープリント/m.k.
Ⅲ-055	大辻清司	終章	1968/2008	28.0×35.5	タイプC プリント/k.m.
■書籍					
M-001	北代省三	『模型飛行機入門』	1976	26.3×19.0	書籍(美術出版社)
M-002	北代省三	『耄語録』	1996	31.0×21.6	書籍(私家版)
M-003	北代省三	『大型カメラの世界』	1967	17.2×11.2	書籍(朝日ソノラマ)
M-004	山口勝弘	『不定形美術ろん』	1967	28.0×21.5	書籍(学芸書林)
M-005	山口勝弘	『環境芸術家キースラー』	1978	21.5×15.0	書籍(美術出版社)
M-006	詩：安藤元雄、挿画：福島秀子	『煌文庫2』	1985	8.3×9.0	書籍(書し山田、限定150/285)
M-007	駒井哲郎	『銅版画のマチエール』	1976	21.6×15.3	書籍(美術出版社)
M-008	大辻清司	「写真：いま、ここに」(『美術手帖』1968年12月号)	1968	21.0×14.9	雑誌(美術出版社)
M-009	湯浅譲二	『現代音楽・ときととき』	1978	19.4×13.5	書籍(全音楽譜出版社)
M-010	武満徹	『武満徹←1930……∞』	1964	17.5×17.5	書籍(草月アートセンター)
M-011	武満徹	『音、沈黙と測りあえるほどに』	1971	22.2×17.0	書籍(新潮社)
M-012	秋山邦晴	「不定形音楽ろん」、『新婦人』1965年5、8、12号	1965	25.8×18.3	雑誌(文化実業社)
M-013	秋山邦晴	『現代音楽をどう聴くか』	1972	19.2×13.5	書籍(晶文社)
M-014	秋山邦晴	『日本の映画音楽史1』	1974	22.5×16.3	書籍(田畑書店)
M-015	秋山邦晴	『日本の作曲家たち(上・下)』	1978/79	22.0×13.0	書籍(音楽之友社)
M-016	園田高弘	『音楽の旅 ヨーロッパ演奏記』	1960	18.2×13.0	書籍(みすず書房)
M-017		「佐藤慶次郎 THE JOY OF VIBRATION」パンフレット(1974年3月22 - 4月2日、南画廊)	1974	29.6×21.0	印刷物

No.	作家名	作品名	制作年	サイズ(縦・高×横×奥行)	技法・材質・形状など
M-018		「回想の実験工房・東京 1951-55 鈴木博義作品のタペ」プログラム (1976年10月4日、東邦生命ホール)	1974	25.6×18.2	印刷物
■レコード・CD					
M-020		『武満徹の音楽』(装画：瀧口修造)	1966	31.5×31.5	LP (日本ビクター)
M-021		『Seiji Ozawa Messiaen/Takemitsu』(装画：ロバート・インディアナ)	1968	31.5×31.5	LP (RCA)
M-022		『小沢=武満'69』(装画：加納光於)	1969	31.5×31.5	LP (RCA)
M-023		『スペース・シアター』	1970	31.5×31.5	LP (RCA)
M-024		CONTEMPORAY JAPANESE FLUTE MUSIC	1970	31.5×31.5	LP (CBS・ソニー)
M-025		福島和夫/フルート作品集 (装画：福島秀子)	1978	31.5×31.5	LP (日本コロムビア)
M-026		『実験工房の音楽』(装画：山口勝弘)	1978	12.4×12.4	CD (fontec)
M-027		『福沢アクリヴィ/美しき星の下に』	1999	12.4×12.4	CD (Victor)
■書簡					
L-001	駒井哲郎	資生堂個展案内状 (鈴木博義宛て)	1953	17.4×24.3	書簡
L-002	駒井哲郎	瀧口修造宛て書簡 (1953年10月7日)	1953	17.7×22.9	書簡
L-003	駒井哲郎	瀧口修造宛て年賀状 (1959年1月5日)	1959	12.5×27.1	書簡
L-004	秋山邦晴	瀧口修造宛て書簡 (1952年7月29日)	1952	24.0×17.0	書簡
L-005	佐藤慶次郎	瀧口修造宛て書簡 (ラーガの使用法) (1967年4月12日)	1968	17.0×37.8	書簡
L-006	武満徹、若山浅香	瀧口修造、綾子宛て書簡(1952年9月21日消印)	1952	14.0×9.0	書簡
L-007	湯浅譲二、鈴木博義	瀧口修造、綾子宛て書簡(1952年9月21日消印)	1952	14.0×9.0	書簡
L-008	武満徹	瀧口修造宛て書簡 (1953年8月4日)	1953	14.0×9.0	書簡
L-009	武満徹	瀧口修造宛て書簡 (1954年1月5日消印)	1954	25.7×18.0	書簡
L-010	武満徹・浅香	瀧口修造、綾子宛て年賀状 (1956年1月1日)	1956	14.0×9.2	書簡
L-011	秋山邦晴	瀧口修造宛て書簡 (1963年11月29日)	1963	21.5×30.5	書簡

美しき日本 京の四季展

京都府が委嘱した京都在住あるいは京都ゆかりの日本画家、洋画家によって描かれた約280点におよぶ絵画作品群「京の四季」より、日本画、洋画91点を厳選し展示公開した展覧会。

四季折々の風情に満ちた古都の風景や伝統、風物はもちろん、北西から南東へ約140キロの長さを誇る京都府の地形が生み出す丹後、丹波、山城地方の異なった自然環境や文化、歴史が、優れた画家の手により生き生きと魅力的に描き出されている。

本展では、洛心、洛北、洛東、洛西、洛南、山城、丹波、丹後という「京の四季」絵画群の区分けに従って展示し、それぞれの特色あ

る土地柄を地図や名所案内パネルを併設し、その地を思い描きながら鑑賞できるよう工夫した。また、絵画群の制作年が1986年ということもあり、当時のデータに現在の作家情報、作品に関する捕足をを行い、できる限り最新の情報を提供できるようなキャプションを心がけた。

会期中は、日本人の愛する京都の魅力を多角的に楽しめるよう、日本画材の体験や煎茶を味わうワークショップを開催。また、現代音楽にも精通する作曲家であり笙演奏家でもある真鍋尚之氏によるロビー・コンサートを行い、日本人の心に時を越えて響く「伝統楽器一笙」の音色を堪能した。

会 期 2013年 6月15日(土)～ 7月15日(月)

会 場 企画展示室

主 催 いわき市立美術館、京都府、京都文化博物館、読売新聞社、美術館連絡協議会、
福島民友新聞社、福島中央テレビ

協 賛 ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン



作品リスト

No.	作家名	生没年	出身地	作品名	地区	サイズ	画種
1	高越 甚	1931-	富山県	金閣冬日	洛北	63.4×98.0	日本画
2	木下 章	1927-	大分県	光悦寺の萩	洛北	70.2×89.6	日本画
3	小牧源太郎	1906-1989	京都府	大仙院の石庭（盛砂）	洛北	58.8×71.0	洋画
4	今井文二	1945-	大分県	卓上一賀茂茄子	洛北	71.3×89.4	日本画
5	田代正子	1913-1995	神奈川県	すぐき漬	洛北	79.6×64.6	日本画
6	山口吉旺	1912-1992	大阪府	古事鞍馬火祭	洛北	88.2×70.7	日本画
7	本多功身	1950-	京都府	山霖	洛北	72.2×90.2	日本画
8	小松 均	1902-1989	山形県	大原風景	洛北	65.3×89.6	日本画
9	岩沢重夫	1927-2009	大分県	比叡雪月花	洛北	71.6×49.0	日本画
10	西山英雄	1911-1989	京都府	春宵叡山	洛北	52.8×72.8	日本画
11	山田新一	1899-1991	宮崎県	比叡山新緑（府立植物園より）	洛北	71.3×89.5	洋画
12	丹羽尚子	1941-	大阪府	下鴨神社三井社	洛北	63.6×89.5	日本画
13	堂本元次	1923-2010	京都府	法然院	洛北	64.6×90.3	日本画
14	山添耕治	1936-	京都府	桂川の愛宕山	洛西	64.3×90.1	洋画
15	広本 進	1897-1991	愛知県	空也の滝	洛西	79.6×64.4	日本画
16	中路融人	1933-	京都府	柚子の里	洛西	60.6×90.3	日本画
17	福本達雄	1926-	兵庫県	雨後神護寺	洛西	79.4×64.3	日本画
18	岡崎國夫	1926-	京都府	化野念仏寺	洛西	71.3×89.4	日本画
19	池田遙邨	1895-1988	岡山県	嵯峨野の細道	洛西	90.3×65.0	日本画
20	三尾公三	1924-2000	愛知県	嵯峨野幻想	洛西	72.8×91.1	洋画
21	林 潤一	1943-	岐阜県	嵐山渡月	洛西	55.3×91.2	日本画
22	福井沢太	1914-	佐賀県	新緑の嵐山	洛西	90.0×68.5	日本画
23	新井富美郎	1925-	東京都	宴のあと（大覚寺）	洛西	63.4×89.2	日本画
24	山岸 純	1930-2000	京都府	広沢の池	洛西	64.0×90.0	日本画
25	山本倉丘	1893-1993	高知県	御室の桜	洛西	52.0×71.6	日本画
26	黒光茂樹	1909-1993	愛媛県	西山の筍	洛西	80.0×52.8	日本画
27	芦田裕昭	1935-	鳥根県	春の洛西竹林公園	洛西	59.6×79.4	日本画
28	木下育應	1944-	京都府	春宵西行桜（勝持寺）	洛西	70.8×88.8	日本画
29	竹内浩一	1941-	京都府	雨ま音	洛西	93.0×78.0	日本画
30	藤井喜久雄	1928-	京都府	北野の梅花祭	洛心	59.1×71.0	洋画
31	三田村宗二	1936-1996	京都府	西陣の家並	洛心	47.5×71.7	洋画
32	河野穰而	1932-	京都府	冬の同志社礼拝堂	洛心	60.4×72.1	洋画
33	大野俊明	1948-	京都府	二条城緑雨	洛心	72.0×90.2	日本画
34	下村良之介	1923-1998	大阪府	吸付煙管	洛心	71.8×90.0	日本画
35	皆川千恵子	1924-	京都府	京扇子	洛心	89.2×71.0	日本画
36	三谷十糸子	1904-1992	兵庫県	ひなかざり	洛心	52.4×72.1	日本画
37	伴 清一郎	1950-	滋賀県	HEIAN CITY（平安京）	洛心	52.2×79.6	洋画
38	谷田穎郎	1936-	鳥取県	祭りの詩がやってきた	洛心	71.2×89.3	洋画
39	岡崎忠雄	1943-2002	京都府	高瀬川	洛心	72.0×90.2	日本画
40	広田多津	1904-1990	京都府	舞妓	洛心	72.3×55.6	日本画
41	上村淳之	1933-	京都府	千鳥	洛心	64.6×90.0	日本画
42	桑野博利	1913-2008	鳥取県	托鉢	洛心	71.8×89.8	日本画
43	川端健生	1944-1995	京都府	吉田神社	洛東	63.4×89.2	日本画
44	井上 稔	1936-	京都府	真如堂春宵	洛東	64.3×90.0	日本画
45	上村松篁	1902-2001	京都府	薪能	洛東	53.6×73.2	日本画
46	進藤博子	1936-	東京都	青蓮院（新緑木洩れ日）	洛東	71.2×89.4	洋画
47	武藤 彰	1913-2006	岐阜県	円山のしだれ桜	洛東	71.7×90.1	日本画
48	伊藤継郎	1907-1994	大阪府	祇園祭驚舞	洛東	71.5×89.9	洋画

No.	作家名	生没年	出身地	作品名	地区	サイズ	画種
49	大日躬世子	1905-	京都府	神苑舞妓	洛東	53.8×80.6	日本画
50	岡村倫行	1944-	京都府	おみくじ（おけら詣り）	洛東	71.5×89.7	日本画
51	今井憲一	1907-1988	京都府	清水寺舞台	洛東	59.6×71.5	洋画
52	鳥頭尾 精	1932-	奈良県	東山	洛東	72.8×90.7	日本画
53	渡辺武蔵	1927-	三重県	三十三間堂	洛東	72.0×90.4	日本画
54	下保 昭	1927-	富山県	東山三十六峰	洛東	90.0×59.7	日本画
55	村居正之	1947-	京都府	東寺	洛南	89.4×63.8	日本画
56	三谷青子	1928-	京都府	伏見人形	洛南	52.3×72.0	日本画
57	平岡靖弘	1943-	京都府	石峰寺（羅漢さん）	洛南	72.8×90.9	洋画
58	中野弘彦	1927-2004	山口県	緑盛桃山御陵全図	洛南	72.6×90.8	日本画
59	松村光秀	1937-2012	京都府	六斎念仏踊	洛南	65.1×90.9	洋画
60	桑田道夫	1916-2002	東京都	伏見の酒倉	洛南	73.0×91.4	洋画
61	東儀 一	1926-2006	京都府	花の醍醐寺	洛南	71.4×89.7	洋画
62	井上正与志	1931-	京都府	澁川橋梁と宇治川	洛南	59.2×89.6	日本画
63	浅野 均	1955-	大阪府	淀城址	洛南	71.1×89.6	日本画
64	佐々木 豊	1939-	北海道	乙訓の竹林	山城	90.2×64.6	日本画
65	並木光昭	1923-	京都府	光明寺秋色	山城	90.9×71.6	日本画
66	桑田義郎	1949-	京都府	朝霧橋	山城	72.8×90.8	洋画
67	橋田二郎	1925-2010	京都府	平等院鳳凰堂	山城	59.7×90.2	日本画
68	近藤千尋	1903-1995	京都府	九躰寺	山城	72.3×90.4	日本画
69	鶴田憲次	1949-	長崎県	木津川（The Ground）	山城	79.8×90.0	洋画
70	畠中光享	1947-	奈良県	笠置初夏	山城	63.5×89.4	日本画
71	小西通博	1955-	京都府	童仙房	山城	63.8×89.4	日本画
72	大河内正夫	1920-	大阪府	木津川	山城	63.9×89.4	日本画
73	山根須磨子	1947-	京都府	田山花踊り	山城	88.8×88.8	洋画
74	秋野不矩	1908-2001	静岡県	上げ松（鶴ヶ岡）	丹波	125.2×40.6	日本画
75	向井潤吉	1901-1995	京都府	山ふところの早春	丹波	44.9×52.2	洋画
76	浜田昇児	1927-	京都府	大野溪谷	丹波	65.4×90.5	日本画
77	谷 イサオ	1937-	京都府	85・なつ・大野ダム	丹波	71.0×51.4	洋画
78	橋本 武	1924-	京都府	天若惜秋	丹波	72.2×90.2	洋画
79	原田正義	1936-	京都府	和知風景と文楽	丹波	89.8×71.4	洋画
80	津田周平	1909-1990	京都府	瑞穂の月	丹波	89.6×71.2	洋画
81	野村昭雄	1931-	北海道	雪の貯木場（舞鶴湾）	丹後	58.6×89.0	洋画
82	土手朋英	1944-	茨城県	望春、由良川河口	丹後	59.0×89.6	日本画
83	仁志出高福	1926-	滋賀県	月明（宮津漁港）	丹後	51.3×71.0	日本画
84	宮村 長	1942-	京都府	宮津の花火	丹後	70.8×89.3	洋画
85	正井和行	1910-1999	兵庫県	宮津燈籠流し	丹後	64.4×90.0	日本画
86	堂本阿岐羅	1922-	京都府	冬のかまや海岸	丹後	90.4×64.2	日本画
87	芝田 耕	1918-2010	京都府	丹後松島	丹後	71.7×90.0	洋画
88	芝田米三	1926-2006	京都府	味土野の淡雪（ガラシャ夫人）	丹後	89.8×71.6	洋画
89	中野庸二	1941-	京都府	YUHIGAUURA（Play Beach）	丹後	90.8×90.9	洋画
90	坂根克介	1945-	京都府	久美浜湾と甲山	丹後	71.3×89.5	日本画
91	田中 岑	1921-	香川県	丹後の海	丹後	71.5×89.7	洋画

みんなで元気になるアート・キャラバン2

空調設備改修工事による約1年半という長期休館に入ることから、美術館を拠点とした事業に代え、誰もが手軽に取り組めるワークショップ・プログラムを希望者のもとへ出前するアウトリーチ事業を企画実施した。

手を使って何かを作る、体を動かして何かを表現する、さまざまな色材や画材を無心に楽しむ、味覚を通した日本の食文化の再確認…など、日常生活の中に取り入れやすく実践もしやすいプログラムに心がけて実施した。

事前にプログラムを公開し、会場が準備できる複数名のグループを対象に希望を募り、

応募は公私問わず、また、希望者の都合により、月曜日から日曜日のいずれの曜日でも開催するよう対応した。

実施内容は記録し、DVDおよび冊子による報告書としてまとめた。

市内の公民館、社会福祉施設、中学校、高校の美術部、小学校PTA、子供会、学童保育施設など、これまで美術館とは縁のなかった市民にも、美術や美術館への意識を持ってもらう良い機会であり、また、市民の持つアートへのイメージやニーズの現状に触れる良い機会ともなった。

期 間 2013年 9月17日(火)~2014年 3月31日(月)

主 催 いわき市立美術館

共 催 いわき総合図書館



みんなで元気になるアート・キャラバン2
(報告書)

【スイーツアートでデコレーション】

フェイククリームやビーズなどを用いてスイーツ・ストラップやマグネット、あるいは、フォトフレームのデコレーションをおこなう。

講師：当館スタッフ

日時	会場	参加団体
9月26日(木)	社会福祉施設スペースけやき	利用者
10月11日(金)	いわき市立植田中学校	特別支援学級
10月19日(土)	いわき市立植田中学校	美術部
11月2日(土)	鹿島公民館	お話ボックス
11月8日(金)	いわき市文化センター	いわき市チャレンジホーム
11月9日(土)	夏井公民館	公民館まつり
11月16日(土)	山田公民館	いわき市立菊田小学校子ども会
12月11日(水)	田人ふれあい館	田人社会福祉協議会 子育てサロン
12月26日(木)	いわき市立錦中学校	美術部
1月30日(木)	豊間公民館	薄磯あけほの会
2月5日(水)	豊間公民館	豊間わかば会
2月7日(金)	沼の内公民館	沼の内音楽会



いわき市立菊田小学校子ども会

【お茶のおいしさ、お茶の力】

専門家と一緒に煎茶を飲みながら、お茶の知識、歴史、効能や活用法などを学び、日常に生かしてもらうとする「味覚」で体感するアート（文化）の提案。

講師：梶塚宏之（日本茶インストラクター）

日時	会場	参加団体
10月11日(金)	山田公民館	豊齢者大学
12月25日(水)	中央台東小学校	中央台東児童クラブ、中央台東第二児童クラブ
2月6日(木)	平老人福祉センター	いきいきデイクラブ



山田公民館 豊齢者大学



中央台東児童クラブ・第二児童クラブ

【岩絵具で遊んじゃおう！】

日本画用絵具を用いた塗り絵ワークショップ。カラーセラピーぬりえを色紙に写し、好きな色彩で絵付けすることで親しみながら日本伝統の画材を体感する。

講師：当館スタッフ

日時	会場	参加団体
10月12日(土)	泉公民館	少年学級
12月8日(日)	中央台公民館	いわき子どもを育てる会



いわき子どもを育てる会

【カセットプラント・ファクトリー・キャラバン】

山口啓介（造形作家）の作品「カセット・プラント」に参加し、樹脂を流し込んだカセットケースにドライフラワーを自由に配置したパーツを一定期間展示する。

講師：当館スタッフ

日時	会場	参加団体
10月20日(日)	いわき市立植田中学校	美術部
10月27日(日)	県立平商業高等学校	美術部



平商業高等学校美術部

【みんなでポーズ！リズムにのって全身ストレッチ】

リズムにのって全身運動をしながら、からだの緊張とリラックスを体感。さらに、各自から自由で伸び伸びとしたダンス表現を導き出し、筋力、柔軟性、表現力の強化を促す。

講師：神永幸良（舞踊家、振付家、演出家）

日時	会場	参加団体
1月6日(月)	中央台東小学校	中央台東児童クラブ、中央台東第二児童クラブ
1月14日(火)	学校法人昌平養 いわき短期大学附属幼稚園	5～6歳児クラス
1月21日(火)	学校法人昌平養 いわき短期大学附属幼稚園	3～4歳児クラス
2月10日(月)	学校法人志賀学園 平第一幼稚園	5～6歳児クラス
2月17日(月)	学校法人志賀学園 平第一幼稚園	3～4歳児クラス



学校法人昌平養いわき短期大学附属幼稚園 5～6歳児クラス

【Dr.丹波のよく飛ぶ紙ヒコーキ】

紙飛行機日本チャンピオンによく飛ぶ紙飛行機の作り方、飛ばし方のコツを教わりながら、思いきり飛ばして遊ぶワークショップ。浮力や揚力といった専門的知識を全身で感じながら「空を飛ぶ」不思議に迫った。

講師：丹波純（第2回全日本紙飛行機選手権チャンピオン、工学博士）

日時	会場	参加団体
1月11日(土)	芸術文化交流館アリオス	あそび工房



【村上康成さんワークショップ 実物大のクジラ「15メートルのバースを描こう！】

絵本『くじらのバース』の作家といっしょに全長15メートルのくじらのバースの生き様をイメージし、必死で生きたバースの姿を全員でデザインした。

講師：村上康成（絵本作家）

日時	会場	参加団体
2月23日(日)	常磐公民館	いわき総合図書館による一般公募



【心に潤いと活力を与えるアートセラピー～色彩表現を通して自分と出会い、メンタルケアに役立てるレッスン】

アートセラピストの参考事例を聞きながら、自由にぬりえを楽しんだり、グループでトークセッションしたりすることで、現在の自分の状況を確認したり、なりたい自分を妨げているものなど、意識されなかった自分を見つめる時間を過ごした。

講師：馬目佳世子（アートセラピスト）、大村朋子（アートセラピスト）

日時	会場	参加団体
3月1日(土)	中央公民館	いわき市立美術館による一般公募
3月2日(日)	中央公民館	いわき市立美術館による一般公募



展覧会事業
小企画展

日独交流 150 年記念 安藤信正展
～オイレンブルク家との交流、安藤家コレクション～

幕末の磐城平藩主安藤信正（1819-1871）は、幕府の老中職などを歴任し当時の政治の中心を担ったいわきゆかりの人物である。信正公は、1861年にプロイセン王国（現ドイツ）の外交官オイレンブルク伯爵と日普修好通商条約を締結し、幕末の外交問題にも力を発揮した。

2011年には条約締結150年を迎え、日本とドイツにおいて式典をはじめ様々な交流事業が行われた。その日独交流150年記念事業の一環として本展を開催した。

本展では、150周年式典以降、現在の安藤家とオイレンブルク家との間で続けられている文化的交流の軌跡、安藤信正公の若書きな

どのゆかりの品々、江戸時代の大名文化を彷彿とさせる安藤家に伝わる茶道・香道具、調度品など41点で構成する。

美術館1階ロビー特設会場による小企画展示ではあったが、信正公への関心は高く数多くの方が資料や作品を鑑賞し、いわきゆかりの偉人を再認識していた。

会期中には、関連の催しとして「御家流茶道呈茶席」を開催する。御家流茶道とは、安藤家に代々伝わり儀礼に用いられた武家の茶道である。呈茶席ということで観覧者は気軽に参加し、御家流の迫力ある点前とお茶を興味深く味わっていた。2日間の開催中、参加者は多く好評であった。

会 期 平成25年 4月20日(土)～ 6月 2日(日)
会 場 いわき市立美術館 1階ロビー特設会場
主 催 いわき市立美術館
後 援 ドイツ連邦共和国大使館
協 力 旧磐城平藩主第十六代当主 安藤綾信氏



作品リスト

No.	資料名	作者等	材質	時代	資料サイズ(cm)
1	安藤信正公		写真パネル		
2	オイレンブルク伯爵		写真パネル		
3	オイレンブルク伯爵 東アジア・日本遠征公式記録（ドイツ語初版復刻） 全4巻		書籍	2001	
4	オイレンブルク伯爵 日本遠征記（上・下）	訳 中井昌夫	書籍	1969	
5	オイレンブルク家紋入銀皿			2011	径13.5
6	オイレンブルク家・安藤家 友好プレート	意匠 安藤園枝		2011	径25
7	オイレンブルク家屋形照明飾り			2011	縦9.5 横69 高44
8	青磁 大海			明代	径9.5 高7
9	茶杓 銘 修好	安藤綾信		2011	長18
10	金梨地定紋散し蒔絵 大棗		木製漆塗		径8 高8
11	紅安南茶碗			16~17世紀	径12 高18
12	絵高麗白地梅鉢文茶碗			江戸時代	径16 高7
13	絵高麗瑠璃地梅鉢文茶碗			江戸時代	径16 高7
14	白磁羊水指 宋白磁に倣う	原清			径15 高18
15	南京色絵樹下人物菊形水差			明代	径18 高17
16	千本松釜	下間庄兵衛		江戸時代	径3 高19
17	鳳凰風炉			江戸時代	径26 高15
18	雪輪文蒔絵硯箱		木製漆塗	江戸時代(19世紀)	縦25.3 横22.7 高7.5
19	手留 八巻		紙本	江戸時代(1858-59)	縦13 横19.5
20	仙鶴遺蹤	安藤信正	紙本・卷子	江戸時代(1849)	縦17 横183.5
21	安藤信睦(信正)画 「鶴鶴」(若書)	安藤信正	紙本・軸	江戸時代(19世紀)	縦17 横23.2
22	安藤信睦(信正)和歌詠草 「はる雨」	安藤信正	紙本・軸	江戸時代(19世紀)	縦15.8 横23.4
23	安藤信睦(信正)書 「崔」	安藤信正	紙本・軸	江戸時代(19世紀)	縦117.2 横27
24	安藤信睦(信正)書 「進徳」	安藤信正	紙本・軸	江戸時代(1846)	縦127.9 横59.5
25	安藤信睦(信正)書 「正徳」	安藤信正	紙本・軸	江戸時代(1846)	縦130 横58.1
26	安藤信睦(信正)書 真乘院権僧正宛	安藤信正	紙本・軸	江戸時代(19世紀)	縦18.6 横48.5
27	平城御殿の図		紙本・軸	江戸時代(1810)	縦67.4 横46.4
28	鶏白図	狩野守真	絹本彩色・軸(対幅)	江戸時代(19世紀)	縦104 横37.5
29	王子喬・靈王図	狩野洞春秀信	絹本彩色・軸(対幅)	江戸時代(19世紀)	縦123.5 横54.5
30	弓箭台子			現代の復元	縦45 横93 高110
31	青釉茶入			不詳	径3 胴径5.7 高6.2
32	灰被天目茶碗			宋時代	径13 高6.2
33	禾目天目茶碗			宋時代	径13 高6
34	水仙蒔絵香筆筒		木製漆塗	江戸時代	縦11.6 横8.5 高10.1
35	松橘蒔絵重香合		木製漆塗	江戸時代	径4.6 高6.1
36	松竹梅蒔絵香炉		木製漆塗	江戸時代	径6.8 高7.5
37	火道具立て・七つ道具及び火味			江戸時代	
38	松竹梅蒔絵角入盆		木製漆塗	江戸時代	縦23.5 横33.8 高3.8
39	初音蒔絵香筆筒		木製漆塗	江戸時代	縦11.5 横16.7 高13.8
40	松竹梅鶴亀柄鏡	青盛重		江戸時代 (18-19世紀)	径25 柄長10
41	上がり藤紋入鶴亀和鏡			江戸時代	径11.5

hakobune プロジェクト 《歩く方舟》—いわきへ…。瀬戸内より—

1980年代後半から「方舟」や「宇宙船」などをモチーフにした大型の銅版画で注目を集めた山口啓介は、絵画や立体作品、インスタレーションなど多彩な表現で独自の芸術的知覚を世界に発信する作家である。当館においても、山口の、個々の花々にいのちの尊さと美しさを見るカセットプラント・ワークショップを2012年以降数度開催し、その表現世界を紹介してきた。

本プロジェクトは、山口が見つめる‘宇宙と生命の尊厳’そのエネルギーを全身に湛えて立ち上がる《歩く方舟》を中心に展開した。《歩く方舟》の公開制作、山口啓介によるアーティストトーク、カセットプラント・ワークショップ、様々な場面でのボランティアの活

躍など2か月に及ぶプロジェクト期間は、作家を中心として大勢の人々の行きかう密度の濃い時間が美術館内に流れた。

プロジェクトの中で制作された《歩く方舟》のいわきバージョンは、4mサイズの木彫で仕上げられ、《歩く方舟 on いわき—玉響の休息》と名づけられた。旧約聖書のノアの方舟を原典にした《歩く方舟》は、現代における自然と人間の再生を明示し、危うい大地にこそ生まれる人間の創造力、未来への希望を体現し、3.11以降を生きる私たちに大きな示唆をもたらすものとなった。

なお、本プロジェクトは、瀬戸内国際芸術祭2013と同時的に計画・実施された。

会期 プロジェクト期間 平成25年 7月6日(土)～9月16日(月)
会場 いわき市立美術館
主催 いわき市立美術館

※展覧会 hakobuneプロジェクト 関連作品と資料展示
日時 9月7日(土)～9月16日(月) 9時30分～17時
場所 いわき市立美術館 1階ロビー



作品リスト

作品名	制作年	寸法	技法材質
歩く方舟 on いわき—玉響の休息	2013		木、ペンキ
flower room—方舟の第一宮—	2013		カセットケース、ドライフラワー、樹脂、 いわき市立美術館正面入口
歩く舟（版画集『枯野と幼年期の終わりより』）	2000	35×52	銅版・紙
枯野と幼年期の終わり（版画集『枯野と幼年期の終わりより』）	2000	35×52	銅版・紙
田園風景	2011	45×38	アクリル・カンヴァス
田園風景 3	2012	45×38	油彩・カンヴァス
ピュシス	2012	45×38	アクリル・カンヴァス
広野火力発電所	2012	45×38	油彩、アクリル・カンヴァス
歩く方舟 on いわき、玉響の休息と樟	2013	54.8×78.9	水彩、鉛筆・紙
歩く方舟 on いわき、玉響の休息—2	2013	39.5×54.8	鉛筆、カーボンインク、水彩・紙
歩く方舟 on いわき、玉響の休息—3	2013	39.5×54.8	鉛筆、カーボンインク、水彩・紙
歩く方舟 on いわき、玉響の休息—4	2013	39.5×54.8	鉛筆、カーボンインク、水彩・紙
歩く方舟 on いわき、玉響の休息—5	2013	39.5×54.8	鉛筆、カーボンインク、水彩・紙
歩く方舟 on いわき、玉響の休息—6	2013	39.5×54.8	鉛筆、カーボンインク、水彩・紙
歩く方舟 on いわき、玉響の休息—7	2013	39.5×54.8	鉛筆、カーボンインク、水彩・紙
『歩く方舟、海を渡る叙事詩』	2013	34×39	エッチング・ハーネミューレ紙
月夜の男木島	2013	34×39	エッチング・ハーネミューレ紙
炉心を分解する	2013	34×39	エッチング・ハーネミューレ紙
歩く方舟、眼ざめよとの声	2013	34×39	エッチング・ハーネミューレ紙
ファーストステップや屋島と五剣山の間	2013	34×39	エッチング・ハーネミューレ紙
4つの滝	2013	34×39	エッチング・ハーネミューレ紙
立つ泳ぎの方舟、アノマリ—	2013	34×39	エッチング・ハーネミューレ紙
神奈川沖浪裏あたり	2013	34×39	エッチング・ハーネミューレ紙
4つの炉心柱、光の樹が集まる	2013	34×39	エッチング・ハーネミューレ紙
魔を喰らう	2013	34×39	エッチング・ハーネミューレ紙
ムーンフェイスと浄化機械	2013	34×39	エッチング・ハーネミューレ紙
世界は何にしているだろうか 1	2013	72.3×51.5	オフセット印刷・紙
世界は何にしているだろうか 2	2013	72.3×51.5	オフセット印刷・紙
世界は何にしているだろうか 3	2013	72.3×51.5	オフセット印刷・紙
世界は何にしているだろうか 4	2013	72.3×51.5	オフセット印刷・紙
方舟地図箱—玉響 1	2013	60×180×10	ミクストメディア
方舟地図箱—玉響 2	2013	60×180×10	ミクストメディア
ノート 1	2011～		
ノート 2	2012～		
ノート 3	2013～		

【参考出品】

方舟光の樹 1（パネル展示）

方舟光の樹 2（パネル展示）

方舟光の樹 3（パネル展示）

男木島《歩く方舟》メイキングビデオ



展示風景

展覧会事業
小企画展

平成25年度 いわき市小・中学生版画展

「いわき市小・中学生版画展」は、いわき市内の児童生徒の日ごろの活動の成果を広く市民に紹介するとともに、児童生徒が造形学習や表現行為への興味と喜びを体験する機会とすることを目的に開館以来開催を続けている展覧会で、今回30回目を迎える。空気調和設備改修工事に伴う長期休館中の開催について検討した結果、恒例の展覧会として学校現場でも定着していることを考慮し、会場を文化センターに移しての開催とした。

文化センターの展示室にあわせ「各学校、240cm×240cm以内の共同制作6点まで」という募集要項の大きな変更に不安を抱えての開催であったが、参加校の柔軟な対応により、作品搬入、展示、作品搬出とスムーズな運営をすることができた。

参加者数は例年の1/2となったが、共同作品に取り組む児童生徒のにぎやかな笑顔が並ぶにぎやかな展示となった。記念パンフレットを制作するなど、30回目の特別な版画展という位置づけでPRにつとめたが、入場者は4,000人弱と低迷、近年続いている来館者減に大きく拍車をかけた数字となってしまった。来年に向けて大きな懸案である。

会期中は、フロッタージュ技法でのカードづくりに挑戦する「プリント・コーナー」を毎日開催するほか、工芸作家の岡田芳弘を迎えた「わくわくアートスクール『あたらしいみかんのむきかた』」、いわき出身のパフォーマーNiAによる「春を祝うパフォーマンス『GO! GO! ヨーヨー』」などの催し物を行い好評を得た。

- 会 期 前期 2013年12月22日(日)～2014年 1月 4日(土)
 後期 2014年 1月 6日(月)～2014年 1月13日(月)
- 会 場 いわき市文化センター 中展示室、大会議室1・2
- 主 催 いわき市教育委員会・いわき市立美術館
- 協 力 小学校教育研究会図画工作部会／中学校教育研究会美術部会



■参加校及び出品点数

参加校	66校	小学校 61校 中学校 1校 特別支援学校 4校	前期展示 展示点数(全て共同作品) 125点 出品校 33校 出品者数 3,196名
出品点数	254点	共同作品 254点	後期展示 展示点数(全て共同作品) 129点 出品校 33校 出品者数 3,916人
参加者数	7,112校	小学校 6,967人 中学校 15人 特別支援学校 130人	

■参加校一覧

◆前期展示校

【小学校】

平第一小学校
平第五小学校
平第六小学校
郷ヶ丘小学校
豊間小学校
夏井小学校
四倉小学校
大野第一小学校
久之浜第二小学校
川前小学校
小白井小学校
白水小学校
内町小学校
御厩小学校
高坂小学校
宮小学校
好間第一小学校
好間第二小学校
差塩小学校
小名浜第一小学校
小名浜東小学校
鹿島小学校
江名小学校
泉小学校
湯本第一小学校
湯本第二小学校
汐見が丘小学校
錦小学校
上遠野小学校
入遠野小学校

田人第二小学校

【特別支援教育諸学校】

聾学校平分小学校
いわき養護学校小学校

◆後期展示校

【小学校】

平第二小学校
平第三小学校
平第四小学校
中央台北小学校
中央台南小学校
高久小学校
大浦小学校
久之浜第一小学校
小玉小学校
綴小学校
高野小学校
好間第四小学校
沢渡小学校
三阪小学校
永戸小学校
永井小学校
小名浜第二小学校
小名浜第三小学校
小名浜西小学校
永崎小学校
泉北小学校
湯本第三小学校
磐崎小学校
藤原小学校
植田小学校

錦東小学校

菊田小学校
勿来第二小学校
田人第一小学校
貝泊小学校

【中学校】

藤間中学校
【特別支援教育諸学校】
平養護学校
富岡養護学校

第43回いわき市民美術展覧会

●絵画・彫塑の部

一般応募196点(内、青少年22点)
展示点数214点(招待17点、遺作1点、一般196点)

●陶芸の部

一般応募139点(内、青少年0点)
展示点数148点(招待9点、一般139点)

●写真の部

一般応募188点(内、青少年0点)
展示点数192点(招待4点、一般188点)

●書の部

一般応募145点(内、青少年11点)
展示点数173点(招待23点、委嘱5点、一般145点)

以上が、第43回いわき市民美術展覧会(市美展)の応募、展示状況である。

絵画・彫塑の部では、絵画の応募点数が昨年比べて10点増えたが、作品の横幅総延長を計算した結果、前年に引き続き落選を出さないことになった。陶芸の部では、応募点

数が前年に比べ16点増えた。前回は28点増であったから、近年の増加傾向は特筆に値する。写真の部では、前年に比べ8点の減で、前回同様に減少傾向が続いた。書の部では、前年に比べ8点減であった。

今年度の市美展は、美術館が空調設備の改修工事で平成25年9月から1年2ヶ月間休館することになり、例年、2月から3月にかけて開催してきた市美展の開催時期を、半年ほど前倒しして、夏の時期の開催とした。開催時期を早めたことで作品制作の準備期間が短くなり、一般公募の出品点数の大幅な減少が心配されたが、早めの告知等が功を奏したか、上記のように絵画・彫塑と陶芸の部では増え、また、写真と書の部では8点の減少にとどまるなど、いわきの創造的な文化の底力を感じさせるものともなった。

第43回いわき市民美術展覧会

主催：いわき市美術展覧会運営委員会 いわき市教育委員会 いわき市文化協会 いわき市立美術館
後援：和歌山県美術協会 福島県美術協会 いわき市民文化協会 NHK福島放送局 ラジオ福島 福島テレビ
福島中央テレビ 福島放送 テレビユー福島 いわき市民コミュニティ放送
協賛：いわき市美術協会 いわき市陶芸協会 いわき市書道協会 いわきアート集団 いわき写真協会

市美展

絵画・彫塑の部：平成25年7月27日(土)～8月4日(日)
陶芸の部：平成25年8月9日(金)～8月18日(日)
写真の部：平成25年8月9日(金)～8月18日(日)
書の部：平成25年8月23日(金)～9月1日(日)

入場無料 開催時間 9:30～17:00
休館日 月曜日(ただし、8/24日除く)
会場 いわき市立美術館企画展示室・ロビー
入場フリーカット 7月27日(土) 9:30～(美術館ロビー)

作品公募

審査員 山口 実(後援)、伊藤公象(協賛)、写真の部 辰野 清(後援)
書 の 部 村上皓南、矢内 齊、芳賀二葉、谷津彤雲(協賛)

●結果発表は、美術館・各公民館・各支所でお求めください。
●問い合わせ先：いわき市立美術館 電話：0246-25-1111

いわき市立美術館
〒970-8026 いわき市大字堂柳4-4

会 期 絵画・彫塑の部

2013年7月27日(土)～8月4日(日)

陶芸の部

2013年8月9日(金)～8月18日(日)

写真の部

2013年8月9日(金)～8月18日(日)

書の部

2013年8月23日(金)～9月1日(日)

会 場 いわき市立美術館企画展示室

主 催 いわき市民美術展覧会運営委員会

いわき市教育委員会 いわき市文化協会

いわき市立美術館

後 援 (財)福島県報徳社 福島民報社

福島民友新聞社 いわき民報社

NHK福島放送局 ラジオ福島 福島テレビ

福島中央テレビ 福島放送 テレビユー福島

いわき市民コミュニティ放送

協 力 いわき美術協会 いわき陶芸協会

いわき書道協会 いわきアート集団

いわき写真協会

審査員 絵画・彫塑の部 山口 実

陶芸の部 伊藤公象

写真の部 辰野 清

書の部 村上皓南、矢内 齊、

芳賀二葉、谷津彤雲

絵画・彫塑の部入賞者

賞名	作品名	作家名	住所	部門
いわき市長賞	車窓から6月	松澤哲也	平下神谷	絵
いわき市議会議長賞	竜串海岸	杉本正春	内郷高坂町	絵
いわき市教育委員会教育長賞	儘	平子貞男	小川町上小川	彫
《佳作》				
いわき市文化協会会長賞	つぼみ	横山千晶	中央台	絵
福島県報徳社賞	初めの一步	木村律子	平中神谷	絵
//	秋の譜	若林喜代子	植田町	絵
//	仕立屋	阿部君子	平鎌田	絵
美術館友の会賞	CORROSION—'13—Ⅲ	鈴木儀一	中央台	絵
有限会社トーカイ賞	プティックの前で	大塚多嘉子	平谷川瀬	絵
株式会社箱崎美術広告社賞	2013・夏	齋藤博英	常磐上湯長谷町	絵
椿屋賞	浄	大内重子	内郷内町	絵
//	漂流地	菅野裕久	平鎌田	絵
昭文堂賞	儘	平子貞男	小川町上小川	絵
//	明日へ	古川貴代美	植田町	絵
画廊喫茶モナミ賞	小学校の校庭	庄司重夫	東田町	絵
ギャラリー磐城賞	霧のビューラン山	安藤暁宏	高倉町	絵
アートスペース泉賞	コンポジション	遠藤義雄	好間町上好間	絵
アートスペース エリコーナ賞	moss - grown	小松俊介	茨城県つくば市吉瀬	彫
《特別賞》				
青少年（ギャラリーわづくりや）賞	世界	磯崎梨沙	平下神谷	絵

※青少年賞は、20歳未満の出品者が対象となる。

陶芸の部入賞者

賞名	作品名	作家名	住所
いわき市長賞	旅—1（はじまり）	佐藤 界	明治団地
いわき市議会議長賞	砂上の牢獄	石井光榮	内郷高野町
いわき市教育委員会教育長賞	広がれ！ Love 骨密度	鈴木ゆかり	平下高久
《佳作》			
いわき市文化協会会長賞	アフリカの太鼓 ウドゥ	木村洋一	四倉町
福島県報徳社賞	輪	榊田常雄	勿来町
美術館友の会賞	花器	山野辺よね子	四倉町
M氏（いわき陶芸協会）賞	呪詛	吉田重信	平下荒川
ギャラリー界限賞	筒茶碗 日だまり	鈴木タイ	四倉町
ギャラリー磐城賞	釉裏紅搔落し文組鉢	樋田和代	小名浜下神白
アートスペース泉賞	なめだんごセット	丹野美紀	平下平窪

写真の部入賞者

賞名	作品名	作家名	住所
いわき市長賞	夏の思い出	早坂慧子	平赤井
いわき市議会議長賞	怒濤に耐えて	横山 孝	石森
いわき市教育委員会教育長賞	港町にあふれる喜び	徳田崇史	好間町下好間
《佳作》			
いわき商工会議所会頭賞	廃墟の森	永山 淳	内郷宮町
いわき市文化協会会長賞	あの海に咲きし花	建川 勉	平下神谷
福島県報徳社賞	仲良し	上原久子	内郷内町
美術館友の会賞	ゆかいななま	鈴木伸明	小名浜大原

社団法人 いわき観光まちづくりビューロー賞	幽艶（新田の大山桜）	黒澤泰弘	平下平窪
//	入魂	野木道弘	常磐
福島県営業写真館協会いわき支部賞	飛翔	小野貞夫	中央台鹿島
昭文堂賞	春を駆ける	佐川かつ子	平谷川瀬
東日本国際大学賞	非日常	吉田暁欧	平下神谷
ライフ・フォート&YK写真工房賞	優しさ	石田俊一	泉町滝尻
カメラ・カラープリント ダゲール賞	山頂快晴	富岡榮子	内郷高坂町
小百合賞（有）磐植	挑戦	鈴木 美	平上平窪
カメラのキタムラ賞	耀き	柏館 健	金山町
カメラの矢吹賞	ハイ！チーズ	新妻美宏	平中平窪
いわき写真協会賞	祈願祈祷	片山ツヤ子	常磐上湯長谷町
常磐工業株式会社賞	止まった時間	岩野保幸	平南白土
テラツア賞	勝負の眼光	井戸川則隆	中央台高久

書の部入賞者

賞名	作品名	作家名	住所
いわき市長賞	節臨黄山谷詩卷	菜花琴雪	四倉町
いわき市議会議長賞	司空曙詩句	新妻淡遠	常磐湯本町
いわき市教育委員会教育長賞	ほと、ぎす	臺 麗子	遠野町滝
《佳作》			
いわき市文化協会会長賞	島崎藤村の詩	阿部嶋泉	平下平窪
福島県報徳社賞	五言詩	片寄光月	平
//	本意のごとく	江川文字	泉玉露
美術館友の会賞	晁沖之詩	吉田琴紅	内郷宮町
有限会社トーカイ賞	王漁洋詩	長久保萩泉	勿来町
洛賞	陶淵明詩	本田葉月	小名浜
//	泊石湖有懷	谷津淑夫	内郷宮町
遠藤一心堂賞	周孟簡詩	伊藤松茄	平赤井
//	臨蘇東坡李白仙詩卷	村越紫苑	平
関根一心堂賞	孟浩然詩	吉村翠苑	平
マルナカ表具店賞	杜甫詩	金成大雅	中央台高久
株式会社坂本紙店賞	山ざくら	井戸川保子	郷ヶ丘
ホープ商事株式会社賞	七言二句	小林昭夫	常磐上湯長谷町
有限会社磐植賞	李白詩	小林峯玉	湘南台
キョー和賞	孟浩然詩	関根精香	中之作
書優会賞	王維詩	藤由紫光	中央台
株式会社風雅プランニング賞	臨孔家坡前漢簡	佐藤景苑	平
株式会社風雅プランニング賞	范雎列伝	馬上溪花	平中山
いわき書道協会賞	孟浩然詩	山川榮雪	平
いわき書道協会賞	章有涓詩	笹田祐甫	勿来町
いわき書道協会賞	宇文虚中詩	樋田静流	錦町
いわき書道協会賞	錢起詩	山野遣素心	平谷川瀬
いわき書道協会賞	旅にして物戀しきに	高橋楊舟	郷ヶ丘
いわき書道協会賞	心外無法	大山嶽鳳	泉ヶ丘
いわき書道協会賞	臨傳山	鈴木多佳	平上荒川
いわき書道協会賞	厲鶚詩	大谷飛燕	平下荒川
いわき書道協会賞	文徵明詩	渡部紫葉	勿来町
いわき書道協会賞	王維詩	丹野祐子	小名浜
いわき書道協会賞	李商隱詩	佐藤清峰	好間町北好間

いわき書道協会賞	夏目漱石の詩	丹野暁華	小名浜大原
いわき書道協会賞	玉づさ	齋藤周子	泉町
いわき書道協会賞	臨金文	櫛田香風	常磐上湯長谷町
青少年賞	五言絶句	古瀬杏奈	小名浜大原
青少年賞	臨中秋帖	鈴木奈々子	平下荒川

※青少年賞は、20歳未満を対象に若手育成を目的として設けられたものであり、毎年審査員が任意に若干名選定する。

美術や美術館に親しむきっかけ作りを目的のひとつに、美術鑑賞講座、実技指導、ワークショップなどの美術館機能の一部を館外（市内の学校や地域の公民館等の公的施設など）に移動して展開している。年度途中より長期休館に入る今年度は、アウトリーチに特化した企画事業「みんなで元気になるアート・キャラバン2」のプレビューも含め、体験型の親しみやすいワークショップが充実した。

日時	講師	講座名(内容)	会場
5月23日	吉田重信 (美術家)	みんなで元気になるアート・キャラバン2 プレ・ワークショップ 光と水に遊ぶ一虹のワークショップ1 水を張った桶の中の鏡に太陽光を反射させて虹を作り写真で撮影する。この手法で作品発表を続ける作家を講師に、水や光、虹の美しさについて考えるワークショップ。どこに虹を作るか、写真全体の構図はどうするかなどを工夫しながら撮影に挑戦。参加者の作品は、8月7日～9月1日まで、いわき芸術文化交流館アリオス1階東口ウォール・ギャラリーに展示。 雨天、曇天の時は、プリズム越しに世界を眺める「虹ノカンサツ」を実施。	平第二中学校
5月25日	吉田重信 (美術家)	みんなで元気になるアート・キャラバン2 プレ・ワークショップ 光と水に遊ぶ一虹のワークショップ2	江名中学校
5月31日	吉田重信 (美術家)	みんなで元気になるアート・キャラバン2 プレ・ワークショップ 光と水に遊ぶ一虹のワークショップ3	錦中学校
6月4日	吉田重信 (美術家)	みんなで元気になるアート・キャラバン2 プレ・ワークショップ 光と水に遊ぶ一虹のワークショップ4	四倉中学校
6月12日	吉田重信 (美術家)	みんなで元気になるアート・キャラバン2 プレ・ワークショップ 光と水に遊ぶ一虹のワークショップ5	永崎小学校
6月20日	吉田重信 (美術家)	みんなで元気になるアート・キャラバン2 プレ・ワークショップ 光と水に遊ぶ一虹のワークショップ6	久之浜第一小学校
7月10日	吉田重信 (美術家)	みんなで元気になるアート・キャラバン2 プレ・ワークショップ 光と水に遊ぶ一虹のワークショップ7	永崎小学校
7月20日	吉田重信 (美術家)	みんなで元気になるアート・キャラバン2 プレ・ワークショップ 光と水に遊ぶ一虹のワークショップ8	いわき芸術文化交流館アリオス
8月22日	吉田重信 (美術家)	みんなで元気になるアート・キャラバン2 プレ・ワークショップ 光と水に遊ぶ一虹のワークショップ9	いわき芸術文化交流館アリオス
8月9日	パフォーマーNiA (パフォーマー)	みんなで元気になるアート・キャラバン2 プレ・ワークショップ ヨーヨーパフォーマンス&ワークショップ いわき市出身のパフォーマーNiAによるヨーヨー・パフォーマンスを鑑賞したり、実際にヨーヨーの使い方を教わり、みんなで基本技2種に挑戦するワークショップ。ヨーヨーの持ち方、姿勢をはじめとする表現の基礎を教わりながら体全体を動かすリフレッシュ法を体験した。	中央台東小学校学童保育



移動美術館/光と水に遊ぶ一虹のワークショップ2
江名中学校



移動美術館/ヨーヨーパフォーマンス&ワーク
ショップ



講演会/ゲスト・トーク「実験工房を語る」

日時	講師	講座名(内容)	会場
9月14日	渡辺おさむ (アーティスト)	みんなで元気になるアート・キャラバン2 プレ・ワークショップ スイーツアートでデコレーション フェイククリーム・アーティストといっしょにフルーツや生クリームなどのフェイクフードを使ったデコレーションケーキ作りに挑戦するワークショップ。 今回は、美術館での開催に先立ち、泉公民館へ講師とともに出張し、公民館の少年教室に参加する小学3～6年生25名とともに作品制作を実施。本格的な道具や完成度の高いフェイクフードが子どもたちの好奇心や意欲を大いにかきたてた。	泉公民館
3月7日	伊藤公象 (美術家)	収蔵作家ワークショップ 『土』とあそぶ。 平第三中学校を会場に同校の美術部員23名が参加した収蔵作家によるワークショップ。 作家作品《木の肉、土の刀》シリーズの表現を借り、陶土280kgを使った大型のインスタレーション作品を制作し3月中旬まで学校に展示した。	平第三中学校

普及事業 講演会

企画展の内容、およびその背景の理解をより深めるために、出品作家や専門の講師を招聘して実施。スライドなどを使ってのレクチャー、作品を前にしてのギャラリートークや対談など多様なスタイルを採り、より深くより身近な美術鑑賞に繋がるような講演会を開催した。

日時	講師	講座名(内容)	会場
4月29日	大日方欣一 (フォトアーキビスト／武蔵野美術大学造形研究センター客員研究員)	ゲスト・トーク「実験工房を語る」 「実験工房展」に併せて開催。 実験工房の研究者、大日方欣一氏が、企画展示室内で展示作品に即したトークを行った。	企画展示室
7月15日	山口啓介 (美術家)	hakobuneプロジェクトアーティスト・トーク hakobuneプロジェクトの一環。プロジェクトの中心作品《歩く方舟 on いわき—玉響の休息》を前に、作品について、またプロジェクトについて説明した。その後会場をセミナー室に移し、現在に至る作品のスライドにより自作について語った。	正面玄関前、セミナー室
9月8日	北川フラム (アートディレクター) 山口啓介 (美術家)	対談 北川フラム×山口啓介「《歩く方舟》がはこぶもの」 hakobuneプロジェクトの一環として開催。瀬戸内国際芸術祭2013で作品《歩く方舟》が生まれた経緯など、芸術祭のプロデューサー北川フラムと山口啓介の対談から明らかにしていった。また、《歩く方舟》の今後の展開などについても話が及び、興味深い内容となった。	1階ロビー

普及事業 ギャラリートーク

作品鑑賞の一助として、常設展では毎週土曜日に、企画展では土曜日、日曜日を中心に開催した。また、常設展・企画展とも、随時、要望に応じて団体説明を実施している。



講演会／対談 北川フラム×山口啓介



ワークショップ／御家流呈茶席



ワークショップ／カラーセラピー体験

日時	講師	講座名(内容)	会場
毎週土曜日 (24回開催)	当館学芸員	常設展ギャラリートーク 常設展展示作品の解説	常設展示室
5月5日 6月2日	当館学芸員	企画展ギャラリートーク 「実験工房展」展示作品の解説	企画展示室
通年、随時	当館学芸員	団体説明 常設展、および企画展の団体説明	常設展示室、企画展示室

普及事業 ワークショップ

美術、造形に限定しない幅広い表現活動について、実技の習得から応用まで講師を中心に参加者の自主性に多くを委ねるかたちで実施。東日本大震災後の美術館の取り組みとして昨年度より実施している「みんなで元気になるアートシリーズ」を「みんなで元気になるアートのひろば」として継続。ワークショップの成果を展覧会という形式をもって広く市民に公開する機会も設け積極的に展開した。

日時	講師	講座名(内容)	会場
4月20日 4月21日	安藤綾信 (御家流宗家) 御家流いわき会、 緑天会	御家流呈茶席 「安藤信正展」の関連事業。 御家流の宗家安藤綾信氏(安藤家第16代当主)協力を得て開催。安藤家に伝わる御家流茶道具、作法、茶席の運びなど、他とは異なる一流の茶席を呈した。	1階ロビー
6月22日 6月23日	久保木桂子 (画家)	魅惑の日本画材—日本画ってな～に？ 「京の四季展」に併せて開催。 顔彩、岩絵の具などを使って色紙絵に挑戦した。日本画材の特色を学び、色で楽しむワークショップ。参加者は初めての画材に苦勞をしながらも日本画材特有の絵具の美しさを生かした作品を仕上げた。	セミナー室
6月29日 (午後、夜) 7月5日 7月12日 (計4回)	梶塚宏之 (日本茶インストラクター)	セミナー&ワークショップ 初夏に味わう—煎茶の楽しみ 「京の四季展」に併せて開催。 煎茶の基本的な知識、おいしい入れ方、日常生活での活用法などについてのお話を聞きながら、実際に自分たちで入れながら味わい、体験するワークショップ。身近にありながら以外に知らない日本の文化「煎茶」の味わいや効能を再認識した。	セミナー室
7月6日	山口啓介 (美術家) 山口作子 (カセットプラント ファクトリー)	hakobuneプロジェクト ボランティア説明会 山口啓介のhakobuneプロジェクトの一環として開催。カセットプラント作品の制作に参加するボランティアスタッフを対象にカセットプラント作品についての解説を行うカセットに封じる花の準備など一連の作業についての説明を行った。また、自分の作品のことそしてhakobuneプロジェクトことについても概説し、本プロジェクトの成功に向けてボランティアスタッフと作家の意識の共有を図った。	セミナー室



ワークショップ/初夏に味わう—煎茶の楽しみ



ワークショップ/ hakobune プロジェクト
ボランティア説明会



ワークショップ/カセットプラント・ワーク
ショップ

日時	講師	講座名(内容)	会場
7月15日	山口啓介 (美術家) 山口作子 (カセットプラント ファクトリー)	hakobuneプロジェクト カセットプラント・プレ・ワークショップ hakobuneプロジェクトの一環として開催。作家とボランティアスタッフが、花のドライ、カセットへの樹脂流しなど実際のカセットプラント制作に着手。作品展示に向けて実際の作業を始動させた。以降9月7日の作品設置に向けて、ボランティアスタッフによる準備作業は継続された。	セミナー室
8月17日	馬目佳世子 (アートセラピスト)	みんなで元気になるアート・キャラバン2 プレ・ワークショップ 心のエネルギーを高めるカラーセラピー体験 「色を使ってさぐってみよう オンリーワンの自分らしさ」 2種類のぬりえを通して、「自分とは何か? 自分らしさとは何か?」を考えた ワークショップ。	セミナー室
9月7日	山口啓介 (美術家)	hakobuneプロジェクト カセットプラント・ワークショップ hakobuneプロジェクトの一環として開催。作家と参加者、ボランティアスタッフが一同に会し、カセットプラントによる作品制作に臨んだ。1日間の協同作業で、美術館正面玄関を覆い尽くす大作品《flower room—方舟の第一宮—》を仕上げた。作品は「hakobuneプロジェクト 関連作品と資料展」の入り口を飾る作品として観客の目を楽しませた。	1階ロビー
9月7日～ 9月16日 (全9日間)	hakobuneプロジェ クト・スタッフ	hakobuneプロジェクト カセットプラント・オープン・ワークショップ hakobuneプロジェクトの一環として開催。hakobuneプロジェクト関連作品と資料展の会期に併せて実施。カセットプラント作品制作を自由に体験できる特設コーナーを設け、できるだけ多くの来場者にhakobuneプロジェクトへの参加を図った。	1階ロビー
9月15日	渡辺おさむ (アーティスト)	みんなで元気になるアート・キャラバン2 プレ・ワークショップ 渡辺おさむさんといっしょにスイーツデコでパティシエ気分 フェイクフーズやフェイククリームを用いてデコレーションケーキづくりに挑戦。台風による悪天候にも関わらず欠席者もなく、私語も忘れる熱中ぶりで参加者全員がカワイイ作品を仕上げた。	2階ロビー
9月16日	山口啓介 (美術家) 平川克美 (文筆家)	hakobuneプロジェクトクロージング・ワークショップ—玉響の休息の終わり— hakobuneプロジェクトの一環として開催。「hakobuneプロジェクト」の終了に併せて実施。「hakobuneプロジェクト 関連作品と資料展」の出品作品の共作者平川克美氏との対談。その後、参加者が、山口が制作した「塗り絵」に色彩を施しながら、「歩く方舟」新たな旅立ちとその行く末について考えた。	1階ロビー
12月22日～ 1月13日 (16日間)	美術館スタッフ	かんたん！ 版画体験コーナー オリジナルカードをつくろう！ 「いわき市小・中学生版画展」の関連事業。会場を文化センターに移しての開催にともない、例年のスタイルを一新、フロッタージュ技法によるカードづくりに挑戦。会場内で参加者が自由に体験できる特設コーナーを設けて実施し、多くの参加者を得た。	文化センター展示 室
12月23日 (2回)	岡田好弘 (工芸作家) 当館学芸員	わくわく！ アートスクール あたらしいみかんのむきかた 「いわき市小・中学生版画展」の関連事業。『あたらしいみかんのむきかた』の著者、自らみかんむきアーティストを称する岡田好弘を講師にむかえ、あたらしいみかんのむきかたを体験。講師のみかんむきパフォーマンスの後、丁寧な指導の下参加者はそれぞれ「へび」、「うま」、「さる」をむき出した。 台風の影響で講師の到着が遅れるというアクシデントに、午前部の開催は、急遽、学芸員が講師を務めるという対応となった。	文化センター多目 的室



ワークショップ/カセットプラント・オープン・
ワークショップ



ワークショップ/渡辺おさむさんといっしょに
スイーツデコでパティシエ気分



実技講座/親子で体験：伝統の美～漆絵で描く～

日時	講師	講座名(内容)	会場
1月12日	パフォーマーNiA (パフォーマー)	春を祝うパフォーマンス GO!GO!ヨーヨー ヨーヨーの基本技2種を教わり、みんなで遊んだ後、講師によるパフォーマンスを楽しんだ。	文化センター多目的室
3月8日 8月9日	伊藤公象 (美術家)	収蔵作家ワークショップ 「土」であそぶ。 収蔵作品への親しみと、より深い理解への一助となることを目的に例年開催していたが本事業であるが、講師を務めた伊藤公象氏、およびいわき陶芸協会会員の皆様の協力により休館中の様々な制約をクリアして本年度も開催。講師を中心に、参加者全員の共同作業で直径5メートルのインスタレーション作品を制作。3月31日まで展示。	正面玄関前広場

普及事業 実技講座

普段体験する機会がなく、表現する楽しさを味わうことができ、日常生活や今後の制作活動に活かせる内容を用意する。

日時	講師	講座名(内容)	会場
7月27日 7月28日	山内泰次 (漆芸家)	漆芸～漆絵～ 漆芸の装飾技法である漆絵と蒔絵を体験する講座。一般の部では、2日連続で6寸皿(18cm)に本漆の色漆と金蒔絵を使って装飾を施す。親子の部では、2時間で漆塗りのスプーンに色漆と蒔絵で装飾し、1組で2本制作。漆の魅力味わえるよい機会となった。	実技講習室
11月23日 11月24日	西郷匡史 難波立子 (造形作家・studio RISA主宰)	ガラス ペーパーウエイト作り ガラス溶融炉など本格的な設備のある遠野町のstudio RISAにて実施。高温の炉の前での制作は危険をとまなうため講師2人に参加者3名、4グループという構成で進める。炉で溶かした船状のガラスに色を付け、形を変えてペーパーウエイト2点を制作。1点目で制作方法を覚え、2点目で構想を練りオリジナルのペーパーウエイトを完成させた。なかなかできない経験に参加者は満足していた。	Studio RISA
11月31日 12月1日	西郷匡史 難波立子 (造形作家・studio RISA主宰)	ガラス ペーパーウエイト作り(追加講座) 11月23、24日に実施された「ガラス ペーパーウエイト作り」は申し込み者が多く、多数の落選者が生じたことから、西郷先生、難波先生のご厚意により、同一内容で落選者を対象に追加講座を実施した。	Studio RISA
3月14日 3月15日	中沢圭子 (折り紙建築作家・折り紙建築開主宰)	「折り紙建築 立体ペーパーアートの世界」 平面から立体、折り畳むと元の平面になる折紙建築の講座。「季節春のカードを作る」「建築物のカードを作る」「幾何学模様カードを作る」の3コースを用意。折り紙建築の仕組み、ケント紙への転写方法、カットの仕方など基礎的なことを学んだ後に、各テーマに沿ったカードを2点制作する。自宅でできる発展課題も用意され参加者は意欲的に取り組んでいた。	いわき市文化センター 1階大講義室

普及事業 公開制作 (公開講座)

技法の理解、作品の理解をより深く具体的にすることを目的に開催。



実技講座/ガラスペーパーウエイト作り



実技講座/折り紙建築



公開制作/《歩く方舟》公開制作

日時	講師	講座名(内容)	会場
7月6日 (全2回)	山口啓介 (美術家) 城所ケイジ (チェンソーアーティスト)	hakobuneプロジェクトの関連事業として開催。チェンソーアーティスト城所ケイジと作家山口啓介のコラボレーションによる作品《歩く方舟 on いわき-玉響の休憩》の制作の第一段階、木材から作品を削り出す過程を一般に公開した。	正面玄関前広場
7月7日 7月13日 7月14日	山口啓介 (美術家)	hakobuneプロジェクトの関連事業として開催。参加者も作品制作に参加できるかたちを採り、プロジェクトの中心となる《歩く方舟 on いわき-玉響の休憩》の制作作業を一般公開のもと行った。	正面玄関前広場
7月27日	山内泰次 (漆芸家)	漆芸～伝統の美：漆絵～ 木地に漆絵や蒔絵を使って装飾する過程を公開。また、漆工芸や漆、漆芸品の魅力、道具や技法についても、山内先生の作品を鑑賞しながら話していただく。漆芸及び漆芸品の魅力を再発見できるよい機会となった。	実技講習室

普及事業 映像鑑賞会

映像ソフト（DVD等）の利用により、主に企画展にあわせた映像鑑賞会を開催する催し。（本年度は、映像鑑賞会は未開催。）

普及事業 コンサート& パフォーマンス

時代とともに多様化するさまざまな表現芸術をさまざまな角度から紹介、検証する試み。

ことに今年度は、音楽や映像表現とかかわりの深い企画展が開催され、本事業の真骨頂を実感してもらえる良い機会を持つことができた。

日時	講師	講座名(内容等)	会場
5月6日	川崎弘二 (電子音楽研究) 有馬純寿 (音響)	〈ミュージック・コンクレート電子音楽オーディション〉再現コンサート (レクチャー付) 1956年に開催された実験工房のコンサートを再現。レクチャーを交えながら、戦後の電子音楽に影響を与えた実験工房の音楽を体験する機会を提供した。	2階ロビー
5月19日	高橋アキ (ピアニスト) 荒川医 (現代美術家) サージ・チェレブニン (音楽家、現代美術家)	〈高橋アキ／荒川医／サージ・チェレブニン現代美術パフォーマンス「城の眼／青頭巾／Environmental Mechanical Orchestra 秋山邦彦を想像する」〉 ピアノ、詩の朗読を交えた三人によるアート・パフォーマンス。途次来館者や美術館職員もパフォーマンスに参加させられる場面もあり、秋山邦彦の詩やエッセイの朗読やサティ、ケージ、メジアン、武満徹などの音楽とともに実験工房の当時の活動に思いをはせる時間となった。	2階ロビー
6月30日	真鍋尚之 (笙演奏家)	〈美しき日本の音色～笙に酔う～〉 「美しき日本-京の四季展」に関連したコンサート。雅楽器として奈良時代に伝来した古楽器笙の現代音楽における可能性を追求する演奏家により、古典曲、現代曲、自作の曲全7曲を紹介。石造りの美術館の構造をも生かした笙独特の響き、音色を堪能しつつ、現代音楽の楽しさすばらしさを体感するまたとない機会となった。	1階ロビー



公開制作／漆芸～伝統の美：漆絵～



コンサート&パフォーマンス/
GO! GO! ヨーヨー



コンサート&パフォーマンス/
現代美術パフォーマンス&コンサート

日時	講師	講座名(内容等)	会場
1月12日	パフォーマーNiA (パフォーマー)	〈春を祝うパフォーマンス「GO! GO! ヨーヨー」〉 企画事業「みんなで元気になるアート・キャラバン2」の講師として子どもたちに大好評だったヨーヨー・パフォーマーによるデモンストレーション・パフォーマンスを紹介。 ミニ・ワークショップで挑戦した技をはるかに凌ぐ難易度の高い技が次々と繰り出されるスピード感あふれる演技は、年齢を超越して感動を与える大道芸の奥深さを見ることができた。	文化センター 多目的室

普及事業 出版

● THE GALLERY =いわき市立美術館ニュース

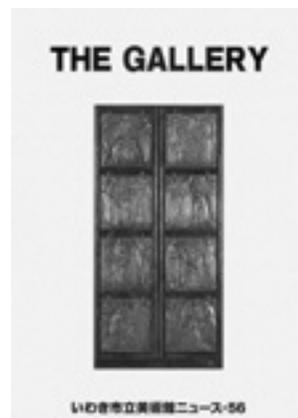
当館のニュースとして「THE GALLERY」を2回発行した。

No.56 (平成 25 年 9 月 25 日発行)

- ・いわき市 小・中学生版画展 (植田玲子)
- ・Voice おれらの町の美術展 (山本伸樹)
- ・お知らせ 美術館空調設備改修工事に伴う休館について
- ・表紙解説 ヴェナンツォ・クロチェッティ
《サン・ピエトロ大聖堂門扉「秘蹟」(ひな型最終案)》 (竹内啓子)

No.57 (平成 26 年 3 月 25 日発行)

- ・空調設備改修工事に伴う休館中の活動について (館長 佐々木吉晴)
- ・【報告】山口啓介 hakobune プロジェクト (植田玲子)
- ・みんなで元気になるアート・キャラバン2 (柴田百合子)
- ・図書室だより (竹内啓子)
- ・表紙解説 秋山泰計《夢の旅II (象・鬼牡丹)》 (杉浦友治)



●いわき市立美術館年報

平成 24 年度年報 B5 判 77 ページ

●展覧会図録等

みんなで元気になるアート・キャラバン2 (DVD 付) 19 × 13.5cm
32 ページ DVD 付



普及事業 実技講習室 の公開

“みる・きく・つくる”の実践の場として、実技講習室を随時開放している。
大型プレス機による版画など美術館ならではの制作と出会いの場となっている。



コンサート&パフォーマンス/
美しき日本の音楽一筈に酔う



ワークショップ/かんたん! 版画体験コーナー



ワークショップ/あたらしみかんのむきかた

普及事業

図書室の公開

午前9時30分から午後5時まで（7、8月の金曜日は午後8時まで）、室内閲覧に限り図書室を公開している。貸出業務は行っていない。展覧会図録など図書室で公開していない資料類についても、利用者の申し出により閲覧できる。また、常設展・企画展開催時には、鑑賞の一助になるよう関連図書を会場内の一箇所に配置している。

普及事業

実習生の受け入れ

■博物館実習

7月26日(金)から8月8日(木)にかけて、学芸員資格所得を目的とする博物館実習を行い5名の実習生を受け入れた。

■ジュニア・インターンシップ、職場体験学習

若者の働く意識の喚起、正しい職業理解を目的とした職場学習の要請を受けて、ジュニア・インターンシップ、職場体験を受け入れた。

8月20日(火)～8月22日(木) いわきコンピュータ・カレッジ 2名

9月4日(水)～9月5日(木) いわき市立磐崎中学校 1名

9月18日(水) いわき市立豊間中学校 4名

普及事業

共催事業

月日	講師等	講座名	共催先	会場
7月27日	絵画・彫塑の部招待作家	市美展 絵画・彫塑の部 招待作家による 入選作品批評会		企画展示室
8月11日	写真の部招待作家	市美展 写真の部 招待作家による作品 解説会		企画展示室
8月25日	書の部審査員	市美展 書の部 審査員による作品 解説会		企画展示室
9月7日 9月8日	共催：いわき市立美術 館友の会、いわき美術 協会	裸婦デッサン会		企画展示室



ワークショップ／「土」であそぶ。

所 蔵 資 料

- A. 美術作品の収蔵状況
- B. 美術作品の貸出状況
- C. 資料の購入等に関する状況

A. いわき市立美術館美術品収蔵状況

年度	購 入		寄 贈		移管 点数	計 点数	寄 託	
	点数	備 考	点数	備 考			点数	備 考
昭55年	68	※	10			78	1	一色ちかこ
56	115	※	337	宝船 312 点		452	1	白河城跡 (h.19 返却)
57	75		26	※		101		
58	357		67	資料 3 点含む	5	429		
59	54		27		4	85		
60	53		37			90		
61	23		105		7	135	1	下村観山
62	7		22			29		
63	21		8			29		
平成元	11		9		2	22		
2	17		28	資料 2 点含む		45	38	
3	10		5			15	1	舟越桂
4	9		9			18	4	田口安男
5	9	※	0			9		
6	5		4			9	8	田口安男
7	7		4			11		
8	7		2			9		
9	11		1			12		
10	28		6			34		
11	8	※	37			45	- 38	平成 2 年度分返却
12	11		23			34	5	松田松男作品
13	8		22			30		
14	8		1			9		
15	12		42			54	2	中村一美
16	33		13			46		
17	17		8			25		
18	3		1			4		
19	0		3			3		
20	0		30			30	14	イケムラレイコ13点、河口龍夫1点
21	0		1		0	1		
22	0		0		0	0		
23	0		40	資料 9 点含む	0	0		
24	0		116		0	40		
25	0		18		0	18		
計	987		1,062		18	2,067	37	

※：平成 21 年度に見直し。

B. 美術品の貸し出し状況

作家名	作品名	貸し出し先	貸出期間	目的 (展覧会名)
井上長三郎	葬送曲	神奈川県立近代美術館	2013年 6月21日～8月28日	戦争/美術 1940-1950— モダニズムの連鎖と変容
工藤哲巳	限定プールに於ける増 殖性連鎖反応	国立国際美術館 東京国立近代美術館 青森県立美術館	2013年 6月28日～(2014年返却予 定)	あなたの肖像—工藤哲 巳回顧展
工藤哲巳	遺伝染色体の中の散歩			

作家名	作品名	貸し出し先	貸出期間	目的（展覧会名）
パブロ・ピカソ	槍を突いた後	町田市立国際版画美術館 足利市立美術館	2013年 10月1日～（2014年返却予定）	パブロ・ピカソ一版画 の線とフォルム一展
パブロ・ピカソ	槍			
パブロ・ピカソ	母と踊り子と音楽家			
パブロ・ピカソ	闘牛士と女と馬			
パブロ・ピカソ	ジャクリーヌ			
パブロ・ピカソ	バッカス祭			
パブロ・ピカソ	闘牛			
パブロ・ピカソ	女			
パブロ・ピカソ	豊かな髪の子			
パブロ・ピカソ	ランプの下の静物			
パブロ・ピカソ	草上の昼食			
パブロ・ピカソ	女の顔			
パブロ・ピカソ	帽子を被る女の胸像			
パブロ・ピカソ	泉のほとりの裸婦			
中西夏之	コンパクトオブジェ	名古屋市美術館 渋谷区立松濤美術館	2013年 10月1日～（2014年返却予定）	ハイレッド・センター： 『直接行動』の軌跡
高松次郎	影A			
中村一美	道元	国立新美術館	2014年 3月6日～（2014年返却予定）	中村一美展
中村一美	聖			
中村一美	破庵29(奥聖)			
中村一美	立ち重なる叢林			
中村一美	葡萄園と桑畑による円環構造			

C. 所蔵資料に関する状況

●図書資料

	購入			受贈			計
	図書	図録・目録	館報・紀要	図書	図録・目録	館報・紀要	
平成22年度まで	4,885	145	6	2,384	17,429	4,543	29,392
平成23年度	140	3	0	16	301	118	578
平成24年度	70	15	0	85	259	179	608
平成25年度	16	8	0	82	460	214	780
計	5,111	171	6	2,567	18,449	5,054	31,358

●映像資料

	購入								受贈								計			
	スライド	フィルム	ビデオテープ	LD	CD-ROM	カセットテープ	CD	DVD	DVD-ROM	スライド	フィルム	ビデオテープ	LD	CD-ROM	カセットテープ	CD		EB	DVD	DVD-ROM
平成22年度まで	16	11	245	51	12	0	4	68		0	0	59	0	53	1	10	1	45		576
平成23年度								1	2					1		1		2		7
平成24年度							6	3					3		4		6	1		23
平成25年度							1	1				1		3		1		8		15
計	16	11	245	51	12	0	11	73	2	0	0	60	0	60	1	16	1	61	1	621

D. 平成25年度新収蔵作品

凡 例

1. この目録には、平成25年度のいわき市立美術館新収蔵作品を収録した。
2. 作品の分類は、平面作品Ⅰ（直接技法に基づくもの）、平面作品Ⅱ（間接技法に基づくもの：版画等）、平面作品Ⅲ（ポスター、写真等）、立体作品、映像・その他とした。
3. 各作品のデータは以下の通り。
整理番号／作者名（生没年）
作品名
制作年
技法・材質
寸法
サインの位置及び年記
最初の発表展覧会及び受賞歴
収蔵の経緯
登録番号
4. 作家名は分類ごとに日本人作家と外国人作家に大別し、日本人作家は五十音順に、外国人作家は姓のアルファベット順に配列した。
5. 制作年は、作品に明記されているもの、及び制作事情の明確なものに限って記載した。
6. 寸法は、センチメートルを単位として、平面作品では画面の縦×横、立体作品では高さ×幅×奥行きとした。

【平成25年度 収蔵作品分類】

平面作品Ⅰ	11点
平面作品Ⅱ	7点
平面作品Ⅲ	0点
立体作品	0点
映像・その他	0点
資料	0点
計	18点

〈平面作品Ⅰ〉

1. 小山田二郎（1914～1991）

シャンデリア

1975頃

水彩・紙

51.2×36.0

個展（フマギャラリー、1976）

寄贈 田口安男

2013-1



2. 柴田善登（1910～1995）

自画像

不詳

油彩・カンヴァスボード

33.1×24.0

寄贈 三遊亭京楽

2013-12



3. 柴田善登（1910～1995）

常磐・綴

1948

鉛筆・紙

18.5×25.2

寄贈 三遊亭京楽

2013-13



4. 柴田善登（1910～1995）

人物（1）

1949

鉛筆・紙

30.8×23.2

寄贈 三遊亭京楽

2013-14



5. 柴田善登 (1910~1995)
人物 (2)
1950
鉛筆・紙
36.4×26.0
寄贈 三遊亭京楽
2013-15



6. 柴田善登 (1910~1995)
水上ホテル (1)
1958頃
鉛筆・紙
24.5×35.5
寄贈 三遊亭京楽
2013-16



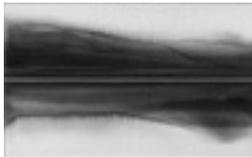
7. 柴田善登 (1910~1995)
水上ホテル (2)
1958頃
鉛筆・紙
24.5×35.5
寄贈 三遊亭京楽
2013-17



8. 柴田善登 (1910~1995)
水上ホテル (3)
1958頃
鉛筆・紙
24.5×35.5
寄贈 三遊亭京楽
2013-18



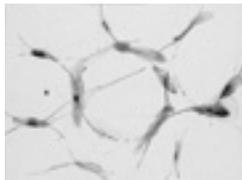
9. 福島秀子 (1927~1997)
五月の振動Ⅳ
1986
アクリル・カンヴァス
97.0×162.0
個展 (南天子画廊、
1986)
寄贈 福島和夫
2013-9



10. 福島秀子 (1927~1997)
(題名不詳)
(制作年不詳)
水彩・紙
76.7×56.7
寄贈 福島和夫
2013-10



11. 福島秀子 (1927~1997)
(題名不詳)
(制作年不詳)
水彩・紙
56.5×75.8
寄贈 福島和夫
2013-11



〈平面作品Ⅱ〉

1. 秋山泰計 (1927~1986)
同行二人
1970
木版・紙 (ed.3/20)
90.0×63.0
日本版画協会展、1970
寄贈 田口安男
2013-2



2. 秋山泰計 (1927~1986)
鳥をねらう猫を抱く少女
1976
木版・紙 (ed.2/50)
84.0×43.0
遺作展 (みゆき画廊、1988)
寄贈 田口安男
2013-3



3. 秋山泰計 (1927~1986)

手品

1984

木版・紙 (ed.2/20)

83.0×55.0

個展 (みゆき画廊、1985)

寄贈 田口安男

2013-4



4. 秋山泰計 (1927~1986)

夢の旅II (象・鬼牡丹)

1985

木版・紙 (ed.2/20)、
(三部作)

90.0×185.0

個展 (みゆき画廊、1985)

寄贈 田口安男

2013-5



5. 秋山泰計 (1927~1986)

夢の旅I (群鳥)

1985

木版・紙 (1987年秋山

泰計遺作管理会刷

ed.5/30)、(三部作)

91.1×181.8

個展 (みゆき画廊、1985)

寄贈 秋山照子

2013-6



6. 秋山泰計 (1927~1986)

夢の旅II (象・鬼牡丹)

1985

木版・紙 (1987年秋山

泰計遺作管理会刷

ed.5/30)、(三部作)

91.4×182.0

個展 (みゆき画廊、1985)

寄贈 秋山照子

2013-7



7. 秋山泰計 (1927~1986)

夢の旅III (富士見逆さま)

1985

木版・紙 (1987年秋山

泰計遺作管理会刷

ed.5/30)、(三部作)

91.1×181.6

個展 (みゆき画廊、1985)

寄贈 秋山照子

2013-8



いわき市立美術館条例

昭和58年12月27日いわき市条例第58号

(設置)

第1条 美術に関する市民の知識及び教養の向上を図り、市民文化の発展に寄与するため博物館法（昭和26年法律第285号。第10条において「法」という。）第18条の規定により、美術館を設置する。

(名称及び位置)

第2条 美術館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
いわき市立美術館	いわき市平字堂根町4番地の4

(事業)

第3条 いわき市立美術館（以下「美術館」という。）は、その目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 美術作品その他の美術に関する資料(以下「美術作品等」という。)を収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 美術に関する調査及び研究を行うこと。
- (3) 美術に関する展覧会、講演会、講習会、映写会等を開催すること。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、美術館の設置の目的を達成するために必要な事業。

(観覧料)

第4条 美術館の常設展（美術作品等の常設展示をいう。以下同じ。）を観覧しようとする者は、別表第1に定める観覧料を納付しなければならない。ただし、美術館の特別展（常設展以外の展示をいう。以下同じ。）と併せて観覧する場合又は国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）第2条に規定する国民の祝日において観覧する場合は、この限りでない。

2 特別展を観覧しようとする者は、別表第2に定める額の範囲内において、市長が定める観覧料を納付しなければならない。

(撮影等の許可及び料金)

第5条 学術研究等のため、美術館に展示され、又は保管されている美術作品等の写真撮影、模写又は模造等しようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

2 前項の許可を受けた者は、別表第3に定める撮影等料金を納付しなければならない。

(観覧料等の免除)

第6条 市長は、次の各号の一に該当すると認めるときは、観覧料（常設展に係るものに限る。）又は撮影等料金を免除することができる。

- (1) 外国人留学生が、福島県の実施する外国人留学生文化施設等無料観覧制度に基づき観覧するとき。
- (2) 国又は地方公共団体が行う教育、学術又は文化に係る事業の用に供するため撮影等をするとき。

(観覧料等の不返還)

第7条 既納の観覧料又は撮影等料金は、返還しない。ただし、市長は、災害その他不可抗力により、観覧又は撮影等を行うことができなくなつたときは、既納の観覧料又は撮影等料金を返還することができる。

(入館の制限)

第8条 教育委員会は、美術館に入館しようとする者又は入館している者が次の各号の一に該当すると認めるときは、入館を制限し、又は館外へ退館させることができる。

- (1) 他人に危害を加え、又は迷惑を及ぼすおそれがあるとき。
- (2) 施設、設備又は美術作品等を損傷するおそれがあるとき。

(3) 前2号に掲げるもののほか、美術館の管理に支障があると認めるとき。

(賠償責任)

第9条 入館者は、施設、設備又は美術作品等を損傷し、又は滅失したときは、教育委員会の指示するところに従い、その損害を賠償し、又はこれを原状に回復しなければならない。ただし、市長は、相当の理由があると認める場合は、その全部又は一部を免除することができる。

(美術館協議会)

第10条 法第20条第1項の規定に基づき、いわき市立美術館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2 協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから、教育委員会が委嘱する。

3 協議会は、委員15人以内で組織する。

4 協議会の委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(委任)

第11条 この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

この条例は、昭和59年4月28日から施行する。ただし、第1条から第3条まで、第10条及び第11条の規定は、昭和59年4月1日から施行する。

(中略)

附 則（平成24年3月21日いわき市条例第35号）

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

別表第1（第4条関係）

区 分	観 覧 料	
	個 人	団 体
一 般	210円	160円
高校生、高等専門学校生、大学生	140円	110円
小学生、中学生	70円	50円

備考 団体とは、20人以上をいう。

別表第2（第4条関係）

区 分	観 覧 料	
	個 人	団 体
一 般	1,500円	1,200円
高校生、高等専門学校生、大学生	740円	590円
小学生、中学生	440円	350円

備考 団体とは、20人以上をいう。

別表第3（第5条関係）

区 分		料 金	
写 真 撮 影	モノクローム	1点1回につき	1,570円
	カラー	1点1回につき	3,150円
模 写 、 模 造		1点1日につき	2,100円
熟 覧 、 拓 本		1点1回につき	210円

備考 1 ^{びょう}屏風は、1双を1点とする。

2 1そろいの卷子（巻物をいう。）は、1巻を1点とする。

3 対幅は、1幅を1点とする。

4 撮影は、同一作品について原板3枚以内を1回とする。

いわき市立美術館管理規則

昭和59年3月31日いわき市教育委員会規則第6号

(趣旨)

第1条 この規則は、いわき市立美術館条例（昭和58年いわき市条例第58号。以下「条例」という。）の規定に基づき必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 いわき市立美術館（以下「美術館」という。）に、次の課及び係を置く。

庶務課 庶務係

学芸課 学芸係、普及係

(事務分掌)

第3条 課の事務分掌は、次のとおりとする。

庶務課

- (1) 公印の保管に関すること。
- (2) 予算の経理に関すること。
- (3) 美術館の維持管理に関すること。
- (4) 観覧料及び撮影等料金の徴収に関すること。
- (5) 統計に関すること。
- (6) 美術館協議会に関すること。
- (7) 前各号に掲げるもののほか、学芸課の所掌に属しない事務に関すること。

学芸課

- (1) 美術作品等の収集、保管及び展示に関すること。
- (2) 美術に関する専門的な調査研究に関すること。
- (3) 展覧会、研究会、講演会、映写会等の開催に関すること。
- (4) 美術に関する案内書、解説書、目録等の刊行に関すること。
- (5) 美術作品等の利用に関する助言及び指導に関すること。
- (6) 美術作品等の寄贈及び寄託に関すること。
- (7) 前各号に掲げるもののほか、学芸事務に関すること。

(職及び職務)

第4条 美術館に館長、副館長、課に課長、係に係長を置き、必要に応じ、参事、主幹、主任主査、専門学芸員、主査、主任学芸員、事務主任、主事、学芸員、主任運転手及び運転手を置く。

- 2 館長は、上司の命を受け、館務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
- 3 参事は、上司の命を受け、美術館の事務に関する企画及び調整に参画する。
- 4 副館長は、館長の職務遂行を補佐し、館長に事故があるときは、その職務を代理する。
- 5 主幹は、上司の命を受け、館長が定める特定の事務を掌理する。
- 6 課長は、上司の命を受け、課の事務を処理する。
- 7 係長は、上司の命を受け、係の事務を処理する。
- 8 主任主査は、上司の命を受け、館長が定める特定の事務を処理する。
- 9 専門学芸員は、上司の命を受け、館長が定める特定の専門的な事務を処理する。
- 10 主査は、上司の命を受け、美術館の事務の一部を分担処理する。
- 11 主任学芸員は、上司の命を受け、係の事務のうち特定の事務を処理する。
- 12 事務主任は、上司の命を受け、係の事務の一部を分担処理する。

- 13 主事は、上司の命を受け、事務をつかさどる。
- 14 学芸員は、上司の命を受け、専門的な事務を処理する。
- 15 主任運転手は、上司の命を受け、担任の自動車運転の業務を処理する。
- 16 運転手は、上司の命を受け、自動車運転の業務に従事する。

(休館日)

第5条 美術館の休館日は、次の各号に掲げる日とする。ただし、教育委員会は、必要があると認めるときは、これを変更し、又は臨時に休館することができる。

- (1) 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日に当たるときは、その日後のその日に最も近い休日でない日）
- (2) 1月1日から同月4日まで及び12月28日から同月31日まで

(開館時間)

第6条 美術館の開館時間は、午前9時30分から午後5時（入館は、午後4時30分）までとする。ただし、毎年7月及び8月の金曜日については、午前9時30分から午後8時（入館は、午後7時30分）までとする。

2 教育委員会は、必要があると認めるときは、これを臨時に変更することができる。

(観覧券の交付)

第7条 条例第4条の規定により、観覧料を納付した者に対して観覧券（第1号様式）を交付しなければならない。

(撮影等の許可及び料金)

第8条 条例第5条第1項に規定する撮影、模写又は模造等（以下「撮影等」という。）をしようとする者は撮影等許可申請書（第2号様式）を教育委員会に提出しなければならない。

2 教育委員会は、撮影等を許可したときは、撮影等許可書（第3号様式）を交付する。

(観覧料等の減免)

第9条 条例第6条第2号又はいわき市障害者、高齢者及び児童生徒等の利用に係る公の施設の使用料の減免に関する条例（平成13年いわき市条例第56号）第5条第1項の規定により観覧料又は撮影等料金の減免を受けようとするときは、観覧料・撮影等料金減免申請書（第4号様式）を教育委員会に提出しなければならない。

2 教育委員会は、前項の規定による申請があつた場合において、観覧料又は撮影等料金の減免を決定したときは、観覧料・撮影等料金減免通知書（第5号様式）を交付する。

(観覧料等の返還)

第10条 条例第7条の規定により観覧料又は撮影等料金の返還を受けようとする者は、その理由を記載した観覧料・撮影等料金返還申請書（第6号様式）を教育委員会に提出しなければならない。

(美術館協議会の会長及び副会長)

第11条 条例第10条に規定するいわき市立美術館協議会（以下「協議会」という。）に会長及び副会長各1人を置き、それぞれ委員の互選により定める。

2 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第12条 協議会の会議は、会長が招集し、会長が会議の議長となる。

2 協議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 協議会の会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(事務処理及び服務)

第13条 美術館における事務処理及び服務については、いわき市教育委員会事務局処務規程（昭和47年い

わき市教育委員会訓令第2号)に基づく事務処理及びサービスの例による。

(委任)

第14条 この規則に定めるもののほか、この規則の施行に関し、必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この規則は、昭和59年4月1日から施行する。ただし、第5条から第10条までの規定は、昭和59年4月28日から施行する。

(中略)

附 則 (平成22年3月31日いわき市教委規則第5号)

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

第1号様式 (第7条関係)

その1

常 設 展 観 覧 券	(切)	常 設 展 観 覧 券
金 額 取	総	金 額
いわき市立美術館	この券をもって領収に代えます。	いわき市立美術館

その2

特 別 展 観 覧 券	(切)	特 別 展 観 覧 券	(切)	常 設 展 観 覧 券
金 額 取	線	金 額	線	取
いわき市立美術館	この券をもって領収に代えます。	いわき市立美術館		券

- 備考 1 寸法、デザイン等については、その都度定める。
2 観覧券の区分は、一般、高校生・高等専門学校生・大学生及び小学生・中学生とする。

第2号様式 (第8条関係)

第2号様式 (第8条関係)

撮影等許可申請書

いわき市教育委員会殿

年月日

申請者 住所又は所在地

氏名又は名称及び代表者

電話 -

注 太枠線のみ記入してください。

第 号 年 月 日 許可	美術作品の名称	作者名	点数
日時 年 月 日 時 分から 時 分まで	目的		
方法	撮影	模写	模造
料	モノクローム	点	円 計
金	カ ラ ー	点	円
	模 写 ・ 模 造	点	円
	熟 覧 ・ 拓 本	点	円
	館長	副館長	課長
	係長	係	

第3号様式 (第8条関係)

第3号様式 (第8条関係)

撮影等許可書

殿

いわき市教育委員会殿

下記のとおり撮影等を許可します。

第 号 年 月 日 許可	美術作品の名称	作者名	点数
日時 年 月 日 時 分から 時 分まで	目的		
方法	撮影	模写	模造
料	モノクローム	点	円 計
金	カ ラ ー	点	円
	模 写 ・ 模 造	点	円
	熟 覧 ・ 拓 本	点	円
指示事項			

第4号様式（第9条関係）

第4号様式（第9条関係）

観覧料 減免申請書
撮影等料金

いわき市教育委員会

年 月 日

住所（所在地）
申請者 氏名（名称及び代表者氏名）
電話番号
担当者氏名

注意 太枠の中だけ記入してください。

観覧日時 年 月 日 時 分から 時 分まで		撮影等日時 年 月 日 時 分から 時 分まで			
区 分	常設展	特別展	撮 影 等		
一 般	人	人	写真撮影	モノクローム	点
高 校 生 高等専門学校生 大 学 生	人	人	カラ ー		点
小 学 生 中 学 生	人	人	模 写 ・ 模 造		点
計	人	人	熟 覧 ・ 拓 本		点
減免申請の理由					
<input type="checkbox"/> 減免する。 <input type="checkbox"/> 減免しない。		減免しない理由 前付すべき観覧料等 円 減免率 減免後の観覧料等 円 起 案 年 月 日 決 裁 年 月 日 施 行 年 月 日 許可番号 第 号			
館長	副館長	課長	係長	係員	

第5号様式（第9条関係）

第5号様式（第9条関係）

観覧料 減免通知書
撮影等料金

いわき市教育委員会 図

年 月 日

申請年月日 年 月 日		許可番号 第 号	
観覧日時 年 月 日 時 分から 時 分まで		撮影等日時 年 月 日 時 分から 時 分まで	
区 分	常設展	特別展	撮 影 等
一 般	人	人	写真撮影 モノクローム
高 校 生 高等専門学校生 大 学 生	人	人	カラ ー
小 学 生 中 学 生	人	人	模 写 ・ 模 造
計	人	人	熟 覧 ・ 拓 本
減免率		減免率	
減免後の観覧料		減免後の撮影等料金	

第6号様式（第10条関係）

第6号様式（第10条関係）

観覧料 返還申請書
撮影等料金

いわき市教育委員会殿

下記のとおり 観覧料 撮影等料金の返還を受けたいので申請します。

年 月 日

注 太枠線のみ記入してください。

申請者		住所又は所在地	
氏名又は名称及び代表者			
電話		-	
申請理由			
既納観覧料等			
観覧料	枚	円	
撮影料等	枚	円	
返還申請金額		円	
館長	副館長	課長	係長 係

事業経過報告

平成 26 年 3 月 31 日現在

事業名	開催期間 (日数)	料 金						入 場 者 数						25 年 度 計			
		一 般			団 体			一 般			団 体				招待	無料	
		一般	高大	小中	一般	高大	小中	一般	高大	小中	一般	高大	小中				
常設展	前期	4/2~9/16 147日間	210	140	70	160	110	50	608	59	223	21	-	-	110	2,641	3,662
	後期	0日間															
小 計 A		147日間							608	59	223	21	-	-	110	2,641	3,662 (A)
展 覧 会 事 業 展	実験工房展 - 戦後芸術を切り拓く -	4/20~6/2 39日間	1,000	600	300	800	480	240	361	23	16	48	-	-	125	1,166	1,739
	日独交流150年記念 安藤信正展	4/20~6/2 39日間	無 料													4,388	4,388
	美しき日本 京の四季展	6/15~7/15 27日間	800	400	200	640	320	160	661	18	6	87	-	-	122	1,709	2,603
	hakobuneプロジェクト	7/6~9/16 64日間	無 料													540	540
	第43回いわき市民美術展 覧会 (絵画・彫塑の部)	7/27~8/4 8日間	無 料													2,067	2,067
	(陶芸の部・写真の部)	8/9~8/18 10日間	無 料													2,262	2,262
	(書の部)	8/23~9/1 9日間	無 料													1,221	1,221
	みんなで元気になるア ート・キャラバン2	9/16~3/31 25日間	無 料													790	790
	【空空調和設備改修工事に伴う休館 平成25年9月17日~平成26年11月14日】																
	いわき市小・中学生版画展 (会場:文化センター)	12/22~1/13 16日間	無 料														3,901
小 計 B									1,022	41	22	135	-	-	247	18,044	19,511 (B)
展覧会事業計 C (A + B)																20,685	23,173 (C)
普 及 事 業	移動美術館		無 料													343	343
	講演会		無 料													71	71
	美術講座		無 料													-	-
	ギャラリー・トーク/団体 等解説		無 料													452	452
	実技講座		無 料													89	89
	公開制作		無 料													216	216
	ワークショップ		無 料													1,574	1,574
	コンサート&パフォーマンス		無 料													264	264
	映像鑑賞会		無 料													-	-
	実技講習室の公開		無 料													40	40
	図書室の公開		無 料													-	-
	共催事業		無 料													173	173
普及事業小計 D															3,222	3,222 (D)	
合 計 E (C + D)									1,630	100	245	156	-	-	357	23,907	26,395 (E)

普及事業報告

平成 26 年 3 月 31 日現在

事業名	内 容 等	講 師 等	月 日	人数	
講 演 会	ゲスト・トーク「実験工房を語る」	大日方欣一（フォトアーキビスト／武蔵野美術 大学造形研究センター客員研究員）	4月29日	25	
	hakobune プロジェクトアーティスト・トーク	山口啓介（美術家）	7月15日	12	
	対談 北川フラム×山口啓介「《歩く方》がよこぶもの」	北川フラム（アートディレクター）、山口啓介（美術家）	9月8日	34	
小 計				71	
ギャラリー・トーク	常設展	当館学芸員（2013年9月16日現在）	毎週土曜日（24回開催）	27	
	企画展 実験工房一戦後芸術を切り拓く	当館学芸員	5月5日、6月2日	11	
小 計				38	
団 体 等 解 説	（団体名） 好問第一小学校、他 9 団体	常設展・企画展・小企画展	4月26日	414	
小 計				414	
実 技 講 座	体験：漆芸～漆絵～	山内泰次（会津塗伝統工芸士）	7月27日、7月28日	9	
	親子で体験：漆芸～漆絵～ （ガラスペーパーウエイト作り）	山内泰次（会津塗伝統工芸士） 西郷匡史（造形作家）、難波立子（造形作家）	7月28日 11月23日、11月24日	9 12	
	ガラスペーパーウエイト作り（追加講座）	西郷匡史（造形作家）、難波立子（造形作家）	11月31日、12月1日	12	
	折り紙建築 立体ペーパーアートの世界	中沢圭子（折り紙建築作家）	3月14日、3月15日	47	
	小 計				89
公 開 制 作	hakobune プロジェクト公開制作 1	山口啓介（美術家）、城戸ケイジ（チェンソー・ アーティスト）	7月6日（全2回）	75	
	hakobune プロジェクト公開制作 2～4	山口啓介（美術家）	7月7日、7月13日、7月14日	125	
	漆芸～伝統の美：漆絵～	山内泰次（会津塗伝統工芸士）	7月27日	16	
	小 計				216
ワ ーク シ ョ ッ プ	御家流呈茶席	安藤綾信（御家流宗家）、御家流いわき会、 緑天会	4月20日、4月21日	213	
	魅惑の日本画材―日本画ってなに？	久保木桂子（画家）	6月22日、6月23日	38	
	セミナー & ワークショップ 初夏に味わう一煎茶の楽しみ	梶塚宏之（日本茶インストラクター）	6月29日、7月5日、7月12日（全4回）	74	
	hakobune プロジェクト ボランティア説明会	山口啓介（美術家）、山口作子（カセットプラント トファクトリー）	7月6日	11	
	hakobune プロジェクト カセットプラント・プレ・ワークショップ	山口啓介（美術家）、山口作子（カセットプラント トファクトリー）	7月15日	11	
	みんなで元気になるアート・キャラバン2 プレ・ワークショップ 心のエネルギーを高めるカラーセラピー体験	馬目佳世子（アートセラピスト）	8月17日	17	
	hakobune プロジェクト カセットプラント・プレ・ワークショップ	山口啓介（美術家）	9月7日	52	
	hakobune プロジェクト カセットプラント・オープン・ワークショップ	hakobuneプロジェクト・スタッフ	9月7日～9月16日（全9日間）	149	
	みんなで元気になるアート・キャラバン2 プレ・ワークショップ 渡辺おさむさんといっしょにスイーツデコでパティシエ気分	渡辺おさむ（アーティスト）	9月15日	47	
	hakobune プロジェクトクロージング・ワークショップ	山口啓介（美術家）、平川克美（文筆家）	9月16日	21	
	かんたん！版画体験コーナー オリジナルカードをつくろう！	美術館スタッフ	12月22日～1月13日（16日間）	826	
	あたらしいみかんのむきかた	岡田好弘（工芸作家）、当館学芸員	12月23日（全2回）	45	
	ワークショップ GO!GO!ヨーヨー	パフォーマー NiA（パフォーマー）	1月12日	51	
	取蔵作家ワークショップ「土」であそぶ。	伊藤公象（美術家）	3月8日、8月9日	19	
	小 計				1,574
コ ン サ ー ト & パ フ ォ ー マ ン ス	〈ミュージック・コンクレート電子音楽オーデション〉再現コンサート	川崎弘二（電子音楽研究）、有馬純寿（音響）	5月6日	23	
	高橋アキ / 荒井医 / サージ・チュレブニン 現代美術パフォーマンス	高橋アキ（ピアニスト）、荒井医（現代美術家）、 サージ・チュレブニン（音楽家、現代美術家）	5月19日	80	
	美しき日本の音楽～笙に酔う～	真鍋尚之（笙演奏家）	6月30日	110	
	春を祝うパフォーマンス「GO!GO!ヨーヨー」	パフォーマー NiA（パフォーマー）	1月12日	51	
小 計				264	
小 計				-	
移 動 美 術 館	みんなで元気になるアート・キャラバン2 プレ・ワークショップ 光と水に遊ぶ一虹のワークショップ1	吉田重信（美術家）（於：平二中）	5月23日	23	
	みんなで元気になるアート・キャラバン2 プレ・ワークショップ 光と水に遊ぶ一虹のワークショップ2	吉田重信（美術家）（於：江名中）	5月25日	16	
	みんなで元気になるアート・キャラバン2 プレ・ワークショップ 光と水に遊ぶ一虹のワークショップ3	吉田重信（美術家）（於：錦中）	5月31日	17	
	みんなで元気になるアート・キャラバン2 プレ・ワークショップ 光と水に遊ぶ一虹のワークショップ4	吉田重信（美術家）（於：四倉中）	6月4日	27	
	みんなで元気になるアート・キャラバン2 プレ・ワークショップ 光と水に遊ぶ一虹のワークショップ5	吉田重信（美術家）（於：永崎小）	6月12日	29	
	みんなで元気になるアート・キャラバン2 プレ・ワークショップ 光と水に遊ぶ一虹のワークショップ6	吉田重信（美術家）（於：久之浜一小）	6月20日	32	
	みんなで元気になるアート・キャラバン2 プレ・ワークショップ 光と水に遊ぶ一虹のワークショップ7	吉田重信（美術家）（於：永崎小）	7月10日	27	
	みんなで元気になるアート・キャラバン2 プレ・ワークショップ 光と水に遊ぶ一虹のワークショップ8	吉田重信（美術家）（於：アリオス）	7月20日	30	
	みんなで元気になるアート・キャラバン2 プレ・ワークショップ ヨーヨーパフォーマンス&ワークショップ	パフォーマー NiA（パフォーマー） （於：中央台東小学校学童保育）	8月9日	64	
	みんなで元気になるアート・キャラバン2 プレ・ワークショップ 光と水に遊ぶ一虹のワークショップ9	吉田重信（美術家）（於：アリオス）	8月22日	30	
	みんなで元気になるアート・キャラバン2 プレ・ワークショップ スイーツアートでデコレーション	渡辺おさむ（アーティスト）（於：泉公民館）	9月14日	25	
	取蔵作家ワークショップ「土」とあそぶ。	伊藤公象（美術家）（於：平第三中学校）	3月7日	23	
	小 計				343
	実技講習室の開放	制作活動、実技講習、実技相談等		4月～	40
	小 計				40
共 催 事 業	市美展 絵画・彫塑の部 招待作家による入選作品批評会	共催：市美展運営委員会	7月27日	60	
	市美展 写真の部 招待作家による作品解説会	共催：市美展運営委員会	8月11日	35	
	市美展 書の部 審査員による作品解説会	共催：市美展運営委員会	8月25日	25	
	裸婦デッサン会	共催：いわき市立美術館友の会、いわき美術協会	9月7日、9月8日	53	
小 計				173	
合 計				3,222	

当初予算

単位：千円

項 目	金 額	備 考
人 件 費	81,140	
管 理 費	189,501	各種委員報酬、各種委員謝金、調査研修費、基金積立金、施設運営
施設管理費	62,891	
作品購入費	0	
施設整備費	126,610	
事 業 費	40,821	
企画展示事業費	37,669	
常設展示事業費	586	
教育普及事業費	2,209	
調査研究費	357	
彫刻のある街づくり事業費		
計	311,462	

- A. 美術館協議会
B. 美術館
C. 職員名簿

A. 美術館協議会委員名簿

任期：平成24年4月1日～平成26年3月31日

役職	氏 名	職 業 (役職名)
会 長	齋藤 一彦	(社)いわき観光まちづくりビューロー 会長
副会長	吉田 隆治	いわき地域学会 代表幹事
委 員	猪狩ひろ子	いわき女性の会
委 員	井澤 義雄	いわき青年会議所OB会
委 員	磯上 芳久	福島県高等学校教育研究会美術工芸専門部会いわき支部長
委 員	織田 千代	美術家
委 員	草野 怜子	美術家
委 員	坂本美知子	株式会社いわき市民コミュニティ放送
委 員	鈴木 充子	いわき市小学校教育研究会図画工作部長
委 員	蛭田 房子	国際ソロプチミストいわき
委 員	蛭田 誠	いわき美術協会 事務局長
委 員	峰 丘	いわき市立美術館友の会 会長
委 員	武藤美智子	ブツドレア会 会長
委 員	松田 文子	いわき市子ども会育成会連絡協議会事務局長
委 員	石井 秀吾	いわき市中学校教育研究会美術専門部長

【博物館法】

第21条 博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行うもの並びに学識経験を有する者の中から当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会が任命する。

B. 美術品選定評価委員会委員名簿

任期：平成24年4月1日～平成26年3月31日

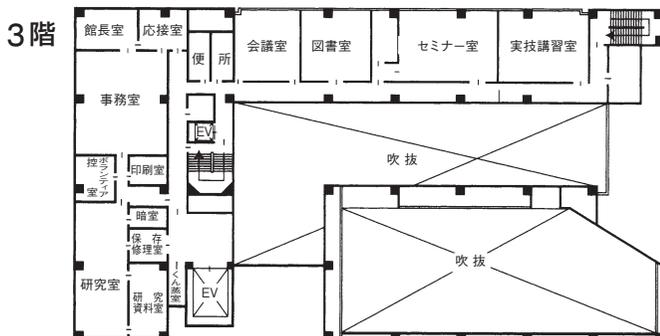
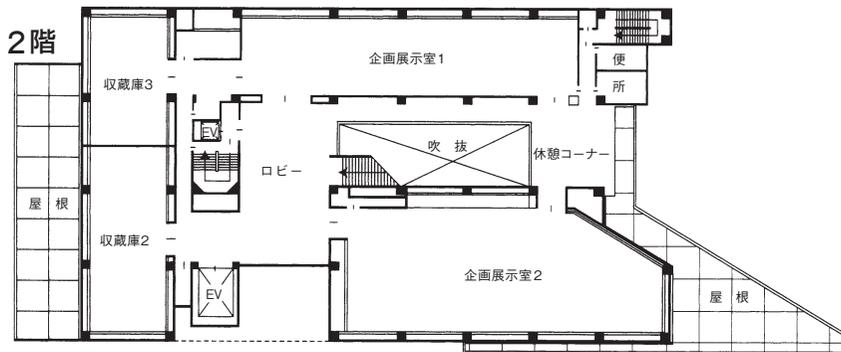
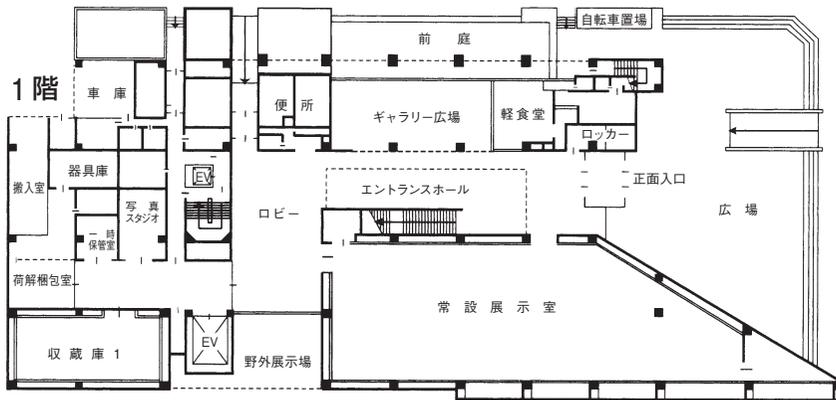
役職	氏 名	職 業 (役職名)
委員長	市川 政憲	茨城県近代美術館長
	北郷 悟	東京藝術大学理事、彫刻科教授
	小勝 禮子	栃木県立美術館技幹兼学芸課長
副委員長	清水 真砂	世田谷美術館学芸部長
	谷 新	宇都宮美術館長

C. 職員名簿

平成25年4月1日現在

	職 名	氏 名
	館 長	佐々木 吉 晴
	副 館 長	平 野 明 彦
《庶務課》	主 幹(兼) 課 長	藤 田 裕美子
○庶務係	係 長(兼)	藤 田 裕美子
	主 査	勝 沼 直 美
	事 務 主 任	鈴 木 浩 美
《学芸課》	課 長	杉 浦 友 治
○学芸係	係 長(兼)	杉 浦 友 治
	主 任 学 芸 員	秋 葉 啓 子
○普及係	係 長	石 川 百 合 子
	主 任 学 芸 員	植 田 玲 子
	学 芸 員	江 尻 英 貴
	学芸員(再任用)	堀 越 達 雄

平面図



管 理 ・ 運 営
利 用 案 内

●開館時間

午前9時30分～午後5時（展示室への入場は午後4時30分まで）

7、8月の毎週金曜日は、夜8時まで開館。（展示室への入場は午後7時30分まで）

●休館日

毎週月曜日（ただし月曜日が祝日等の場合は開館し、翌日休館）

年末年始（12月28日～1月4日）

●観覧料

	常設展	企画展（その都度定める）
一 般	210円（160円）	1,500円（1,200円）以内
高・高専・大学生	140円（110円）	740円（590円）以内
小・中学生	70円（50円）	440円（350円）以内

※（ ）内は、20名以上の団体割引料金です。
※企画展チケットで常設展もご覧になれます。
※国民の祝日は、常設展の観覧が無料です。

●企画展・常設展が無料になる場合

- ・市内在住の65歳以上の方
- ・身体障がい者手帳、精神障がい者保健福祉手帳のいずれかをお持ちの方
- ・市内の小学校、中学校、高等学校、専修学校、高等専門学校に在学の方（但し、土曜日、日曜日に限る）

●図書室の利用時間

午前9時30分～午後5時

7月、8月の毎週金曜日は夜8時まで

●実技講習室の利用時間

午前9時30分～午後4時45分

7月、8月の毎週金曜日は夜7時45分まで

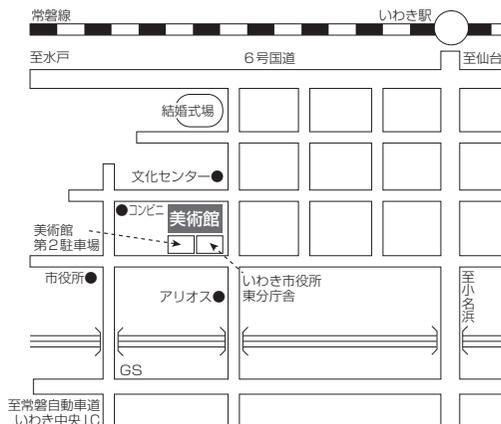
●交 通

J R常磐線、磐越東線いわき駅より徒歩12分

常磐自動車道、磐越自動車道いわき中央ICより10分

駐車場：美術館駐車場、他 いわき市公共駐車場

●地 図



東日本大震災により休館や企画展示の中止を余儀なくされた期間は、美術館の存在意義や活動の目的について、各々再考する時期ともなった。

そんな中での4月30日の再オープン以降、市外へ避難した市民も多く、また、外出を控える傾向も助長されたため、めっきり減少した来館者の中に、遠く福島や郡山から毎週のように訪れる小さな子ども連れの家族の姿が増えていった。みな少しでも放射線量の低い地域で子どもを遊ばせたいと願ってのことだった。

いわき市内でも、小中学校は再開したものの、長期間、屋外活動は自粛され、通学時には、揃って肌の露出を避ける衣服にマスク、水筒を持参する子どもたちの姿があった。

当館では、開館以来さまざまな事業で縁のあったアーティストや美術関係者より安否を気遣う声や支援を得ることとなり、その援助や助言によって、今、美術館には何ができるのかを見出すヒントを示唆していただくこととなった。

復興支援活動とアウトリーチ事業

23年度

みんなで元気になるアート・ワークショップ・キャラバン

開催期間：2011年6月4日～2012年3月31日

当館への支援を申し出てくださったアーティストの協力を得て、アートによる復興支援事業を美術館を軸に開催。また、要望のあった市内の学校へ出向いてアート・ワークショップやパフォーマンスを開催。手や身体を動かしたり、手触りの良い素材や色彩に触れ、何かに没頭することでストレスの緩和や楽しい時間を提供する内容を心がけた。

【主な内容】

● 「ハートマーク・ビューイング」参加

2011年6月4日～10月16日 1階ロビー

※「ハートマーク・ビューイング」は、アーティスト日比野克彦の発案で東日本大震災被災地支援のために実施されたプロジェクト。ロビーに端切れや裁縫セットを準備し、本プロジェクトの趣旨説明をしながら自由にパッチワーク制作を楽しんでもらう。出来上がったパーツは、被災地に贈る、美術館に展示する、持ち帰るのいずれかの選択に従い大型タペストリーに縫い合わされた。

・会期中に制作された個人作品：481枚

↳ハートマーク・プロジェクト実行委員会を通じて被災地支援に提供された作品：

大型タペストリー 3点

↳美術館に展示された作品：大型タペストリー 4点

・市内幼稚園、保育所、小・中学校、避難所全11施設からの賛助作品：

タペストリー 21点

● 「カラーセラピーぬりえ」コーナー設置

2011年6月4日～10月16日 1階ロビー

※「カラーセラピーぬりえ」は、アート・セラピスト末永蒼生創設によるアート&セラピー協会「東日本支援クレヨンネット」提供の心のケアにつかえるオリジナルぬりえ15種を末永氏の助言により活用。水性クレヨン、色鉛筆、マーカー、水彩絵の具などといっしょにぬりえや画用紙を設置し自由に楽しんでもらうもの。基本持ち帰りとしたが、自然発生的に壁面展示が始まり、徐々に自由画



やメッセージの入ったものが増えていった。

- ・会場利用者数：1,457人
- ・カラーセラピーぬりえ等の掲示点数：403点

●「アート&セラピー協会 東日本支援クレヨンネット」による色遊びコーナー

- 第1回 2011年7月2～3日 午前11時～午後4時
- 第2回 2011年8月15～16日 午前10時30分～午後3時30分
- 第3回 2011年10月5日 午前10時～午後3時
- 第4回 2012年3月25日 午前10時～午後3時30分

いずれも美術館ロビーで開催

※被災地の子どものケアに当たるアートセラピストを中心としたボランティア集団による色遊びのコーナー。ほぼ1か月に1回設置し定期的に来館者の状況を把握しながらのびのびと粘土や色遊びを楽しんでもらう場を設置。カラーセラピーぬりえの状況から定期的に市民の心の推移も観察した。

- ・総参加者数：240人

●「丹波純のよく飛ぶ紙ヒコーキ」

- 2011年8月27日 午前10時30分～12時／午後1時30分～3時
- 美術館ロビーおよび中央公園

講師：丹波 純（工学博士／紙飛行機日本チャンピオン）

※2種類の紙ヒコーキ作りや「揚力」、「浮力」の実験、的あてゲームなどを楽しむ。震災後敬遠されていた屋外での活動も実施。

- ・総参加者：32人

●末永蒼生による「大人のためのカラーセラピー講座」

- 第1回 2011年10月1日 午前10時30分～12時30分 セミナー室
 - 第2回 2012年3月25日 午前10時30分～12時30分 企画展示室2
- 講師：末永蒼生（アートセラピスト）

※阪神淡路大震災以降、美術を通した子どもたちの心のケア活動続けている経験を踏まえ、いわきの現状とこれからのケアの仕方など、深刻な状況に立ち向かっている大人たちを対象とした実践的なアートセラピー講座を開講。

- ・総参加者数：59人

●「カナヒヒロミのおふとんアート・ワークショップ」

- 第1回 2011年11月19～20日
- 第2回 2011年12月3～4日
- 第3回 2012年1月7～8日
- 第4回 2012年2月4～5日
- 第5回 2012年3月17～18日

美術館ロビー／会議室

講師：カナヒヒロミ（造形作家）

※「おふとんアート」とは、造形作家カナヒヒロミが取り組むアート作品で、色とりどりで質感もさまざまな布地やビーズ、レース、毛糸、モールなどからなり、中に綿などを仕込むことでおふとん様の立体感や弾力性、柔軟性が特徴。

今回は、2012年4月に開催が決定した橋爪功復興支援朗読会のための舞台美術をテーマに実施。

- ・テーマ：朗読会参加者に配布する「木の葉のクッション」300個制作



- ・開催日数：10日
- ・のべ参加人数：58人

●復興支援コンサート「姜泰煥ソロ・コンサート“山河を鎮魂する”」

2011年9月15日 午後6時30分～7時30分 1階ロビー

演奏：姜 泰煥（サクソ奏者）

※循環呼吸奏法の先駆者であり親日家でもあるサクソ奏者による支援コンサート。

- ・参加者：80人

●復興支援コンサート「糸の森の中で…“いのち”へ響くコンサート」

2012年3月31日 企画展示室2

出演：水島一江、篠原もとこ、KIKU（スタジオ・イヴ／ストリングラフィ）

森 絵留、緑川こころ（盛名劇団かもめ／パフォーマンス）

※ストリングラフィとは、水島一江考案による糸電話の原理を応用した大型弦楽器。スタジオ・イブとかかわりの深い盛名劇団かもめは、いわきを拠点に活動する演劇集団であり、震災で自らのスタジオも大きな被害を受けながら復興支援活動に尽力。本コンサートもいわき市民への応援メッセージとして実施された。

●希望学校での館外事業 「声のワークショップ」

2011年7月8日 午前10時25分～12時 いわき市立中央台東小学校

講師：森 絵留、緑川こころ（盛名劇団かもめ）

※専門的技術に基づく発声法を体験しながら声を出すことによる心の解放とケアを目指した発声ワークショップ。

- ・参加者：いわき市中央台東小学校3年生67人

●希望学校での館外事業 「丹波純のよく飛ぶ紙ヒコーキ」

2011年8月26日 午前10時30分～11時15分 いわき市立四倉小学校

午後1時30分～3時 いわき市立中央台南小学校

双葉郡広野町立広野小学校（一時避難）

講師：丹波純（工学博士／紙飛行機日本チャンピオン）

※紙ヒコーキの折り方を教わりながら、よく飛ぶヒコーキのコツを学び、実際に体育館で飛ばして遊ぶ。津波被害にあった学校、原発事故の一時避難受入をする学校からの希望を受けて実施。

- ・総参加者 104人

24年度

みんなで元気になるアートのひろば

開催期間：パートⅠ 2012年4月1日～4月22日

パートⅡ 2012年6月23日～7月8日

23年度に引き続き、手や体を動かしながら朗らかな気分になれるワークショップやパフォーマンスを通して、市民の前向きになろうとする気持ちを後押しする目的で開催。展示とワークショップの2段階とし、23年度の活動報告展示や「ハートマーク・ヴェーイング」作品の公開とともに、ワークショップ参加者の作品も講師の指導のもと展示室に展示して公開した。

【主な内容】

●カセットプラント・ファクトリー～子どもの方舟・いのちをかながえる2

オープンワークショップ 2012年4月1日～22日 2階ロビー

レクチャー&ワークショップ 2012年4月22日 2階ロビー



アドバイザー：山口啓介（美術家）／山口作子（カセットプラントファクトリー事務局）

総参加者数：282人

●織るって楽しい！織ってつなげて立体作品をつくろう

2012年4月7～8日 企画展示室2

講師：織田千代（造形作家）

参加者：11人

●はりこのブタがあなたの情報を発信する

2012年4月7～8日 企画展示室2／2階ロビー

講師：山本伸樹（美術家）

参加者：22人

●末永蒼生の色彩心理学入門②

～クレヨン・水彩・パステル・色鉛筆～画材は心のビタミン

2012年4月14～15日 セミナー室

講師：大村朋子（アートセラピスト）／馬目佳世子（アートセラピスト）

参加者：20人

●末永蒼生の色彩心理学入門③

～色を使ったセルフセラピー～自分でできる心の養生法

2012年7月1日 企画展示室2

講師：末永蒼生（アートセラピスト）

参加者：26人

●声とことばのワークショップ（一般向け）

「声を出してできる脳ストレッチ～宮沢賢治を朗読する～に挑戦」

2012年4月14日、15日、21日、5月19日、20日、26日 企画展示室2／セミナー室

発表：2012年5月27日 2階ロビー

講師：森 絵留（演出家・盛名劇団かもめ主宰）

参加者：のべ100人

●声とことばのワークショップ（幼児向け）

「脳を育てる“ことばあそび” にほんごはた・の・し・い・な！」

2012年4月15日、5月20日、6月10日、6月24日 企画展示室／会議室

発表：2012年7月8日 企画展示室2

講師：森 絵留（演出家・盛名劇団かもめ主宰）

参加者：27人

●手仕事しながらおしゃべりしましょう！① 「アイヌ刺繍を楽しもう」

2012年4月12～13日 企画展示室2

講師：菅沼えみ（アイヌ刺繍作家）

参加者：6人

●手仕事しながらおしゃべりしましょう！② 「羊毛フェルトを楽しもう！」

2012年4月12～13日 企画展示室2

講師：ロビンソン久美（手織り作家）

参加者：8人

●カメラで写す心模様

昼コース：2012年6月23日、30日、7月7日 セミナー／屋外

夜コース：2012年6月23日、29日、30日、7月6日、7日 セミナー室／屋外

講師：丹 英直（写真家）

総参加者：14人

- 神谷哲史の神業折り紙体験—どこまでついて行けるかな？

2012年6月24日 午前10時～12時／午後2時～4時 企画展示室2

講師：神谷哲史（折り紙作家）

総参加者：37人

- 体と心の緊張をほぐすリラックス体験ワークショップ

2012年7月7日 企画展示室2

講師：海老名悠希（臨床心理士兼臨床動作士）／大澤まゆみ（ゆる体操正指導員）

協力：いわきストレスマネジメント研究会（かしま病院）

参加者：29人

- 復興応援パフォーマンス「橋爪功が読む 物語の世界」

2012年4月22日 企画展示室2

出演：橋爪功（俳優）、原田大輔（俳優）、湯本第三小学校5、6年生有志

美術：カナイヒロミ（造形作家）、カナイヒロミのおふとんアート・ワークショップ参加者

内容：『大きな木』シェル・シルヴァスタイン作／本田喜一訳

『関節話法』筒井康隆作

参加者：320人

- 復興応援パフォーマンス「芸能山城組レクチャー&コンサート～バリ島の音楽体験」

2012年7月1日 企画展示室2

出演：芸能山城組（マルチ音楽集団）

内容：バリ島の音楽のレクチャー、ガムラン演奏と踊り、ケチャ・ワークショップ

- 活動報告 『みんなで元気になるアートのひろば 活動報告書』

A4版 カラー 28ページ 300部

「いわき市立美術館ワークショップ&コンサート みんなで元気になるアートのひろば」

DVD 約2時間22分 300部

アウトリーチ事業の拡大と美術館のあり方への試行

25年度

みんなで元気になるアート・キャラバン2

開催期間：2013年9月17日～2014年3月31日

空気調和設備改修工事による長期休館を活用し、これまで以上に館外での活動を活発化し、美術館活動への興味促進とアートを通じた心身の活性化、平安化を目指す事業展開を計画、実施した。事業内容は、「アート・キャラバン」、「アートのひろば」での実績を下敷きに、より単発でも親しみやすく、楽しみながら芸術文化を理解できるプログラムに心がけた。実施方法は、市内の教育機関や福祉施設、文化施設等に配布し、リクエストを受けて希望者の指定する施設へ赴いて事業展開するもの。外部講師および美術館スタッフが講座を持ち、対象の年齢や嗜好などを考慮しながら、その都度内容の難易度などを考慮しながら実施した。実施内容の詳細は、本年報P26～27参照。

年度途中からの募集ということもあり、初期の反応は鈍く、外部講師を準備した講座も希望会場との折り合いがつかないケースが多発し、募集方法の改善が必至となった。

その中で、講師との調整や夏休み期間に実施したいとの理由で休館前から実施の希望が上がった事業については、本事業のPRも兼ね「みんなで元気になるアート・キャラバン2 プレ・ワークショップ」として開催し休館中の利用を呼びかけた。

希望者は、主に公民館の高齢者学級や市民講座、中学校、高等学校の美術部あるいは特別支援学級、私立の幼稚園、社会復帰支援施設や学童施設といった社会福祉関連団体など、比較的美術館活動となじみの

ある施設と当初は把握したが、実際には、参加者を美術館まで引率して活用を図ることが経済的・物理的に困難な状況を抱えていることが徐々に見えてきた。特に、津波被害が大きかった地域の公民館の高齢者学級は、多くが仮設住宅などに避難を余儀なくされており、自力で移動が困難な高齢者は、月に1度集まるにも区の代表が自家用車で送迎するような状況で、参加者がとても喜んでワークショップに興じてくれた裏には、並々ならぬ関係者の苦勞がうかがえた。

美術館の休館は、年度をまたいで26年11月まで継続するため、アート・キャラバン事業も第3弾として26年度に継続。新プログラムを加え、より早い段階から募集を開始したことが功を奏し、予想を大幅に上まわる希望が入った。美術館より車で片道1時間という遠距離にある公民館や障がい者施設、老人福祉施設、私立の学童保育施設からの希望が増加した。また、国際交流事業や姉妹都市交流事業としても活用希望がでるなど、アート・キャラバン事業の認知度が上がり、興味や需要が拡大していることが実感される。

東日本大震災より3年近くが過ぎ、もはや復旧復興という段階でもあるまいという気運も高まってきたが、実際には、遅々として目に見えない回復や改善に心身の疲労度の度合いは下がる様子を見せない。殊に、福島第一原発事故後の経過は、避難を余儀なくされた人々ばかりか避難者の受入先となったいわき市民の心にも少なからぬ影を落としている。命の、生活の基盤が足元から揺さぶられ、必死でバランスを保とうと緊張を強いられた長い3年である。もはや、美術館や芸術文化など念頭に浮かばない必死の3年だったことだろう。

しかし、アート・キャラバンは、そんな状況の中でも、好奇心が強く、遊び心が豊かで、少しでも行動し他人と関わって、笑顔で話せる、声を上げて笑える市民を目の当たりにすることができ、我々自身がアートの魅力を実感する機会ともなった。

かつて美術館が開館した当時は、いわき市は、豊かな自然と平穏な日常にあふれ、美術館の必要性を感じないことも理解ができた。しかし、ひとたびその平穏が脅かされた時でも、アートがずっと人間の心のよりどころであったことを、今回、大いに具体的に体感できたことは不幸中の幸いかもしれない。“人に寄り添うアート”のあり方を、さらに積極的に調査研究し、市民の中に運び込む活動の実践を今後も検討できればよいと考える。

平成25年度
いわき市立美術館年報

編集・発行
いわき市立美術館
〒970-8026 いわき市平字堂根町4-4

